

第4章

生産・生業用具



■秋始末のようす 「四季農耕図屏風」より

●生産・生業用具

さまざまな冬仕事

秋の取入れが済むころには雪が降る。それまでに、野菜や雑穀類の始末はどうか終わっても、稲扱き(脱穀)まではとても手が回らない。刈取った稲は庭先に稲二オにして積んでおき、後で家に運び入れてから始末した。

稲の脱穀には、古い時代はコキバシという2本の棒で作ったものを使ったというが、その後もつばら干歯(せんば)が使われ、昭和初年ごろ回転式稲扱機が普及するまで続いていた。稲始末は正月までに終るものとされていたし、十日町近郊農家では、節季市での販売品を作るのに忙しい時でもあった。あい暦の二月正月が遅くまで続いていた

のは、稲始末に手間取ったためだといわれている。

正月を過ぎて、脱穀した米の処理作業はまだまだ続くし、さまざまな冬仕事、来春の農作業に備える準備もあれば、家事・家族の使用するものも作らねばならない。その大事な時間を降積んで止まない雪が容赦なく奪う。

現金収入を講じるための生産活動は、さらにこうした中から時を割いて行うことになる。雪にとじ込められ、それに左右される生活であったが、その中で不屈な働きによって越後縮(ちぢみ)が生まれ、織物産地を育てることもできたのであった。以下、各項目を見ることにする。

農家の作業暦 市内太子堂 若井八郎右衛門家 「作業暦」より抜粋

昭和5年 9月		
26	曇	ハッテ拵(ごしら)い・屋敷田の稲刈り
27	晴	ハッテ拵い・稲刈り・ニオ笠取り
28	晴のち大雨	入山から干草取り
29	雨	石臼の目切り・芋穴掘り・草刈り
30	曇	石臼の目切り・ハッテ拵い・大坪で稲刈り
10月		
1	晴	稲刈り
2	曇	アタリ仕事・ハッテ造り・縄ない
3	雨のち曇	家仕事・ハッテ拵い・米摺り
4	曇	畑仕事・ハッテ拵い
5	曇	牛の肥出し・上嶋の稲刈り
6	曇のち晴	上嶋で稲刈り
7	晴	稲刈り・ハッテ拵い・島の稲刈り
8	晴	嶋の新開・浦田の稲刈り・稲上げ
9	晴	深田の稲刈り
10	晴	深田の稲刈り
11	晴	ハッテ拵い・大坪の稲刈り
12	雨のち曇	上嶋で三月菜蒔き・粃とおし・稲こき
13	晴	ハッテ拵い・大坪の稲刈り
14	曇のち晴	大根へ施肥・ハッテ拵い・上嶋の稲刈り
15	晴	大根へ施肥・ハッテ拵い・稲刈り・稲上げ
16	晴	稲こき・稲刈り
17	晴	白挽き・稲上げ・稲刈り
18	曇のち晴	和田の田とシカゲ田の稲刈り
19	晴	米詰め・稲刈り・稲上げ
20	雨	年貢送り・シカゲ田の稲刈り
21	雨のち曇	新開の稲刈り
22	晴	稲こき・稲刈り
23	晴	藁ニオ積み・稲刈り・稲上げ
24	晴	稲刈り・稲上げ・刈上げ
25	曇	稲上げ・稲背負い
26		
27		
28	曇	稲こき・芋穴掘り
29	雨	米調整・夜業餅稲こき・今日の白は大門の岩田式
30	曇	稲こき・藁ニオ積み・蕎麦こき・豆こき
31	雨のち曇	屑始末・白挽き
11月		
1	晴	町へ柿売り、代1円・豆こき・稲ニオ上げ・夜業稲上げ
2	朝迄南風後雨	餅搗き
3	曇	九月九日で休み、犬神様御迎え
4	曇	長芋掘り・銀坊主稲こき
5	曇夕方雨	畑芋取り・稲こき・屑始末
6	曇	三月菜ウロノギ・屑始末・3人で白挽き
7	晴	上嶋からニオ上げ
8	晴	万石掛け・豆落し・稲上げ・新助東京へ行く、路金10円70銭
9	曇風晴	稲ば寄せ・縄払取り
10	曇のち雨	米詰め・俵拵い
11	曇	俵のサヤ掛け・米の検査を受けてとなりの車で年貢送り
12	雨雪拵り	稲こき
13	雨	稲屑始末
14	曇	米拵い
15	雨のち曇	米の調整
16	曇のち雨	米屋で米摺り・豆こき後吠(カマス)片付け
17	雨	漬菜洗い・人参掘り
18	雨	家仕事・製材
19	晴	豆落し
20	曇のち雨	囲いをしたり片づけごと
21	雨	煤はき・餅米とぎ・晩に桶流しのなます切り
22	晴	外片付け・家の煤払い
23	雨	棟上の餅搗き・青年会の桶流し
24	雨	棟上の支度
25	雨のち曇	棟上祝
26	雨のち曇	棟上祝の内儀よび
27	雨	まな板流し
28	雨	祝事の片付け
29	晴	ハッテこわし
30	曇	壁板うち・ニオ入れ
12月		
1	雨	稲こき
2	曇のち雨	稲こき・スジ選り・壁板うち
3	雪	稲こき
4	雪	屑始末・イネが忠左工門に奉公に行く
5	曇	粃あおり・肥出し
6	雨	白挽き・巾着米の調整
7	曇	巾着米の調整
8	晴	ニオ入れ・藁ニオ積み
9	雨	藁すぐり・苗代田打ち
10	晴	藁叩き・縄ない・二人で囲い
11	曇	囲い・米の検査を受けた
12	曇	稲こき・ニオ入れ
13	雨	屑始末
14	雪	藁すぐり・俵編み・粃詰め
15	雪	稲こき・藁ニオ積み
16	雪	屑始末・いがかち
17	曇	ニオ入れ・藁ニオ積み・屑始末・イモジ田のたたき
18	晴	米摺り・藁すぐり・屑始末・粃俵編み・入山へ山年貢1円50銭
19	雨	粃詰め・稲こき
20	曇	粃あおり・白挽き
21	曇	藁叩き・縄ない

22	雪	俵まるけ・稲こき
23	雨	端米量り・屑始末
24	晴	ニオ入れ・臼挽き・今日入上げをした
25	雪	在米の調整・のと白福こき
26	曇	のと白福こき・いがち・歳取魚買い代89銭
27	晴	のと白米の調整
28	曇	福こき・屑米臼挽き・今日こき上げをした
29	雨	在米の調整・夜業俵積み・金50円米の給料入る
30	雪	一日煤はき
31	雪	餅搗き・諸勘定精算

昭和6年 1月

1	晴	年始
2	晴	作業始め
3	雨	作業休み・米の売初め、金12円6銭(中米一俵6円3銭)
4	晴	小手縄ない・藁入札
5	雨	藁すぐり・筵(ムシロ)機具を立てた
6	雨雪ドン寒	縄ない・米出し
7	曇	筵織り
8	曇	筵織り
9	曇	筵織り
10	大吹雪	藁すぐり・兄市へ、筵織り九尺筵三枚、一枚50銭
11	大難風雪	筵織り
12	晴	筵織り
13	雪夜吹雪	筵織り
14	雪	筵織り
15	雪	一日雪掘り・兄市へ行く、金1円35銭市の銭入る
16	晴	藁すぐり・縄ない・筵織り
17	水雪	筵織り
18	—	—
19	—	—
20	雪	藁すぐり・兄一日市へ行く、筵代金2円25銭
21	雪	藁すぐり
22	晴	クツくみ・縄ない・廐肥出し
23	雨	藁仕事
24	水雪	—
25	晴	—
26	雪	石臼挽き
27	雪	石臼挽き・小手縄ない
28	晴	石臼挽き・餅米挽き
29	曇のち雨	石臼挽き・堂宮の雪掘り
30	水雪	餅搗き
31	曇	餅の始末・干草入・小手縄ない・今夜小正月

2月

1	晴	お正月・五月の仕事・20円、米の給料入る
2	雨	父江道へ年始に行く
3	曇	作業休み
4	曇	新年宴会・兄薪木ニオを入れた
5	雨水雪	藁すぐり・小手縄ない
6	水雪	小手縄ない
7	雪	筵織り
8	雪	筵織り
9	雪強寒	藁すぐり・雪掘り・筵織り
10	雪強寒	筵織り
11	曇	筵織り・午後休業、紀元節の祝い
12	晴強寒	筵織り
13	曇強寒	筵織り
14	曇暖	藁すぐり・小手縄ない
15	曇	筵織り
16	曇	筵織り
17	雪	小手縄ない・筵織り
18	雪	小手縄ない・筵織り
19	雪	筵織り
20	雪	小手縄ない・筵合せ
21	曇	筵織り
22	曇	藁すぐり・兄一日青年会の雪掘りで学校へ

23	晴寒	醤油豆炒り・筵合せ
24	雪	筵織り
25	雪	醤油豆煮・筵合せ
26	晴	脛布(ハッパキ)編み
27	曇	脛布編み
28	晴夜吹雪	太縄ない

3月

1	吹雪	左縄ない
2	雪	筵織り
3	晴	筵合せ
4	雪	筵合せ・筵織り
5	曇	石臼挽き・筵織り
6	晴	筵織り
7	雨	筵織り
8	曇	筵織り・筵のじり・藁すぐり
9	晴	石臼挽き・粉餅搗き・味噌豆搾い・釜を借りてきた
10	晴	一日味噌煮・朝2時40分に起床し、二釜煮た
11	晴	肥引橋のスゴ編み・味噌玉包み
12	曇	筵織り
13	曇風	筵織り・並米一俵代6円10銭で九俵、中米一俵代6円48銭一俵
14	晴	肥引き
15	晴	肥引き
16	晴	肥引き
17	曇南風	肥引き
18	曇雨模様	筵織り
19	晴	肥引き・肥引き終る
20	晴後雨模様	筵織り
21	晴	休み・中日の御祝
22	晴	筵織り
23	夜雨	肥山の笠
24	風雪	筵を織ったりのじったり、俵を積んだり・餅搗き買物に
25	晴	米屋で米摺り・家片付け・煤はき
26	曇	八十八祝の支度
27	晴	祖父八十八祝
28	晴	—
29	晴	—
30	晴	祝事の跡片付け・兄役場へ堆肥の賞を貰いに行く
31	晴	祝事の跡片付け・囲いこわし

4月

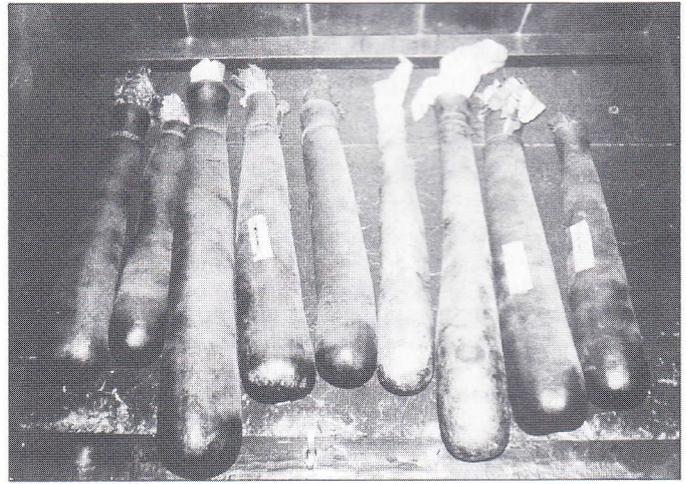
1	曇	石臼挽き・左縄ない
2	曇雨	餅搗き
3	晴	節句休み
4	晴	藁すぐり・兄新田新宅へ石場かち
5	曇雨風	外仕事・三度豆蒔き
6	朝雪午後晴	藁すぐり・藁仕事・米摺り・俵編み
7	雪	藁仕事・俵編み
8	雪	藁叩き・俵編み
9	雨	藁すぐり・藁叩き・俵編み
10	晴	藁仕事・縄ない・俵編み
11	雨	藁仕事・俵編み・縄ない
12	曇	俵編み・甘酒造り
13	晴	—
14	曇	一日味噌搗き・俵編み
15	晴	外仕事・温床作り・杉葉拾い山へ
16	晴	一日山へ薪木集め
17	晴後雨	馬鈴薯蒔き・薪木集め・俵の検査有り
18	雨曇	藁すぐり・薪木集め・背なこうじ作り
19	晴	山へ行く・畑仕事・背なこうじ作り
20	晴	あたり仕事・ねぎ植え・山へ薪集め
21	晴	馬鈴薯植え・薪木集め山へ
22	雨	俵編み・縄ない
23	晴	山で薪集め・縄ない
24	曇南風	山へ薪木集め・スジ洗い・畑仕事
25	曇	堰普講・俵編み

イ 脱穀調整等用具

① 種子物保存用具

来春時^まく作物の種子はすべて自家で採取し、春まで大切に保存するのが農家の常であった。中心作物の水稻の種子(スジ)は、小型に作ったスジダワラに入れておく。これは春、スジ蒔きをする前に、この俵のまま水中に浸すにも便利だった。大豆や小豆などは袋に入れて天井に吊したりしたが、少量の種子を保存するのに最もよく用いられたのは、夕顔の実で作ったフクベであった。

細かい野菜や花ものの種子は主婦や老人が管理したものであり、小袋や紙にそれぞれ包み分けて入っていた。



■フクベを利用した種子物の保存



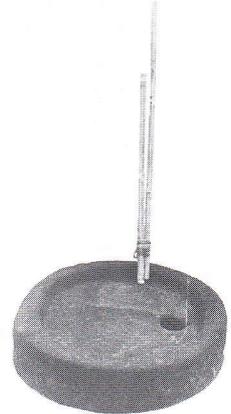
スジダワラ 4-イ-1
径14.7cm 長さ62.9cm
藁 種子籾保存用小型俵



タネモノカゴ 4-イ-21
口径24cm 高さ34.5cm
竹 種子物保存用籠



フクロ 4-イ-4
長さ30cm 底13.5×12.2cm
木綿 大豆・小豆等種子物保存用袋



コキバシ 4-イ-26
長さ46.5cm 太さ0.9cm
竹 雑穀等脱粒用扱箸
(石臼は扱箸固定用)



タネモノイレ 4-イ-23
長さ58.3cm 幅47cm
山竹・和紙 種子物保存用(ザル利用)



オトシボウ 4-イ-27
長さ147.4cm 太さ3.7cm 908g(1本)
リョウブ 雑穀等脱粒用叩き棒



マメオトシボウ 4-イ-32
全長38.5cm 365g
リョウブ 雑穀等脱粒用叩き棒(槌型)



マメオトシボウ 4-イ-30
全長104.2cm 1,730g
ケヤキ 雑穀等脱粒用叩き棒(槌型)



フクベ 4-イ-14
長さ67.5cm 口径4.6cm
夕顔瓢 種子物保存容器



フクベ 4-イ-12
長さ114cm 口径8cm
夕顔瓢 種子物保存容器



フクベ 4-イ-18
長さ72cm 口径7.3cm
夕顔瓢 種子物保存容器



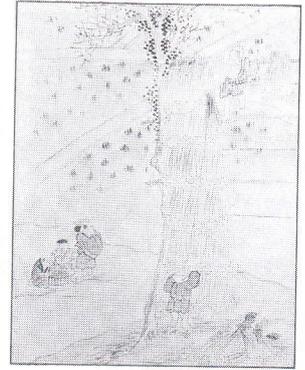
フクベ 4-イ-8
長さ65cm 口径7cm
夕顔瓢 種子物保存容器

稲刈り

はぎ 稲架干し・稲上げ

秋
始
末
の
流
れ

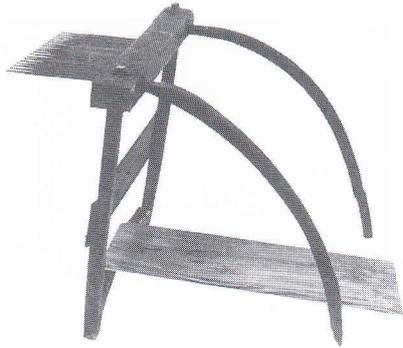
刈取った稲は、
稲架干しや地干し
をして乾燥させ、
一旦ニオに積み、
少しずつ脱穀して
いく。



② 脱穀調整用具

稲穂から落した実が^{もみ}籾であり、これを^す籾摺り臼で挽いて^{だつこちようせい}籾殻を除くと、^{うるち}玄米となる。この作業が脱穀調整で、これをさらに臼と杵で搗いて^{うるち}白米にし、^{いね}飯米とする。米（玄米または籾）は、俵に詰めてから出荷した。

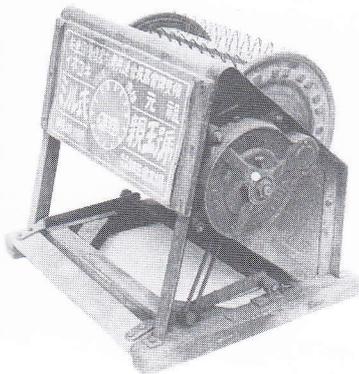
雑穀類の脱穀は主に落し棒を、^{せんぼ}稲には千歯などを用いたが、古い品種の稲についた^{のげ}ノゲを落すにはイガカチで打った。籾摺り臼は、木に刻み目をつけたものから後には^{とうす}土臼が主流となった。籾の選別は古くは^{あみ}箕で行なっていたが後に^{とうす}唐箕に、米の選別は^{こめどお}米通しから^{まんごく}万石になった。



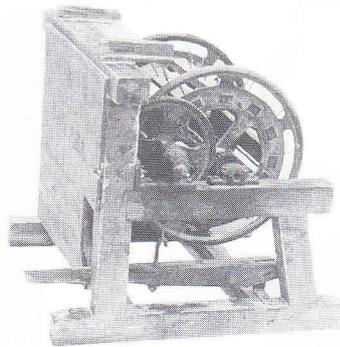
センバ 4-イ-34
高さ60.6cm 幅60cm
鉄・杉 稲脱粒用具 千歯



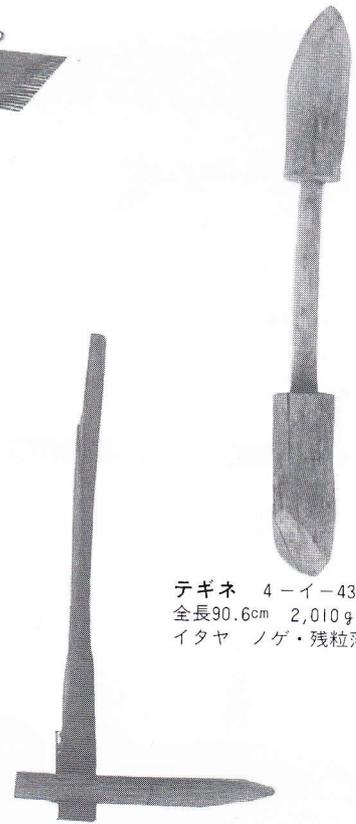
センバ 4-イ-37
高さ58.7cm 幅61cm
鉄・杉 稲脱粒用具 千歯



イネコキキ 4-イ-38
高さ64.5cm 幅67.5cm
鉄・その他 稲脱粒用具 足踏回転式稲扱機



イネコキキ 4-イ-39
高さ64.7cm 幅75cm
鉄・その他 稲脱粒用具 足踏回転式稲扱機

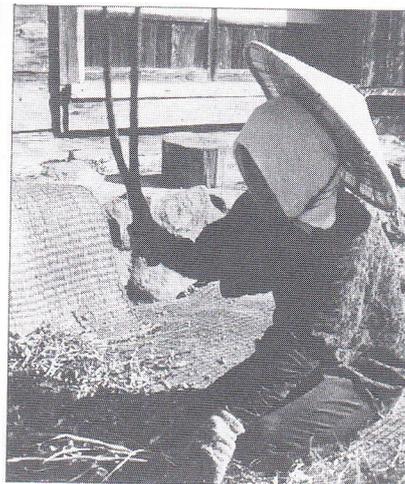


テギネ 4-イ-43
全長90.6cm 2,010g
イタヤ ノゲ・残粒落し用堅杵

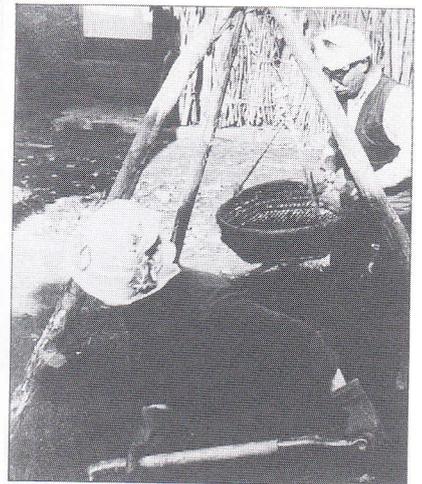
イガカチ 4-イ-41
全長92cm 2,610g
ヤマボウシ・ブナ ノゲ・残粒落し用杵



■ヨコヅチによる粟の脱粒



■大豆の脱粒



■マメドオシによる選別

稲ニオ積み・稲ニオ上げ



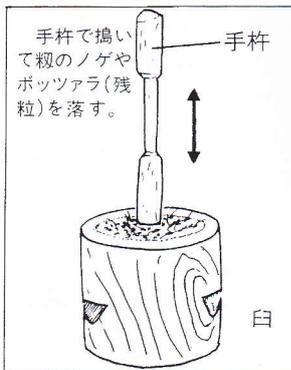
稲ニオ

稲 扱 き

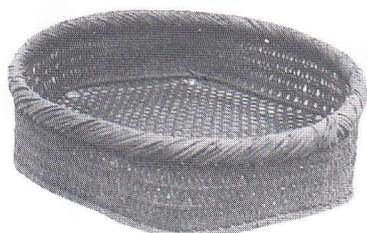
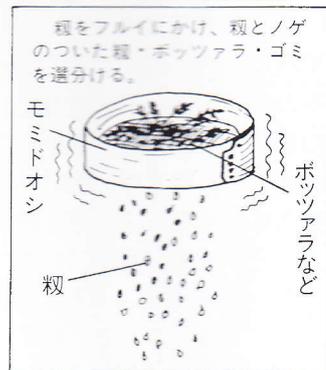


千歯による脱粒

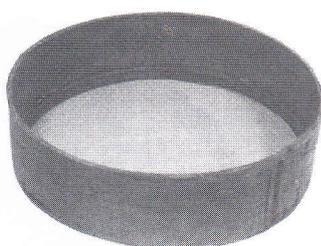
ノゲ・ポツツアラ落し



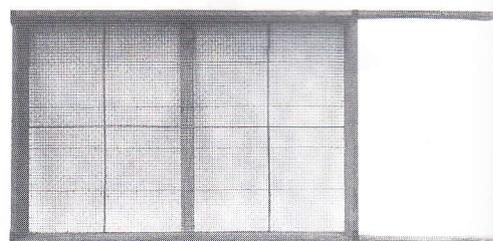
籾の選別



マメドオシ 4-イ-54
口径62cm 高さ16.3cm
竹 籾選別用



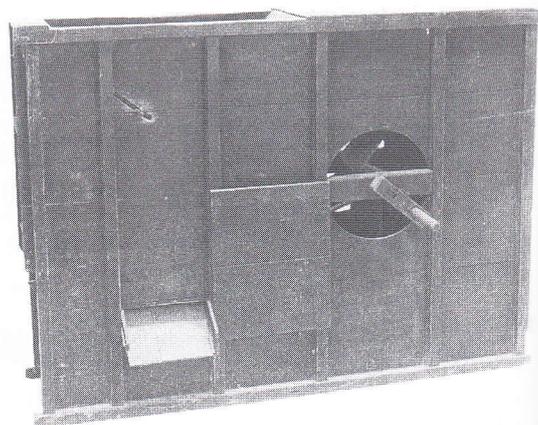
モミドオシ 4-イ-56
径37cm 高さ10cm
サワラ 籾選別用



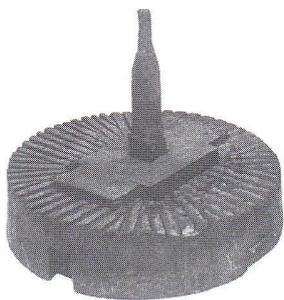
モミフルイ 4-イ-55
全長121.8cm 幅56cm
杉・金網 籾選別用



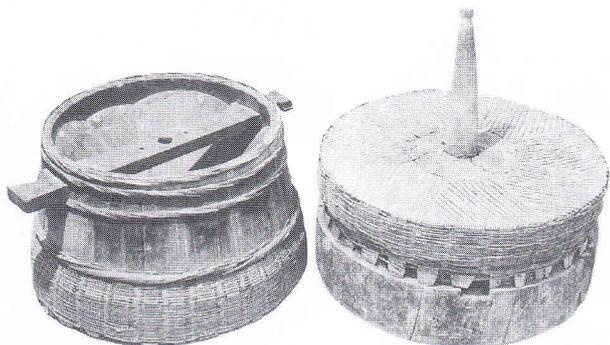
ヤリギ 4-イ-64
全長155.3cm 5,760g
杉 籾摺り用(土臼を回転させる把手)



トウミ 4-イ-68
高さ99.7cm 長さ137.7cm 5枚羽
杉・朴 米選別用 唐箕



ドウス 4-イ-57
全高43.8cm 口径59.5cm
杉・竹・ブナ(下臼台部分) 籾摺り用土臼



ドウス 4-イ-59
全高67.5cm 口径52.5cm
杉・竹・土(歯は栗材の薄板) 籾摺り用土臼



ミ 4-イ-67
長さ55cm 幅56cm
山竹・藤 米選別用

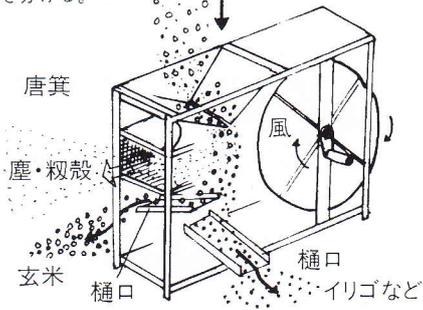
もみ す
粃 摺 り



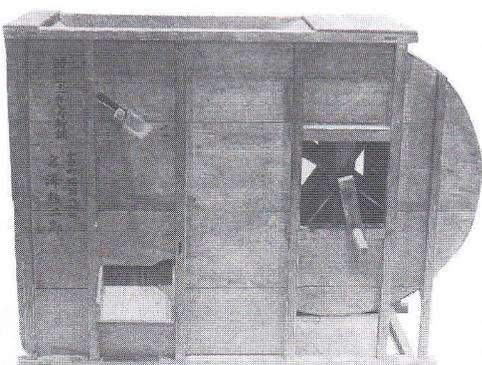
土臼にかけて粃殻を取除く

玄米と粃殻の選別

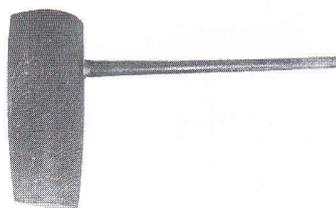
唐箕に入れ羽根を回して風を起し、粃殻と玄米を分ける。



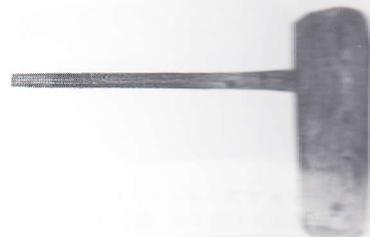
米 搗 き
(精 米)



トウミ 4-イ-70
高さ98.6cm 長さ111cm 4枚羽
杉 米選別用 唐箕(昭和21年製)



コメツキギネ 4-イ-86
全長81.7cm 9,490g
ケヤキ・イタヤ(柄) 米搗き用杵



コメツキギネ 4-イ-87
全長78.8cm 5,155g
杉 米搗き用杵



ツキワ 4-イ-81
径30.2cm 太さ3.6cm
藁 米搗き時の米の飛散防止・循環用



トウミ 4-イ-72
高さ124cm 長さ149.7cm 5枚羽
杉 米選別用 唐箕(大正15年製)



ウス 4-イ-78
口径61cm 高さ47cm
ケヤキ 米搗き臼(餅搗き臼兼用)



ウス 4-イ-79
口径71.3cm 高さ49.5cm
ケヤキ 米搗き臼(餅搗き臼兼用)

マンゴク 4-イ-99
高さ116cm 幅44.2cm
杉 米選別用



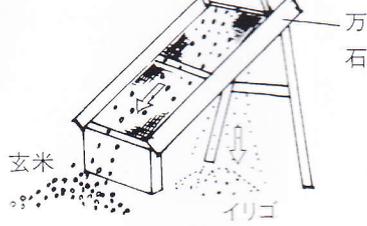
コメドオシ 4-イ-116
口径36.5cm 高さ9.8cm 370g
サワラ・金網 米選別用



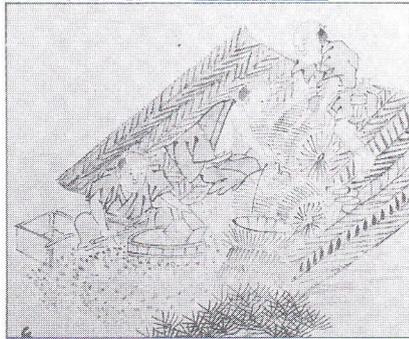
コメドオシ 4-イ-102
口径42cm 高さ8.2cm 605g
山竹・カラムシ・藁 米選別用

玄米とイリゴの選別

万石の網目の細かさを調節して、米の大小やゴミ・砂などを選別する。



計 量・俵 詰 め

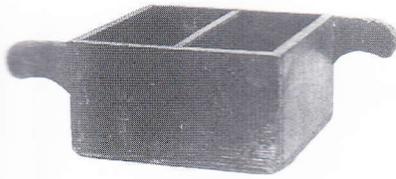


一斗栴で計量し俵に詰める

利 用

稲

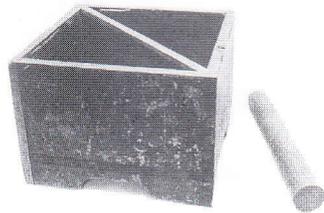
- 藁 ……藁紐工・藁灰・燃料
- 粃 殻 ……燃料・灯火・肥料
- 小 ぬか 糠 ……漬物・飼料・洗顔
- 白(玄)米 ……飯米・売米・小作料
- イリゴ ……食料(アンボ・粉餅)
- シイナ ……飼料
- 種 粃 ……種子用



イットマス 4-イ-117
外枠35.7×35.7cm 高さ19.4cm
杉・鉄 穀類計量具(角型)



イットマス 4-イ-124
口径31.8cm 高さ31.4cm
ヒノキ・鉄 穀類計量具(円筒型)



イットマス 4-イ-123
外枠31.8×31.8cm 高さ25cm
杉・鉄 穀類計量具(角型)



ジョウゴ 4-イ-143
口径52cm 長さ31cm
竹 俵に米を入れる時使用する漏斗



コクモンゴシキ 4-イ-145
全長124.2cm 刃先幅24.7cm 2,750g
ケヤキ樹皮 穀物掬い用具



タワラメドオシ 4-イ-151
全長20.3cm 径2.3cm 25g
竹 俵縫じ用針



テカギ 4-イ-153
全長20cm 115g
鉄・カシ(柄) 俵梱包・運搬用手鉤



テカギ 4-イ-156
全長30.2cm 160g
鉄・木(柄) 俵梱包・運搬用手鉤(改良型)



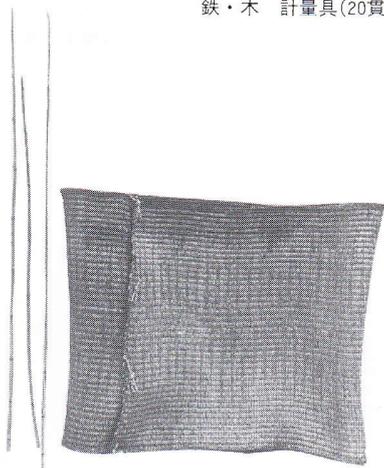
ハカリ 4-イ-130
全長125cm 1,770g
鉄・木 計量具(20貫用)



サシタケ 4-イ-158
全長19.5cm 径3.7cm 50g
竹 米取出し用竹筒



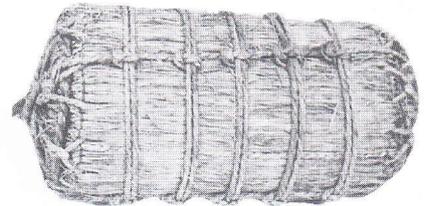
サシタケ 4-イ-160
全長23.5cm 径2.3cm 30g
竹 米取出し用竹筒



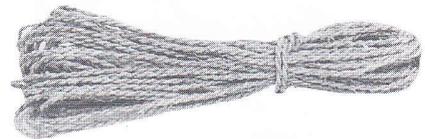
ムシロダテ 4-イ-133
輪幅128cm 高さ83cm
藁・竹 仮設穀物入れ



カマス 4-イ-135
長さ88cm 幅78cm
藁 穀物収納用俵



タワラ 4-イ-137
長さ81.5cm 径40cm
藁 米収納用俵 四斗俵



ナワ 4-イ-144
全長4,850cm 太さ0.8cm
藁 俵結束用藁縄

③ 肥引き・灰土撒き用具

春の彼岸のころになると陽気はすっかり春めいてくるが、風は冷たく雪は厚く残っていて固い。そのために雪上を歩いても足が深く沈まなくなる。この状態は山櫛の使用には最も適しているので、俄然、家ごとに櫛引きがはじまる。肥引き、春木山（別項）の最盛期である。

まず、冬うちに溜まった馬屋肥を自家のそれぞれの田んぼへ運んでおく。これが肥引きだが、その前に堆肥を入れる雪穴を掘る。雪の深さはまだ2mを越えることもある。その穴に、運んでおいた堆肥を落して積み、その

上にコイガサという藁の仮の屋根を掛けておいた。

土撒き・灰撒きというのは、耕地の地面を早く出すために、黒土や灰を撒いて太陽熱を吸収させ、消雪を早めようとする処置である。実際、春の日差しは強いので目に見えてよく消えた。これに使う土は、その近くの雪を掘って畑などから取り、灰は冬のうちに取溜めておいた。

またこの時期、早く植えつけるサツマイモの苗をとるため、堆肥の発酵熱を利用した温床を作った。それはイモダナといい、そこにナスやキュウリの種子と一緒に蒔いて苗を促成することとした。



■肥引き



■イモダナ



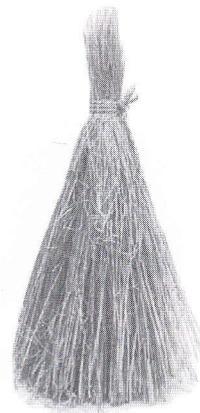
■畑の消雪



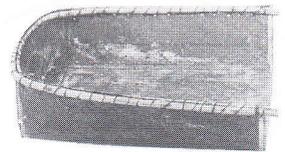
コシキ 4-イ-164
全長99.3cm 刃先幅24.7cm 815g
ブナ 肥穴(雪穴)掘り用具



シャボリ 4-イ-165
全長97.5cm 刃幅22cm 1,715g
鉄・カシ(柄) 肥穴(雪穴)掘り用具



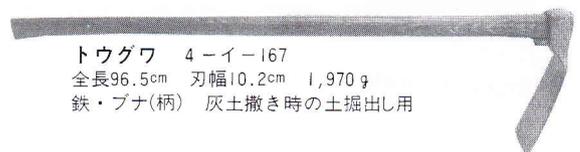
コイガサ 4-イ-166
高さ93cm
藁 肥穴の堆肥覆い用



カナミ 4-イ-171
長さ39.5cm 幅36cm 596g
ブリキ・山竹 灰土等運搬用具



ヒラグワ 4-イ-168
全長111.5cm 刃幅13cm 2,155g
鉄・木(柄) 灰土撒き時の土掘出し用



トウグワ 4-イ-167
全長96.5cm 刃幅10.2cm 1,970g
鉄・ブナ(柄) 灰土撒き時の土掘出し用

④ 牛馬飼育用具

かつての農家にとって、役牛・役馬は大事な働き手であつたので、その扱いは家族の一員のものであつた。玄関の内側に馬屋があり、飼葉桶が吊してあつた。春の田掻き（か）はもっぱら牛馬の力に依つたし、夏には毎日、飼料用・堆肥用の草の草刈りに、秋は稲運びに使役した。

冬は夏場の仕事に備えての保養の時期であつたから、秋に採つたフジツバ（葛の葉）や藁（わら）を刻み、米糠（ぬか）や藪（よもぎ）を混ぜたものを大鍋で煮ては、毎日与えた。中でも牛は肥育も兼ねていたので、濃厚飼料を与えた。



■馬屋のようす（役牛）



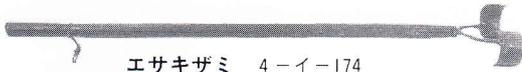
オシキリ 4-イ-172
全長71.5cm 幅13cm
鉄・杉 藁等牛馬飼料裁断用具



カイバオケカギ 4-イ-182
木長さ31cm
自然木 飼葉桶を吊す木鉤



カイバオケ 4-イ-181
口径58cm 高さ29.3cm
杉 牛馬給餌用桶



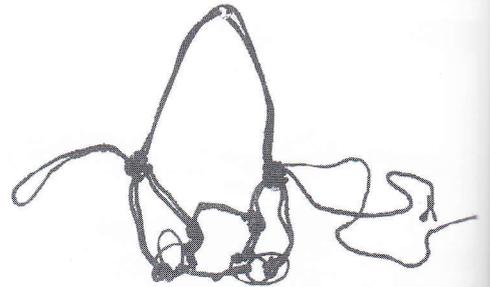
エサキザミ 4-イ-174
全長100.5cm 620g
鉄・木 大根等牛馬飼料突き刻み用具



カイバナベ 4-イ-176
口径48cm 高さ19.7cm
鉄 牛馬飼料煮込み用鉄鍋



ハナカン 4-イ-185
径7.9cm 70g
真鍮 牛用鼻輪



オモツナ 4-イ-183
クツワ径6.7cm 355g
鉄・藁縄 馬用面綱



タツナ 4-イ-186
金具長さ11.1cm 縄長さ406cm 350g
鉄・藁縄 馬用手綱



スマブクロ 4-イ-178
長さ99cm 幅71.8cm
木綿 糠等を入れる藪袋



コエカギ 4-イ-188
全長111.5cm 刃幅13.6cm 1,195g
鉄・ブナ(柄) 堆肥引出し用鉤

⑤ 横穴開削用具

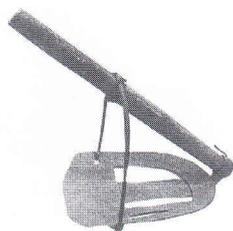
横穴開削は、冬季の農閑期利用の作業であり、主として水田の用水を導くための工事であった。山谷の多い地形では、近くに水源があっても、そこから水路を拓くにはさまざまな困難がある。その点、横穴だと直線的に引けるし、水路の安全も確保できる。とはいっても、これは大変辛苦の要る作業で、狭い横穴を掘っていくわけだから、暗い中で終始中腰で行う重労働となる。

下の写真を見ると、掘削に使うツルハシにしても、ジョリン（鋤簾）にしても、柄を短く切詰められている。

これは、狭い穴の中での中腰の仕事のため、道具を大きく振ることができないことによる。掘った土を運ぶズリ箱の箱の下には、櫓のような2枚の滑り板が取り付けられているが、この板は両端が櫓の鼻のように反っている。これは、一筋の櫓道を往復そのまま引ける工夫であり、上の肩縄（引綱）に取りつけた鉤を前後に掛けかえて引くのである。灯火用具は、奥に掘進んだ時の照明に用いた。また、右下のファイゴは、石が出てきた時に使うタガネの刃の摩滅を修繕する際など、急場で用いるための用意に備えたものである。



ツルハシ 4-イ-190
全長54.5cm 1,555g
鉄・ブナ(柄) 横穴開削用土掘り具



ジョリン 4-イ-192
全長45cm 1,280g
鉄・杉(柄) 土砂掘り用鋤簾



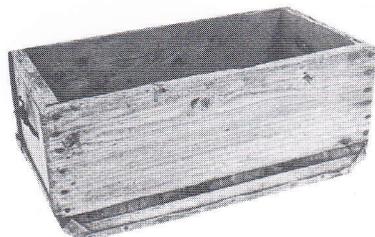
カタナワ 4-イ-196
鉤部長さ29.8cm 縄長さ102cm 230g
自然木・藁縄 ズリ箱用引綱



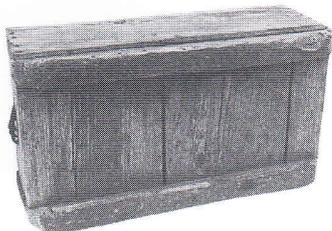
アカリ 4-イ-197
径7.7cm 高さ5.4cm
ブリキ 横穴用灯火(石油使用)



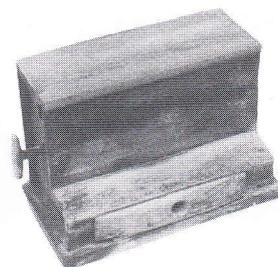
アカリ 4-イ-199
高さ14.6cm
金属製 横穴用灯火(カーバイド使用)



ズリバコ 4-イ-193
58×31cm 高さ24cm 5,660g
杉・鉄板 土砂運搬用箱籠



ズリバコ 4-イ-194
57.8×31cm 高さ24.3cm 5,390g
杉・鉄板 土砂運搬用箱籠(底部)



ファイゴ 4-イ-200
42.5×22.5cm 高さ28.5cm
杉 横穴開削用具の補修用ファイゴ

一年の中の冬仕事

雪国の人々が冬の仕事を考える場合、内容的に二つの気持ちが働いているようだ。その一つは、毎日降積もる雪への対応と、その雪にとじ込められた中で、し残した稲始末を片付けたり、春からの農耕に必要なものや家族たちが日常に使う用具類の作製などであって、これらは自家の生活維持のための基本的な仕事である。

もう一つの「冬仕事」は、夏場の会話によく出る「いまは忙しいから冬仕事にでも…」という場合である。特に農家の場合は、土が見えているうちは仕事に追われる日々が続くのであり、要するに積雪期は田畑仕事のでき

ない農閑期で暇も見出せる、というわけだ。

たとえば女性であれば、夏場では気にしながらも手のつかない衣類の繕いや仕立直し、子供の着物の調えなどがこの時期に集中する。男性の場合も同様だが、この中に出てくる横穴開削などは、この好例といえる。

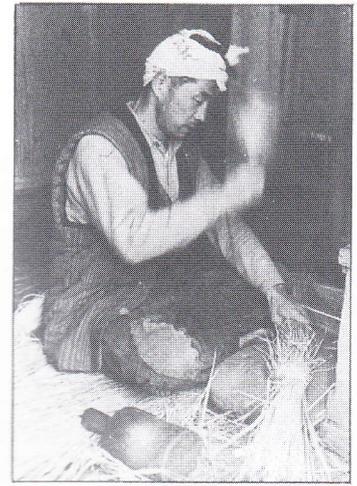
営農の研究や、時には趣味・娯楽などもこの余暇をねらうことになるが、換金できる副業的な仕事に関心の高まるのもこの時期で、その意味で顕著な事例は、かつて盛況を極めた越後縮の生産があげられる。また、冬働き（出稼ぎ）なども形を変えた冬仕事の一つと言えよう。

口 手仕事用具

① 藁等細工用具・製品

藁細工をするに際し、どの場合にも共通してまず行うのが、ワラスグリといって藁の下葉（ハカマ）を掻き取る作業である。これに使う同名の用具は、人の手・指をそのまま置換えた形に作られている。次に、これも一部のものを以外、必ずするのが、使う藁を柔軟な繊維にするためのワラタタキ（藁打ち）である。これにはジョーパイシという台石とヨコヅチを使うが、これらは各家の土間に備えてあった。他に共通した小道具は、切断用刃物・目通しの類であるが、その他は製品によってそれぞれに必要な工具が用意されている（次頁以下参照）。

製品については写真によって示すが、これらの中にスゲ・ガマなどの素材の製品が含まれているのは、同質の手仕事であり、工具も類似しているからである。



■ 藁叩き

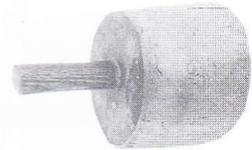
〔藁すくり・調整用〕



ワラスグリ 4-ロー-2
全長24.1cm 110g
ヒノキ 藁すくり用(又木型)



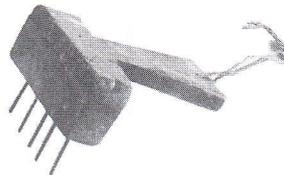
ワラスグリ 4-ロー-3
全長21.2cm 46g
カエデ 藁すくり用(又木型)



ヨコヅチ 4-ロー-18
全長26.6cm 径16.7cm 2,162g
ヤマボウシ 藁叩き用槌



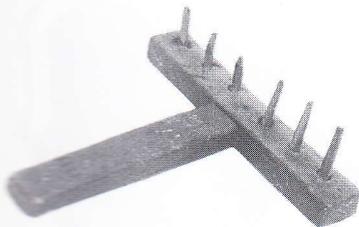
ワラスグリ 4-ロー-4
全長23.6cm 170g
イタヤ 藁すくり用(手の平型)



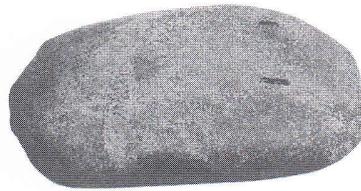
ワラスグリ 4-ロー-10
全長14.2cm 92g
桐・鉄釘 藁すくり(熊手型)



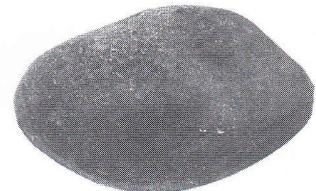
ヨコヅチ 4-ロー-26
全長31cm 径16.7cm 3,213g
ヤマボウシ 藁叩き用槌



ワラスグリ 4-ロー-8
全長19.5cm 113g
イタヤ 藁すくり(熊手型)



ジョウパイシ 4-ロー-16
60×35cm
自然石 藁叩き用台石



ジョウパイシ 4-ロー-15
55×34cm
自然石 藁叩き用台石

ワラの利用

かつて農家での藁（稲藁）の利用は極めて多彩で、その製品名や使用場面は枚挙にいとまが無いほどで、本図録を通覧してもその大要が推察できると思う。

藁は、何よりも農家においては入手が容易であることが利点であるが、それにも増して、繊維が柔軟で扱い易く、軽く保温性が高いので、雪中の履物などには最適な素材であった。とは言っても、実際に細工を施すには稲の性質によっても適不適があり、乾燥具合や適当な湿度などにも配慮し、用材としての調整処理も必要とした。

使用する藁は主として稈（茎）の部分であるが、使う

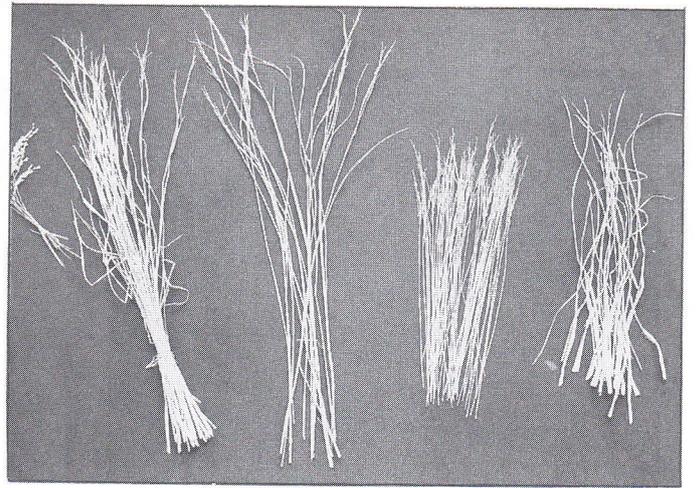
に先立って下葉（ハカマ）を掻き取り、細工物とするには槌で打って柔らかくしてから用いる。特別な場合にはミゴ（ヌイゴ＝穂茎）を抜いて、それを使うこともあり、前記の掻き取った下葉は藁布団に入れて用いたりした。

鈴木牧之は著書『秋山記行』（文政11年）において、秋山には藁が無くて不自由していることを聞き書しているが、同地では近年に至るまで、家畜飼料とする藁の葉を採って平地地域の藁と交換する習わしが続いていた。

稲作が一般に広く普及するまでは、庶民にとっては米そのものよりも、藁が必需品であったのかもしれない。



■コクリ(縄い上げた縄を仕上げに藁で磨く)

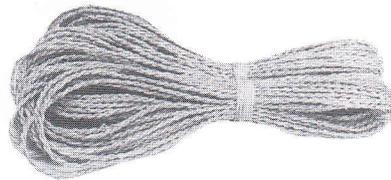


■左より、生ワラ・スグリワラ・ヌイゴ(穂茎)・シビ(葉)

〔縄ない〕



な
縄い方には右捻りと左捻りがある。また、用途に応じて太・中・細の各種があるが、補強のため三本捻りにしたり、木綿の布切れを縄い込んだ。



スベナワ 4-ロー-159
全長450cm 太さ0.8cm
藁 最も一般的に使用



コデナワ 4-ロー-161
全長140cm 太さ0.4cm
藁 ムシロの縦縄等に使用される細縄



ニナワ 4-ロー-165
全長582cm 太さ1~1.8cm
藁 荷背負用(三本捻り・左縄)



ハッテナワ 4-ロー-167
全長2,400cm 太さ3.8cm
藁 稲架用(組縄)



チブテ 4-ロー-170
全長65.5cm 太さ0.6~4cm
藁 田掻きの際に馬鞆に取付ける縄

〔ワツ組み〕



生藁を藁の穂先まで組編みにし、二つに折重ねて踵の部分で芯を束ねる。



ワラグツ 4-ロー-199
長さ24.5cm 幅10.8cm 110g(片方)
藁 スリッパ型短沓

ワラグツ 4-ロー-204
全長58.5cm (左)
藁 スリッパ型短沓(半製品)

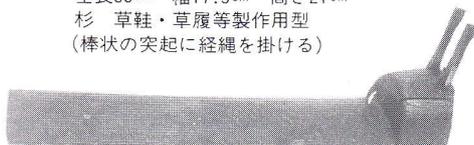
【いろいろな履物づくり】



■ワラジづくり



ノメシ 4-ロー-28
全長85cm 幅17.5cm 高さ21cm
杉 草鞋・草履等製作用型
(棒状の突起に経縄を掛ける)



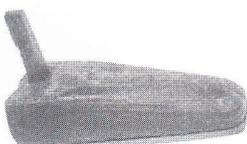
ノメシ 4-ロー-30
全長64.8cm 幅14.2cm 高さ20cm
杉 草鞋・草履等製作用型



スッペガタ 4-ロー-41
全長17.8cm 幅11.3cm
竹・縄 スッペ製作用型
(スッペの爪先と甲を編む時の型)



スッペガタ 4-ロー-44
全長49.7cm
杉・竹 スッペ製作用型



スッポンガタ 4-ロー-51
全長25.3cm
杉 スッポン製作用型
(スッペ型兼用)



ツマカケガタ 4-ロー-59
全長42.5cm
杉 ツマカケ製作用型



アシナカ 4-ロー-171
長さ21cm 幅8.7cm 85g(片方)
藁 田植等の製作用



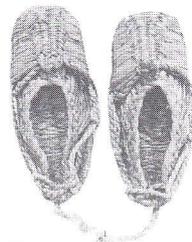
ゾウリ 4-ロー-182
長さ21.5cm 幅10.5cm 58g(片方)
藁・布緒 よそ行き用



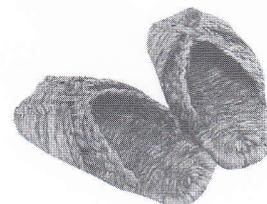
ワラジ 4-ロー-188
長さ22cm 幅9.6cm 90g(片方)
藁 製作用



ゾウリ 4-ロー-178
長さ22.5cm 幅9.5cm 63g(片方)
藁 製作用



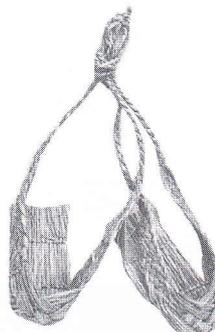
スッペ 4-ロー-193
長さ28cm 幅10.5cm 215g(片方)
藁 雪中の作業・遠出用短沓



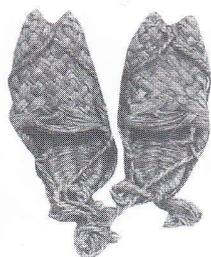
スッペゾウリ 4-ロー-186
長さ21.5cm 幅11.1cm 195g(片方)
藁 内履用スリッパ型草履



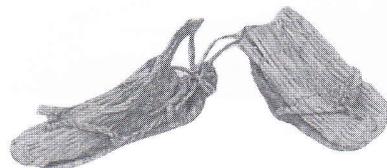
スッポン 4-ロー-197
高さ32cm 沓長さ27.5cm 300g(片方)
藁 長沓



シブガラミ 4-ロー-205
全長83.5cm 幅9.6cm 68g(片方)
藁 踵に付けて藁沓と併用



ツマカケ 4-ロー-207
長さ20.7cm 幅11.5cm 90g(片方)
藁 爪先を覆い草鞋と併用

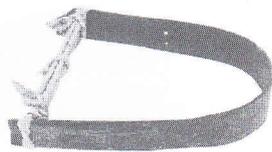


オソカケ 4-ロー-206
長さ24.5cm 幅9.5cm 150g(片方)
藁 足の甲に掛け草鞋と併用

〔ミノづくり〕



ミノは、降雪時の戸外作業などに欠かせない外被である。まず、ミノックビの湾曲部に縄を巻きつけ、そこにヒロロまたは藁などを挟み込み、横に紐など用いて編込んでいく。縄はそのまま首にかける縄となる。



ミノックビ 4-ロ-73
長さ26.2cm 幅22.2cm 200g
ケヤキ樹皮 衿首の型



ミノックビ 4-ロ-80
全長29.5cm 高さ7.5cm 1,605g
杉 衿首の型



ミノックビ 4-ロ-75
長さ23cm 高さ22.3cm 2,360g
杉 衿首の型

コシタテ 4-ロ-81
全長102.5cm 径1.3cm
竹 腰部を作る時使用

ケエシバリ 4-ロ-82
全長11.1cm 幅0.8cm 2g
竹 材料のヒロロをはさんで通す時の針

ケエシバリ 4-ロ-84
全長7.3cm 幅1cm 0.2g
竹 材料のヒロロをはさんで通す時の針



トジバリ 4-ロ-86
全長14.7cm 幅1.1cm 10g
鉄 紐通し・綴じ針 藁細工一般に使用

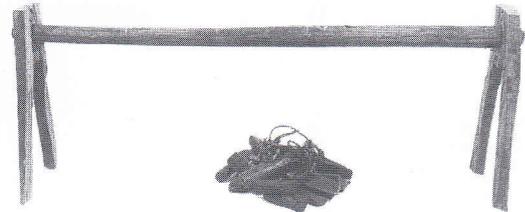


ミノ 4-ロ-213
長さ108cm 幅69cm 1,500g
ヒロロ・藁 降雪時作業用外被

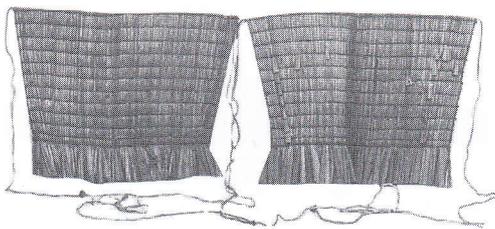
〔ハツパキ編み〕



ハツパキは雪中歩行・作業に適した脛当である。藁やガマを材料として編んでいく。



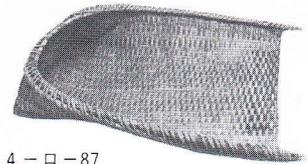
ハツパキアミ 4-ロ-88
高さ44cm 幅113cm コモツチ70g (1個)
杉(ケタ)・リョウブ(コモツチ) 編具



ハツパキ 4-ロ-209
長さ30cm 105g (片方)
ガマ 脛当



ハツパキオリ 4-ロ-89
高さ77cm 幅49.5cm
杉 織具(ムシロバタ型)



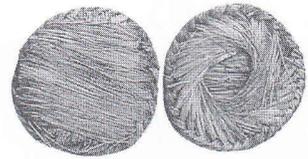
ミ 4-ロ-87
長さ56cm 幅55.5cm
山竹・シナ皮 横編糸を掬い口の両端に張る
(箕の転用)

(タワラ編み)

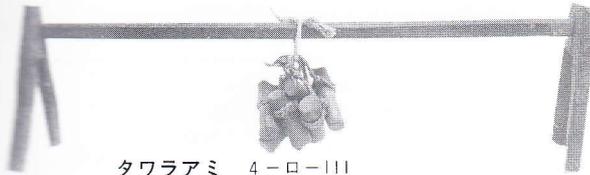
米俵は、米などの貯蔵・運搬用の入れ物で、コモツチに巻いた経糸（編繩）をケタ（横木）に掛け、緯糸となる藁をあてて、編んで作る。米俵は一般に四斗入（60kg）が標準である。サンダワラは俵の上下に被せる蓋である。



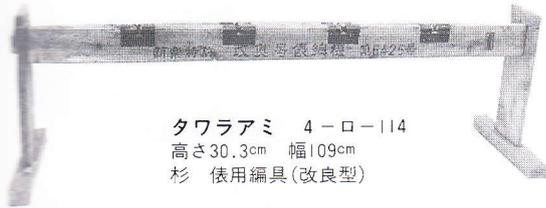
サンダワラカタ 4-ロー-71
径33.5cm 厚さ2.2cm
杉 棧俵製作用型



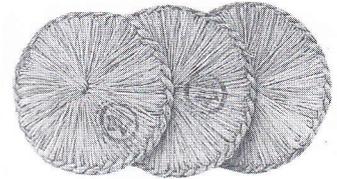
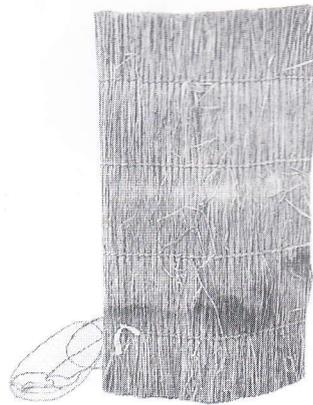
サンダワラ 4-ロー-237
径32.5cm 厚さ3.5cm
藁 棧俵



タワラアミ 4-ロー-111
高さ33.3cm 幅115.2cm コモツチ1kg(6個)
杉・リョウブ(コモツチ) 俵用編具



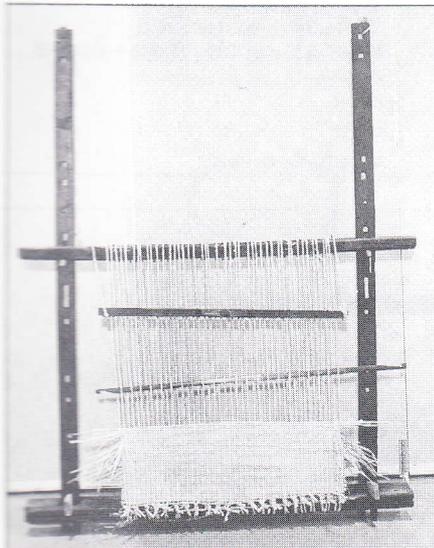
タワラアミ 4-ロー-114
高さ30.3cm 幅109cm
杉 俵用編具(改良型)



サンダワラ 4-ロー-238
径33.8cm 厚さ3cm
藁 棧俵

タワラ 4-ロー-235
長さ95cm 幅64cm
藁 米俵

(ムシロ・ゴザ織り)



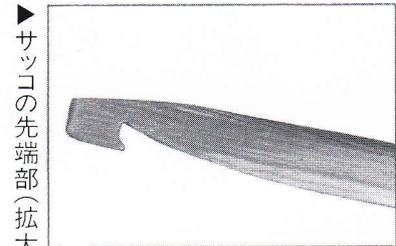
ムシロハタゴ 4-ロー-90
高さ195.5cm 幅153cm
杉・イタヤ(ヒ) 織具



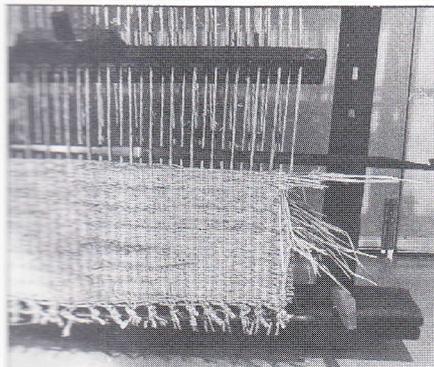
ムシロ 4-ロー-216
長さ262cm 幅182cm
藁 敷物



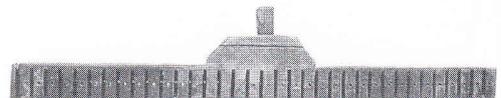
ゴザ 4-ロー-219
長さ175cm 幅87cm
藁・イグサ 敷物



▶ サッコの先端部(拡大)



サッコ 4-ロー-106
全長112.5cm 幅2.4cm 80g
竹 緯糸(藁・イグサ)を通す時の鉤棒



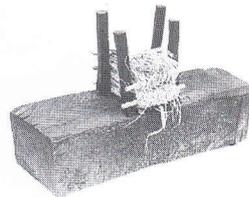
ゴザオリヒ 4-ロー-100
幅88cm 982g
イタヤ 経繩通し打込具

ムシロは屋内用・脱穀作業用の敷物として使った。まず、経糸となる細繩をヒに通して、上下のケタに張る。そして、ヒで交互に開口させ、サッコで緯糸となる藁を通して、織機のようにして織る。また、ヒを取替えることによって、ゴザも織った。当地でのムシロ・ゴザ織りは2人で行なった。

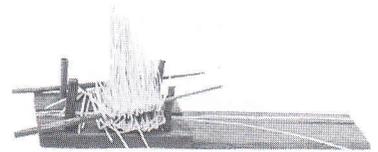
〔ツク折り・ツク編み〕



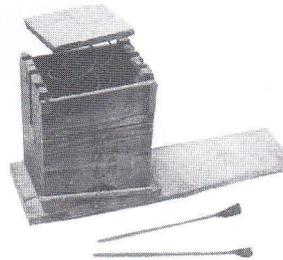
ツク(=マブシ)は、成熟した蚕が繭を作りやすいように工夫した繭床。ツクオリやツクアミで製作する。



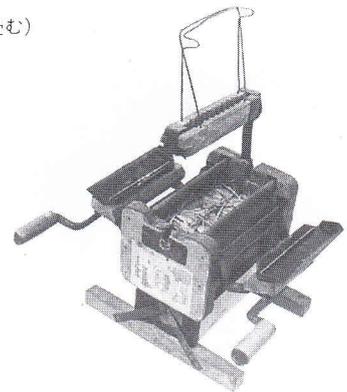
ツクオリ 4-ロ-130
14.1×48.6cm 高さ31.7cm
杉 マブシ製作用具
(4本の棒の間に藁を置いて折畳む)



ツクオリ 4-ロ-131
11.8×56cm 高さ10.3cm
杉 マブシ製作用具



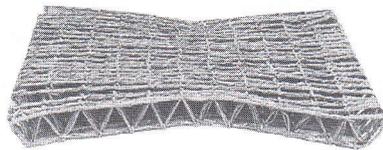
ツクオリ 4-ロ-132
箱部15.5×19cm 高さ26.8cm
杉 マブシ製作用具
(2本の鉄棒を用いて藁を折畳む)



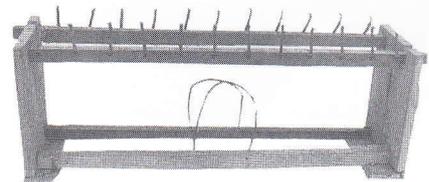
ツクオリ 4-ロ-135
長さ35.2cm 幅25.8cm
木・鉄 マブシ製作用具
(藁を入れ、左右の把手を交互に動かして折畳む)



ツク 4-ロ-285
23×12cm 高さ18cm
藁 マブシ(折り)・ツクオリ付



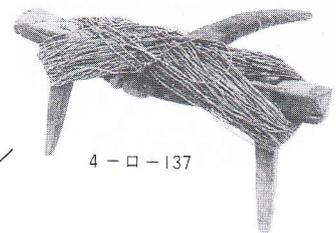
ツク 4-ロ-286
全長67cm 幅30cm 厚さ7cm
藁 マブシ(編み)



ツクアミ 4-ロ-136
幅77cm 高さ27.5cm
杉・鉄 マブシ編具

〔ヨリソ・仕上げ用〕

ヨリソあるいはオツツォは、^お苧(カラムシ)などの繊維を撚り合せた紐または縄のことで、ゴザ織りの際には経糸などに使った。藁細工等に用いたカマボウチョウは古くから当地で広く使用されており、トジバリと共に手仕事には欠かせない用具である。



4-ロ-137



カマボウチョウ 4-ロ-147
全長20cm 72g
鉄・木(柄) 切裁用(古鎌の刃を利用)



ヨリソマキ 4-ロ-137
全長54.2cm 490g
杉 撚苧巻具



タタミバリ 4-ロ-150
長さ15.1cm 8g
鉄 綴じ針

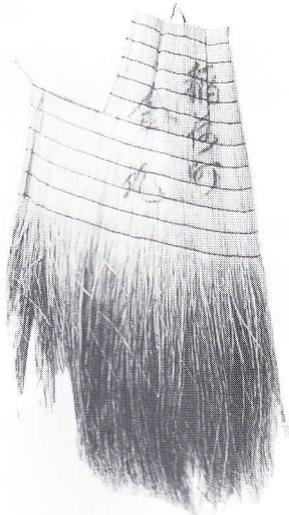


ハナバサミ 4-ロ-148
全長18.2cm 212g
鉄 切裁用



オツツォマキ 4-ロ-144
全長30cm 143g
桐 撚苧巻具

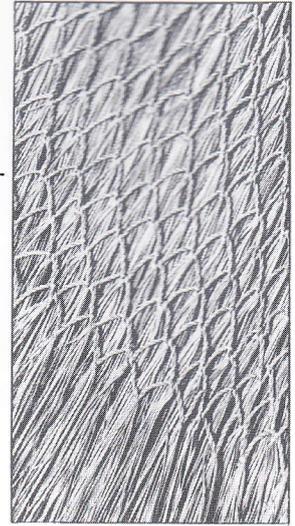
【いろいろな藁等細工製品】



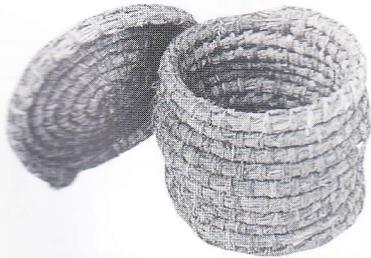
スゲボシ 4-ロー-211
全長124cm 775g
スゲ(タヌキラン) 近所歩き用外被



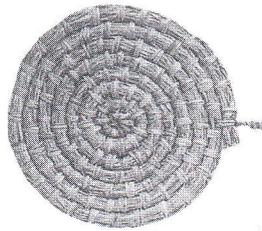
マミノ 4-ロー-214
全長110cm 2,100g
タツノケ(コシノホンモンジスゲ)
降雪時外出用外被



■マミノ部分拡大 4-ロー-214



メシツグラ 4-ロー-231
径26cm 高さ23.9cm
藁 飯種保温用



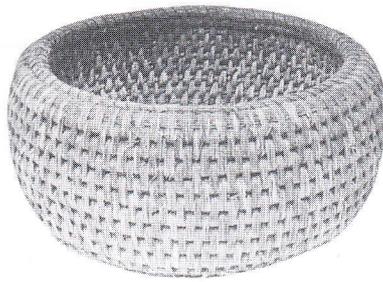
ナベシキ 4-ロー-226
径31cm 高さ2.5cm
藁 鍋敷



カマジッタ 4-ロー-227
径32cm 高さ6cm
藁 釜敷



ツグラ 4-ロー-229
径55cm 高さ34cm
藁 育児籠



ツグラ 4-ロー-230
径60cm 高さ25cm
藁 育児籠



テボウキ 4-ロー-232
全長34.5cm 50g(1本)
藁 藁の穂先(マイゴ)を利用



ホウキ 4-ロー-233
全長118cm 195g(1本)
ホウキギ ムシロ敷の掃除用

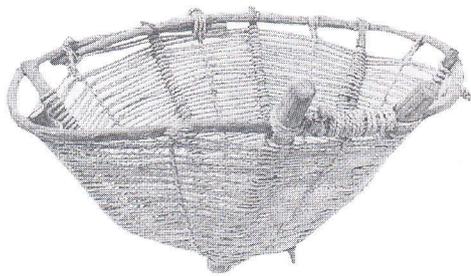
雪晒し

雪晒しは雪国独特の晒しの手法である。織上げた布などを水に浸け、日光や風に晒して白く仕上げることは広く行われているが、雪国では、主として春になって雪に水気が多くなり、日差しも強くなるころ行う。この時期は降雪も安定し雪も締まるので、雪上にその物を置いて適当な期間放置し、自然に晒し上げるのを待つのである。

雪晒しでよく知られているのは越後縮などのそれで、この場合は織上げた布、また、着物に仕立てて着用したものを再生の意味で晒す場面が多いが、実際には、原料の青芋の段階、また糸に紡いだものも晒したのである。

右の写真はそれとは別で、作り上げた藁細工品の雪晒し風景である。昔から、藁細工品や竹細工品はこうして雪に晒すとアクが抜けて柔軟になり、強くなって長持ちするので、自家で使用するものは必ずこうした。ただし商品とするものは見栄えが悪くなるので普通はしない。

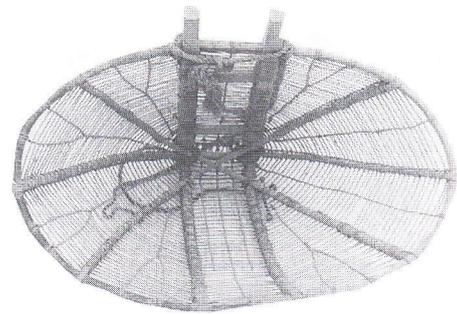
紙漉き原料の楮皮もヒカワを除いて雪に晒し、さらに漉き上げてからもするが、やはり漂白のためである。また養蚕用具などで使い古したものを消毒・洗浄の意味ですることも多い。右中写真の蚕網等がそれである。しかし近ごろ、この早春の風物詩的風景も遠いものになった。



コエカゴ 4-ロ-256
口径99×62cm 3,130g
杉・藁縄 堆肥等背負運搬用籠



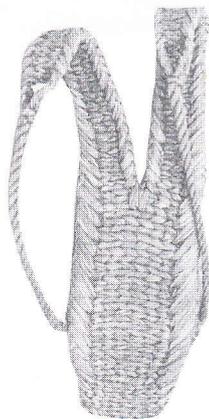
コエカゴ 4-ロ-255
口径91×56cm 2,940g
杉・アケビ蔓 堆肥等背負運搬用籠



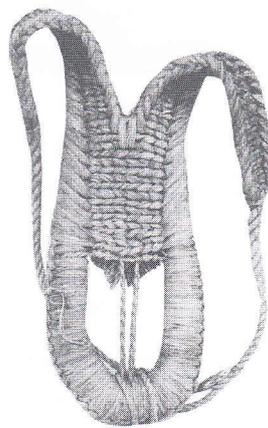
4-ロ-255 (真上)



タス 4-ロ-244
長さ42.7cm 幅32cm 580g
藁 運搬用袋(縄利用)



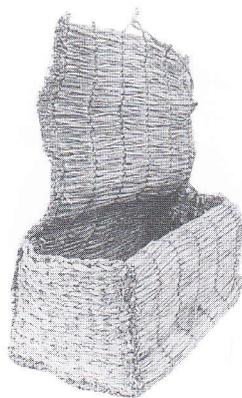
セナコウジ 4-ロ-248
肩長さ66.5cm 幅21cm 735g
藁 背負運搬用背中当



セナコウジ 4-ロ-249
肩長さ66.5cm 幅25.5cm 1,240g
藁 背負運搬用背中当



セナコウジ 4-ロ-251
肩長さ70cm 幅34cm 860g
藁 背負運搬用背中当



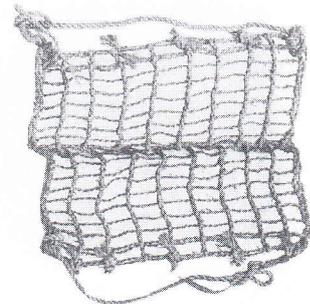
ニダラ 4-ロ-246
50×25cm 高さ55cm 920g
藁 運搬用荷籠



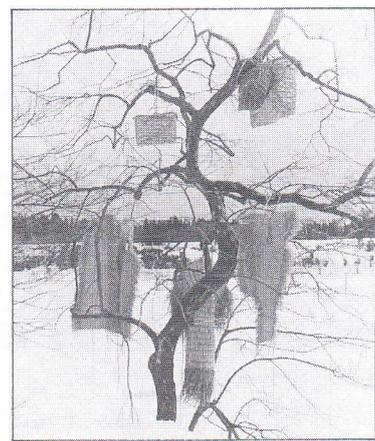
ナワテゴ 4-ロ-241
47×25cm 高さ30cm 625g
藁 運搬用手籠(縄利用)

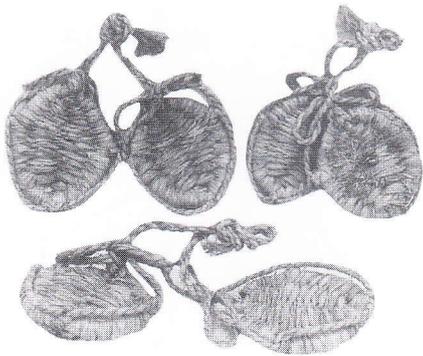


テゴ 4-ロ-240
37×17cm 高さ28cm 422g
藁 運搬用手籠

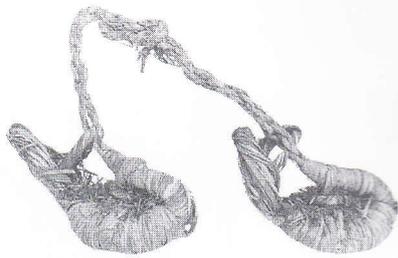


モッコ 4-ロ-257
76×71cm 868g
藁 土石等運搬用具
(棒を通して2人で担ぐ)





ウマノクツ 4-ロー-262
長さ20cm 幅16.5cm 厚さ2.8cm 20g (1個)
藁 馬の沓



ウシノクツ 4-ロー-266
長さ9.8cm 幅7.8cm 厚さ2.5cm 65g (1個)
藁 牛の沓



クツゴ 4-ロー-275
長さ22.5cm 幅24cm 155g
藁 馬の口覆い



シリゲ 4-ロー-273
長さ23cm 幅24cm 440g
ゴザ・麻縄 鞍どめ用馬の尻覆い
(馬の尾に輪を掛け一方の縄を鞍に取付けて固定する)



タオイ 4-ロー-271
全長173cm 幅43cm 932g
藁(ヌイゴ) 馬の尻覆い



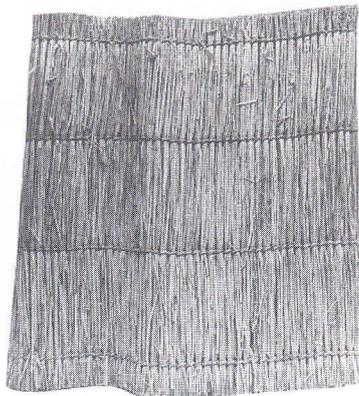
ハラオビ 4-ロー-270
全長229cm 221g
藁 腹帯(牛用)



トップクロ 4-ロー-259
長さ16.5cm 幅12cm 60.7g
藁 携帯用砥石袋



トップクロ 4-ロー-261
長さ14cm 幅9.5cm 47g
藁 携帯用砥石袋



カイコゴモ 4-ロー-284
長さ106cm 幅71.5cm
藁 養蚕用編コモ(蚕籠の上に敷く)



ワラダ 4-ロー-281
径91cm 厚さ5.5cm
藁 養蚕用蚕座



ワラダ 4-ロー-282
径88cm 厚さ5cm
藁 養蚕用蚕座

ワラ仕事

雪国の冬籠り中の男たちの仕事といえば、ワラ仕事であった。女たちには、芋績みや機織りといった金になる仕事があり、家事や育児、それにツツコト(針仕事)もある。男たちは稲始末やセツツキが終ると、雪掘りなどもしながら、春木山の始まるころまで藁仕事に専念した。

藁仕事は本来、直接収入につながる仕事ではなかったが、自給自足で生計を立てる農家では重要な仕事で、夏場の農耕用具から、家族の履物から被物、家の敷物類など大変な量を必要とした。例えばワラジや馬の沓などのように、それらは日々消費される物なのである。

若い男たちには、前記のような力仕事があるので、藁仕事の専従者は専ら老人であったが、毎日のことであったから、老人たちは時折、藁の幾束かを持って気の合った者の家に寄合って、茶話に花を咲かせながら、一つの楽しみとして作り続けた。しかし、若者たちにとってもこの技術は習得しておくべき基礎的な要件であったから、折をみてはこれに従事した。この点は男の子たちにも共通していて、幼いころから縄ないなどをした。

近ごろ話題のアンギンも藁仕事の中に位置づいており、一冬に一着は作るものとされていたという。

② 竹細工用具・製品

竹細工も雪に閉ざされた農閑期の仕事であったが、藁仕事が生に自家用品の製作を目的としたのに対し、これは換金を目的としていたから、冬季の副業として位置づけられていた。これを大きく支えていたのは、原料の山竹が周辺に自生して入手し易かったことと、換金の場として節季市が定期的に開設されていたことである。

竹細工用具の主要なものは、写真で示すように極めて限られる。山竹採取用の鎌、竹割鉋、竹割用刃物、竹ヒゴ整形用のヒゴ通し、ヒゴ引き、編む竹を通す時のメサシ、ザルの縁の型などで、ヒゴ通しを除けば、ほとんどが他の日常用具で代用できるものばかりである。

シ、ザルの縁の型などで、ヒゴ通しを除けば、ほとんどが他の日常用具で代用できるものばかりである。

工具の利用は材料つくりと製材に限られていたし、製品の組立はすべて手に頼っていた。これらのことからみても、この仕事は雪国農家の副業にふさわしいものであったと言える。

技法から製品を見ると、ザル目編みのもの、これと編目の類似した丸型のポテ及びカゴ目編みのものに大別できる。これらはすべて山竹を素材としているが、写真のザマカゴのように孟宗竹などを用いたものも希にあった。

竹細工つくり

材料採取

11月ころ

日陰に保管

竹ごしらい



ヒゴ目通し

編む



(雪晒し)

利用

- 節季市で売る
- 自家用

〔竹細工用具〕



タケキリガマ 4-ロ-291
全長46cm 218g
鉄・木(柄) 竹切り用



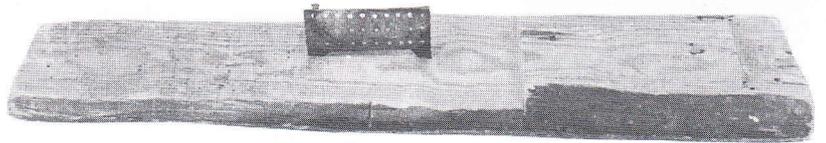
カマボウチョウ 4-ロ-294
全長26.5cm 218g
鉄・木(柄) ヒゴ切断・竹削り用
(古鎌の刃を利用)



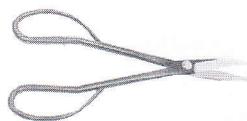
タケワリナタ 4-ロ-293
全長38.6cm 385g
鉄・木(柄) 竹割り・ヒゴ作り用



ヒゴヒキ 4-ロ-298
全長14.2cm 90g
鉄 ヒゴトオンにかけたヒゴを
引抜く時使用



ヒゴトオン 4-ロ-297
67.2cm×16.7cm 高さ8.2cm
杉・鉄 ヒゴの面取り用



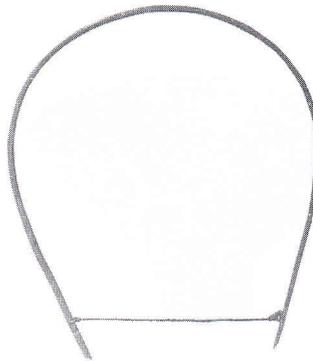
タケキリバサミ 4-ロ-299
全長18.8cm 94g
鉄 ヒゴの切断用



ハナバサミ 4-ロ-300
全長18.3cm 212g
鉄 ヒゴの切断用



メサシ 4-ロ-303
全長18.5cm 50g
鉄・杉(柄) 竹綴じ用錐



ザルガタ 4-ロ-301
長さ57.5cm 幅50cm
山竹 ザル縁の型

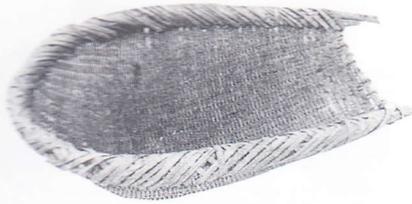


メサシ 4-ロ-307
全長14cm 24g
鉄・その他 竹綴じ用錐

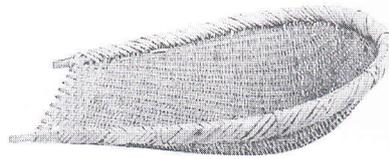


メサシ 4-ロ-305
全長23.9cm 60g
鉄・その他 竹綴じ用錐

(製品)



コメアゲザル 4-ロ-309
長さ43cm 幅30.5cm 270g
山竹 洗米・水切り用



ヤサイザル 4-ロ-313
長さ50.5cm 幅44.5cm 435g
山竹 野菜洗い用



ホテ 4-ロ-320
口径31cm 高さ14cm 200g
山竹 丸型箆



マメドオシ 4-ロ-355
口径58cm 高さ15.3cm 840g
山竹 豆等選別用



マメドオシ 4-ロ-353
口径55cm 高さ13.5cm 690g
山竹 豆等選別用



タマリトリ 4-ロ-332
口径22cm 高さ16.8cm
山竹 味噌のタマリ取り用



ワンカゴ 4-ロ-323
口径89cm 高さ21.5cm
山竹 食器水切り・格納用



ワンカゴ 4-ロ-322
口径53cm 高さ26.5cm
山竹 食器水切り・格納用



テカゴ 4-ロ-336
口径30cm 170g
山竹 手持用箆



オトシカゴ 4-ロ-345
口径41cm 高さ48.6cm
山竹 便所用屑箆



チャワンカゴ 4-ロ-325
口径43cm 高さ19cm
山竹 食器水切り・格納用



タネモンカゴ 4-ロ-351
口径31cm 高さ37cm
山竹 種子物入れ



クズカゴ 4-ロ-347
口径17.5cm 高さ33.6cm
山竹 屑箆



シメシカゴ 4-ロ-350
口径75cm 高さ53cm
山竹 オシメ乾燥用



ジョウゴ 4-ロ-356
口径56cm 高さ34.8cm 650g
山竹 米の俵詰め用漏汁



カンジキ 4-ロ-348
長さ37cm 幅27cm 146g(片方)
山竹・藁縄 道踏み・雪上歩行用輪標



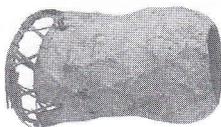
クワカゴ 4-ロ-364
口径55cm 高さ57cm 1,617g
山竹 桑とり用(大型)



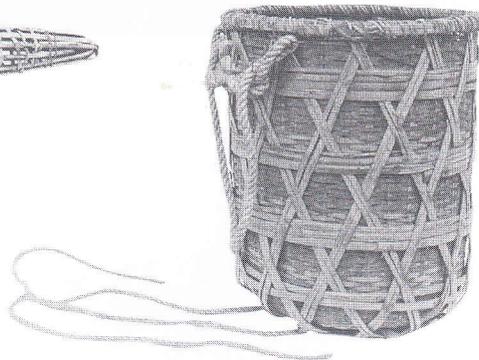
クワトリカゴ 4-ロ-357
口径42.3cm 高さ35cm 855g
山竹 桑とり用



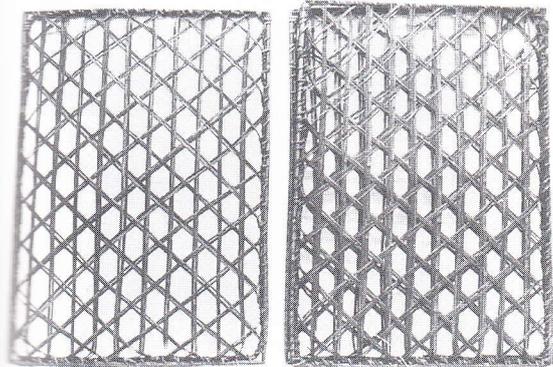
イキヌキ 4-ロ-367
長さ69.5cm 口径9.5cm
山竹 収納菌換気用



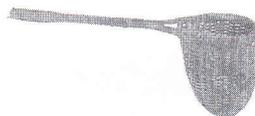
フクベ 4-ロ-368
口径14.8cm 長さ23.5cm
竹・和紙 籠型糸巻



ザマカゴ 4-ロ-365
口径52cm 高さ63.5cm 3,500g
孟宗竹・山竹 桑とり用



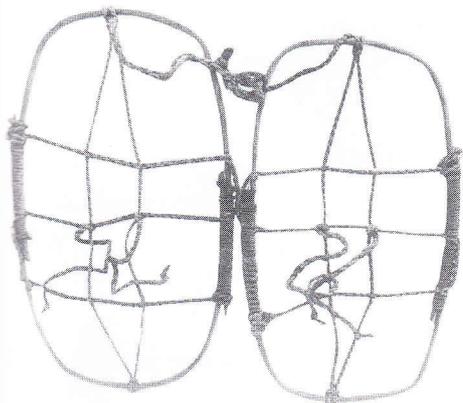
カイコカゴ 4-ロ-366
106×77.5cm
山竹 蚕座用平籠



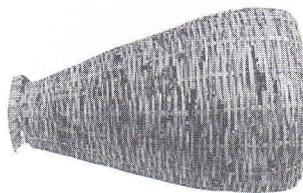
トウジカゴ 4-ロ-333
全長34cm 60g
山竹 蕎麦等湯通し用



ビク 4-ロ-369
口径11.6cm 高さ19.3cm 98g
山竹 魚籠

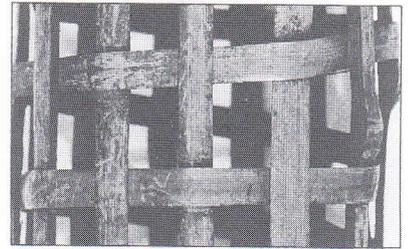


スカリ 4-ロ-349
長さ71cm 幅42cm 320g(片方)
山竹・藁縄 深雪用大型輪籠

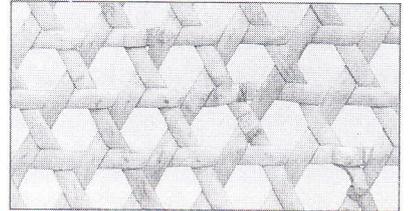


ドジョウツツ 4-ロ-375
口径12cm 高さ36cm
山竹 籠型釜

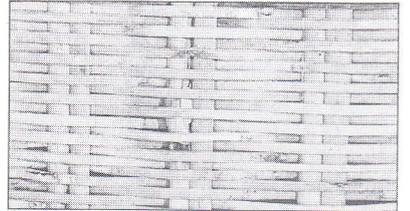
編み方のいろいろ



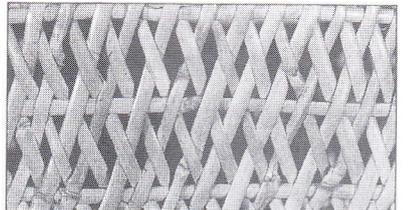
▲四ツ目編み



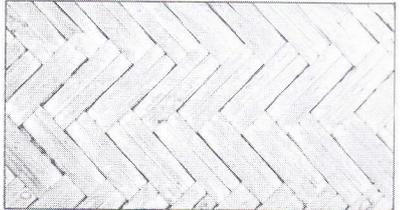
▲六ツ目編み(カゴ目編み)



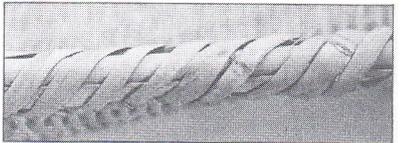
▲ザル目編み



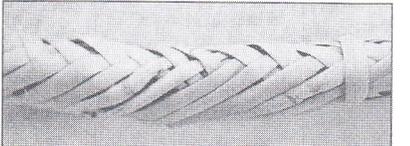
▲チャワンカゴなどの側面の編み方



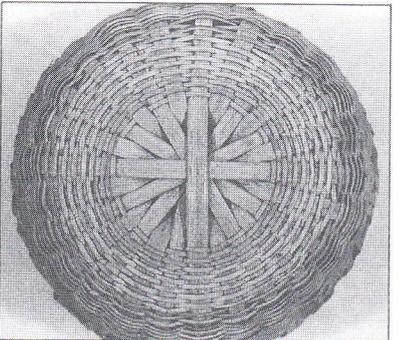
▲網代編み



▲カゴ縁(縁部)



▲ザル縁(縁部)

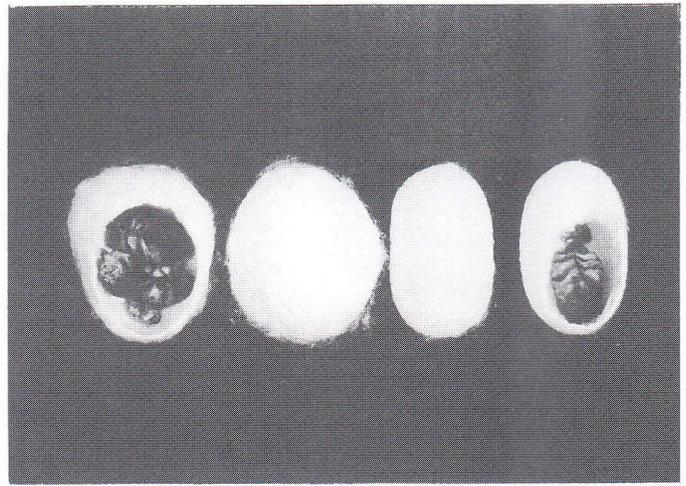


▲菊底(ボテの底部)

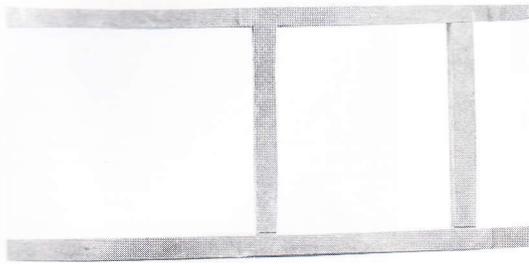
③ ワタコ等つくり用具

ワタコは、真綿を伸ばして型に掛け、糊で表面を固めて作った防寒用背中当である。この写真の型は饅頭笠状のものに蒟紙を貼ったものだが、他に半月形の板の型もあるし、捏ね鉢の裏の丸みを転用して使ったりした。右端中段のものはチョッキの型板で、戦時中、同じようにして作った。下段の鍋と刷毛は糊つけ用である。

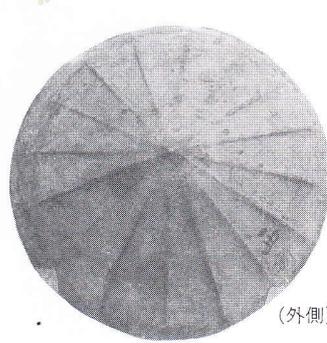
左列のものは真綿つくり用具で、煮た玉繭を半切桶の水に入れておき、その中に立てた木枠に伸ばしながら掛ける。その下は真綿の形を四角に整える時の用具である。



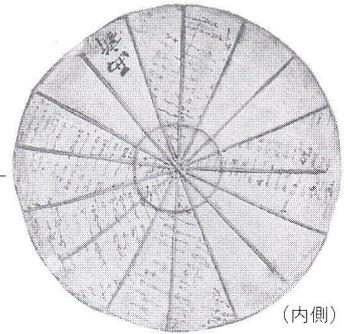
■玉繭(左2点)と繭(右2点)



マワタムキ 4-ロ-378
全長57.6cm 幅27.2cm
朴 真綿整形用木枠



(外側)

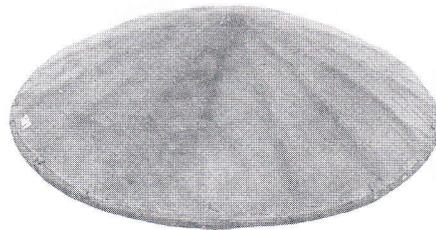


(内側)

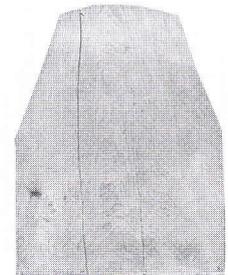
ワタコガタ 4-ロ-390
径58cm 高さ12.1cm 165g
竹・和紙 饅頭笠式型(古笠の転用)



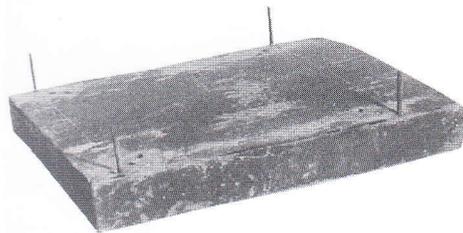
ハンギレオケ 4-ロ-382
口径39.8cm 高さ21cm
杉 真綿整形用繭浸し桶



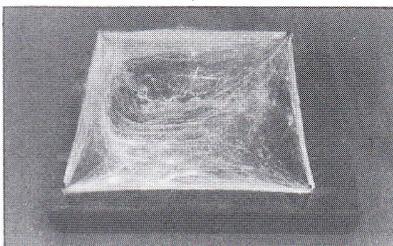
ワタコガタ 4-ロ-391
径52cm 高さ12.5cm 295g
竹・和紙 饅頭笠式型(古笠の転用)



ソデナシガタ 4-ロ-394
長さ65.8cm 幅52.3cm 874g
杉 袖無用型板



マワタカケ 4-ロ-384
41×32cm 高さ5.1cm
ブナ・釘 真綿整形用



■仕上がった真綿をマワタカケの釘に掛けて形を整える



ワタコ 4-ロ-402
長さ44.5cm 幅44.5cm 94g
真綿 背中覆い



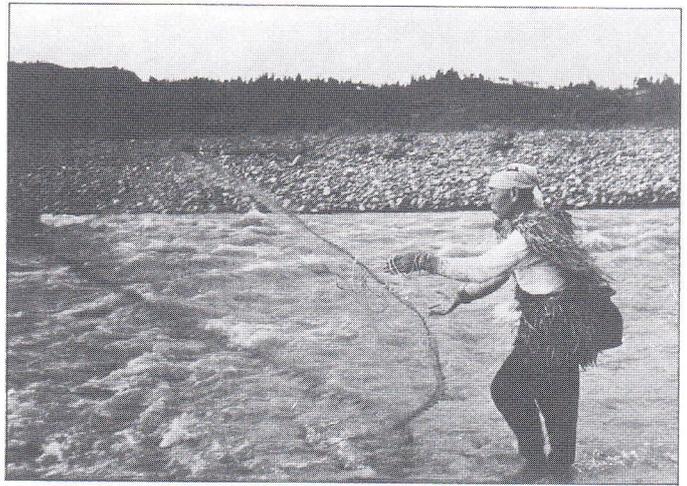
ナベ 4-ロ-395
口径15cm
銅 布海苔を煮る鍋



ハケ 4-ロ-398
全長15.5cm 30g
杉・毛 糊刷き用

④ 網つくり用具

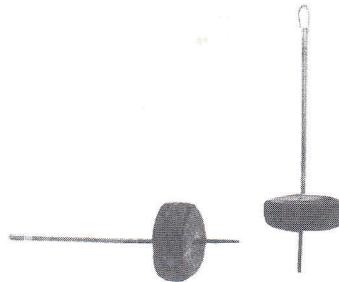
川漁をする人たちは、冬のうちに漁網を補修したり、新しく編んだりした。まずはじめに網糸を用意するが、その材料には越後縮と同じ素材のカラムシ（苧麻）を使い、これを太めに苧績^{おつ}みして撚りをかけて、さらに2本縄のように合せて用いた。これをウグイス針に巻き、コマで網目の寸法を決めて編んでいく。結び方には、本目^{ほんめ}と蛙股^{かえるまた}があった。投網の類は、網の下の縁にアシ^いという重りをつけるが、これも鋳^い型で自製した。網は柿渋^{かきしぼ}に浸して補強した。



■ナゲステアミでの魚とり



ヨリソ 4-ロ-422
37cm×23cm
カラムシ 魚網用撚糸



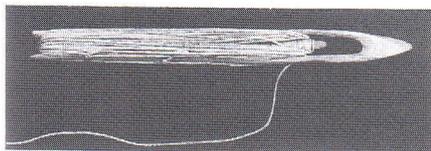
ヨリカケ 4-ロ-404
高さ25.5cm 55g
桐・竹 網糸作り用紡錘車



コマ 4-ロ-413
長さ4.8cm 幅1.8cm 1g
竹 魚網用網目定規



コマ 4-ロ-414
長さ5.6cm 幅1.8cm 1g
竹 魚網用網目定規

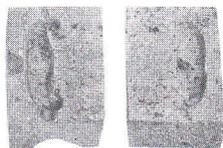
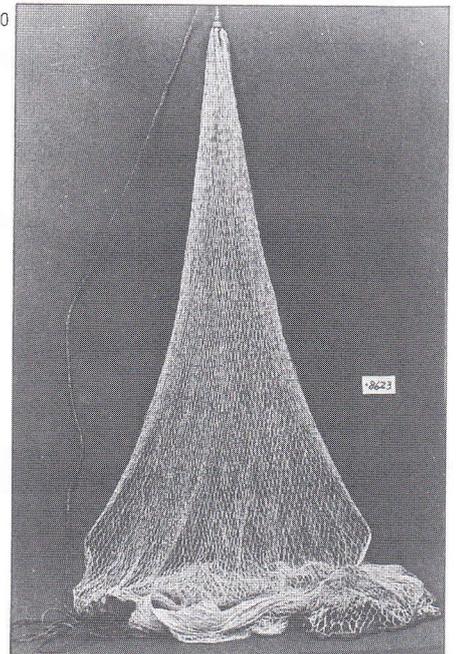


ウグイスバリ 4-ロ-407
全長12.1cm 幅1cm 5g
竹 魚網用編針



ウグイスバリ 4-ロ-408
全長16.8cm 幅1.4cm 5g
竹 魚網用編針

ナゲステアミ 4-ロ-420
全長233cm 4,230g
木綿 鮭とり用投網



アシガタ 4-ロ-417
3.3×4.9cm 71g
砥石 投網用重り鋳型



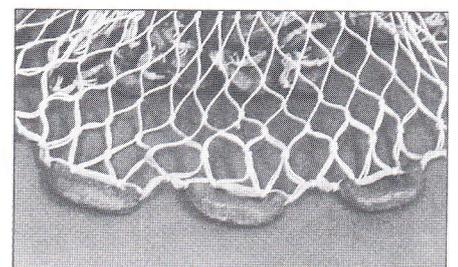
アシガタ 4-ロ-416
3×6.8cm 160g
砥石 投網用重り鋳型



カメ 4-ロ-418
口径36cm 高さ31.5cm
陶器 魚網用柿渋入れ



アシ 4-ロ-423
長さ5.4cm 56g (1個)
鉛 投網用重り



■アシの取付け部分(拡大)

ハ 春木山等用具

① 春木山用具

春木山は、春先に山に入って焚木を採って来ることを言うが、この言葉に一括される作業は一樣ではない。焚木を家まで運ぶそり櫓引きも主要な仕事なのだが、櫓は運搬具として別項に入れた。

鉈なた・鉈なたは柴木の刈取りに主として用い、のこぎり鋸の類及びカナヤ（= 楔。木製のものもある）は、コロとする太木の伐採に使った。マサカリは伐採にも使うが、薪割に主として使用した。トチガネは伐採した太木を移動するとき、木口に打込んで引くための用具である。



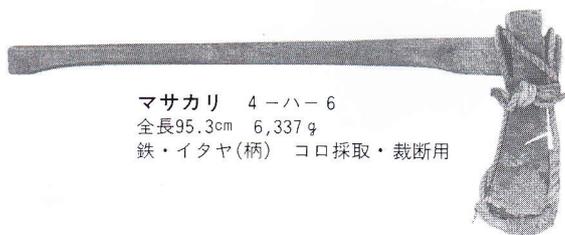
■ポイニオにトバをかけているようす



ナタガマ 4-ハ-1
全長45.2cm 460g
鉄・木(柄) 柴採取用



カナヤ 4-ハ-10
全長17.9cm 幅4.3cm 1,120g
鉄 コロ採取・裁断用



マサカリ 4-ハ-6
全長95.3cm 6,337g
鉄・イタヤ(柄) コロ採取・裁断用



ナタ 4-ハ-4
全長37.3cm 630g
鉄・木(柄) 柴採取用



トチガネ 4-ハ-16
長さ13cm 径7cm 250g
鉄 コロ引出し用



テマガリノコ 4-ハ-8
全長78.4cm 655g
鉄・桐(柄) コロ採取・裁断用



カナヤ 4-ハ-21
全長14.9cm 935g
鉄 コロ割り補助用



マサカリ 4-ハ-17
全長84.8cm 1,860g
鉄・イタヤ(柄) コロ割り用



サバノコ 4-ハ-14
全長115.9cm 555g
鉄・桐(柄) コロ採取・裁断用



マサカリ 4-ハ-20
全長65cm 1,500g
鉄・イタヤ(柄) 枝打ち用

ハルキヤマについて

春木山は、春の彼岸が終わったところから一斉に始まる。この仕事は、遠い雪山へ出かけることと、伐った薪をそり櫓で運んで来ることが必ず付随するから、日足が伸びて、雪が固く締まり、雪上が歩きやすくなる時期になってから行われる。春木山を始めるに先立ち、まず同じ方向の山へ行く人達が協力し合って、櫓道を作る。

薪は、秋に伐って、その場に二才に積んで置き、春木山の際に運ぶことが多いから、櫓引きは春木山の主要な仕事である。雪上を進む櫓は水上をゆく船のように、無雪期では考えられない地形でも直線的に行くことができ

る。谷や林の中でも、高低も障害物も雪が覆ってくれるので、その上に櫓道を作ることができる。春木山に限らず、櫓引きには雪は不可欠の要素であるので、小雪の年など地表や小木が露出していると大いに支障を来たす。

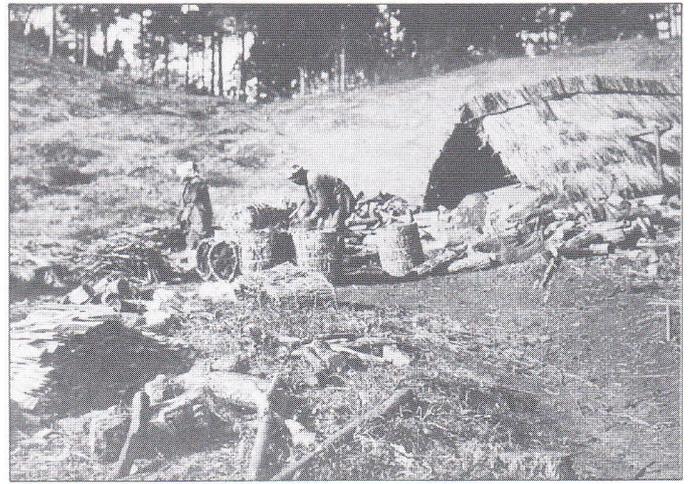
人々は春の日長いっぱい働くが、強い日差しと雪の反射光線による雪眼（眼の充血・痛みなどの障害）で苦労した。その予防にメスダレをつけたが、効果は薄かった。人々の顔は日焼けで真っ黒。春耕を考えると雪消えを早めたいが、この仕事は雪のあるうちが勝負だ。彼岸からは、昼寝と中飯ちよはんが始まる。

② 炭焼き用具

当地で焼かれた木炭で主としたものは、白炭と黒炭であって、いずれも石や土で築いた炭焼窯で焼く。白炭は焼けて赤くなった状態の炭を掻き出して、土などをかけて消すが、黒炭は窯の中の炎が消えてから取出す。

黒炭の場合は窯に入って作業できるが、白炭は熱くて入れないので、続いて焼く時は外部からタテマタを使って原木を窯の中に立て入れる。また、焼けた赤い炭を外から掻き出すので、エツプリの柄は長くしてある。

できあがった木炭は、炭俵に詰めて家まで背負って運ぶが、炭俵の材料は茅で、毎晩夜業をして編んだ。



■炭焼小屋での俵詰め



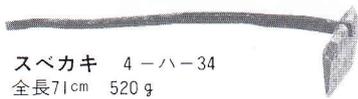
タテマタ 4-ハ-25
全長171.7cm 2,305g
鉄・杉(柄) 原木を窯に立て入れる時使用



エツプリ 4-ハ-30
全長220cm 1,765g
鉄 焼けた炭の掻き出し用



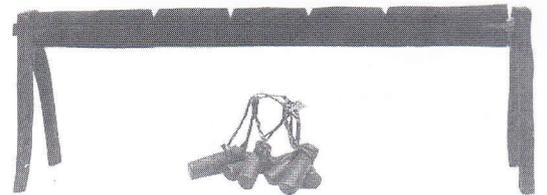
ジョリン 4-ハ-33
全長98cm 1,720g
鉄・ブナ(柄)
焼けた炭に灰をかける時使用



スベカキ 4-ハ-34
全長71cm 520g
ブナ・ヤマザクラ(柄)
焼けた炭にかける灰の掻き寄せ用



クマデ 4-ハ-35
全長41.2cm 290g
杉・五寸釘 炭掻き出し用



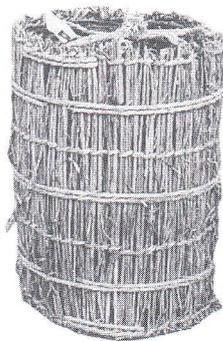
スミダワラアミ 4-ハ-42
高さ41cm 幅118.8cm
コモツチ110g(1個)
杉・その他 炭俵編具



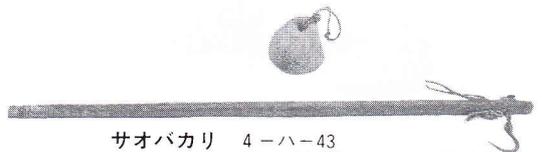
スミキリノコ 4-ハ-36
全長57.3cm 170g
鉄・杉(柄) 炭切り用



スミキリダイ 4-ハ-37
全長59cm
ナラ 炭切り台兼定規



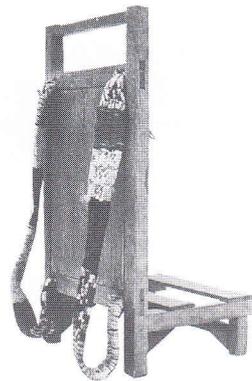
スミダワラ 4-ハ-40
高さ56cm 径40cm
茅・柴 炭収納用俵



サオバカリ 4-ハ-43
全長128cm 1,170g(木竿) 3,860g(分銅)
鉄・木竿・石(分銅) 炭俵計量用



スミトオシ 4-ハ-38
長さ62cm 幅52.8cm
山竹 灰炭選別用



セイタ 4-ハ-47
高さ60.2cm 幅28.9cm 2,000g
杉 炭俵背負運搬用背当板



ニズツポ 4-ハ-48
全長85.5cm 475g
桐 荷杖

れる
限ら
の年
す。
雪の
で苦
かつ
消え
彼岸

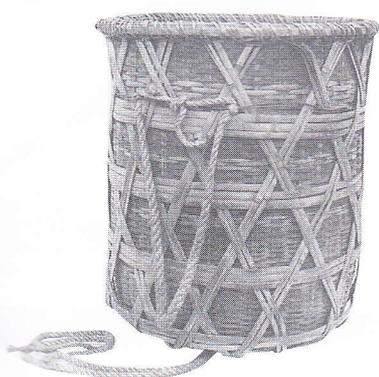
③ 薪拾い用具

薪拾いは、通常から言えばそれを仕事として専念することは少なく、普通は山稼ぎや野良仕事のかたわらにすることが多かった。たとえば農家などでは、仕事の行き帰りには注意して枯れ枝などを見つけておいて、背負って帰るのが日常的であった。殊に山が遠く、山林も持たない家などの場合は、常に薪拾いに気配りする必要があったし、毎朝の焚きつけ用に、よく燃立つ杉葉すぎつばが欲しくて、風の吹いた朝などは拾いに出かけた。この杉葉拾いは、子供たちや老婆の役割のようにしている家が多かった。

したがって、薪拾いの用具といえば、拾い集めた薪を入れる容器であり、それを運んで来るための運搬具が主なものであった。その意味では、下の写真の用具には異質なものが含まれている。その点については、下段で改めて説明する。



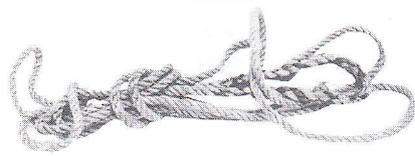
■杉の小枝を集めて杉葉拾いの準備をする子供



ザマカゴ 4-ハ-50
口径57.5cm 高さ71.5cm 4,180g
孟宗竹・山竹 杉葉等背負運搬用



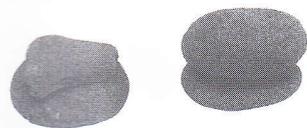
タキモノヒロイカンサツ 4-ハ-51
長さ7.7cm 幅4.5cm 10g
杉 役場発行鑑札



ニナワ 4-ハ-49
全長640cm 太さ1.4~2.5cm 315g
藁・木綿布 枯枝等背負用



イノチヅナ 4-ハ-54
全長714cm 太さ1~2cm 485g
藁 危険予防用綱



オキイシ 4-ハ-55
13×11.5cm 1,275g (大石1個)
川原石 所有者標示用



トビグチ 4-ハ-52
全長191.8cm 655g
鉄・竹(柄) ガス(流木)引上げ用

焚物は、年中一日として無くては暮らしが立たないものだが、冬はなおさらである。また、不時の出来事による消費もあり、限られた量を焚きのばすためにも薪拾いをした。

上の写真の用具に命綱・トビグチ・置き石というものがあるが、これは川辺近くに住む人たちが、信濃川などが増水した際、流されてくる流木(ガス)を拾う時に使ったものである。川岸に打上げられたガスはひとまずおいて、濁流とともに流れ下る流木を拾い上げるのは、まさに命がけである。流れてくる木にトビグチを打込んで引寄せ、流れに逆らって引上げることになるので極めて

危険な作業である。この時、引込まれて流されないように腰につけて木株などにとめておくのが、命綱である。

打上げられたガスの配分方法は所によって様でないが、自分が拾ったガスの所有権を標示するのが置き石であり、これを集めたガスの上に置いた。

もう一つの「焚物拾い鑑札」は、記名のある山田さんが、他人の持ち林で薪拾いしたことでトラブルがあった時に立入りできるようにと村役場が発行したものであって一般的ではないが、薪拾いが生活権にもかかわることを示すものとして興味深い資料である。

ニ 狩猟用具

十日町市域で行われた狩猟は、希に熊を仕留めることもあるが、主として小動物が対象である。中でも多く見られたのは野兎猟で、それも戦時中の軍の需要期を除けば、冬季のレクリエーション的なものであった。今回収集したものは、それに重点を置いている。

野兎猟に銃を使うようになるのは、一般的には昭和の初めころからである。それまでは、傾いた木に雪が降積んでできた雪穴の入口にひそんでいる兎に物を投げて威嚇し、それにおびえて雪穴に隠れ、木の根元に入ったところで出口をふさいでから掘出して捕える、という猟法

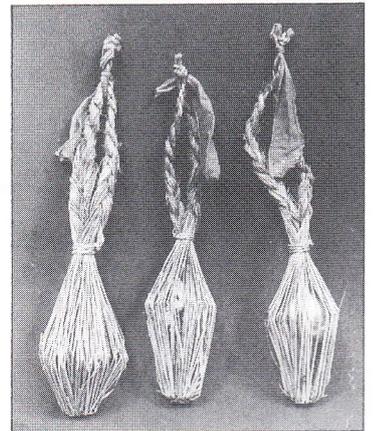
であった。他の方法には、兎の通り道に針金で作って仕掛ける罠があった。

物を投げて嚇す用具の一種に秋山郷のドーナツ型のワダラ（東北地方ではワラダ）があるが、今回当地で収集したものは、木の枝で作ったベエ、ワラツト状のズツペ、棧表型のマトの三種類であり、これを投げる動作をマトブチ・ズツペブチなどといった。ベエは山で現地調達して使うものであり、他は家から用意していくが、ズツペは現場でツトの中に雪を入れて重さをつけてから投げるものである。

（威嚇猟用）



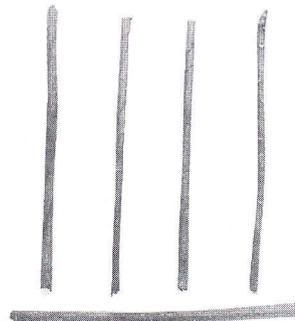
■ワダラを投げるようす



ズツペ 4-ニ-4
全長67cm 195g(1本)
藁 野兎威嚇猟用投擲物(藁ツト型)
中に雪を詰める



ベエ 4-ニ-1
長さ85cm 260g(1本)
杉枝 野兎威嚇猟用投擲物



ベエ 4-ニ-2
長さ68cm 240g(1本)
クルミ枝 野兎威嚇猟用投擲物



ワダラ 4-ニ-8
径27.3cm 115g
藁・木片 野兎威嚇猟用投擲物(円盤型)



マト 4-ニ-5
径30cm 210g(1個)
藁・赤い木綿布
野兎威嚇猟用投擲物(棧表型)

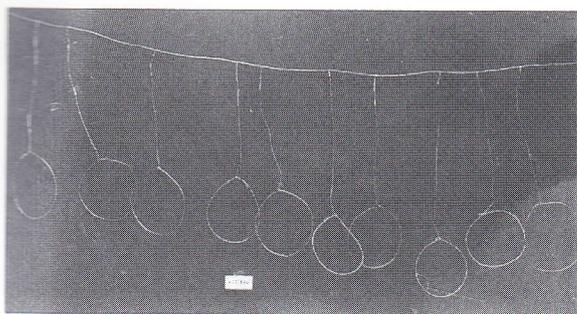


マト 4-ニ-7
径29.5cm 263g(1個)
藁 野兎威嚇猟用投擲物(棧表型)

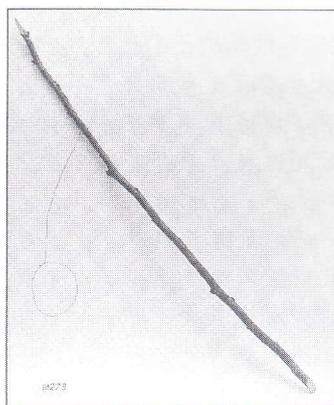


ワダラ 4-ニ-10
径33cm 198g
藁・木片 野兎威嚇猟用投擲物(円盤型)

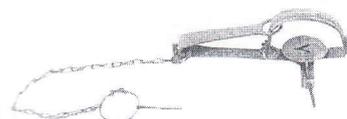
〔真狸用〕



ワナ 4-ニー-12
針金全長 248cm
針金 野兎捕獲用(兎の通り道に張る)



ワナ 4-ニー-13
棒長さ90cm 針金長さ33cm 針金径11cm 120g
雑木・針金 野兎捕獲用(兎の通り道に仕掛ける)



トラバサミ 4-ニー-14
全長20cm 幅10cm
鉄 イタチ等小動物捕獲用

〔その他伝統猟用〕



ヤリ 4-ニー-16
全長198cm 1,115g
鉄・木(柄) 突具



トリダシボウ 4-ニー-18
全長57cm 90g
木の枝 アナグマ等取出し用



ヤリ 4-ニー-17
全長135.7cm 652g
鉄・木(柄) 突具

〔鉄砲猟用〕



テッポウ 4-ニー-19
全長100cm 2,710g
鉄・その他 猟銃



タマツクリドウゲ 4-ニー-20
鋳型全長37cm 480g
鉄・その他 散弾作り用

■仕留められたツキノワグマの毛皮



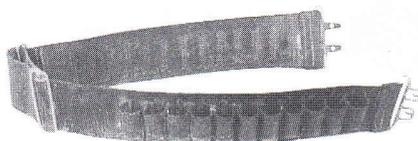
ヤッキョウ 4-ニー-21
全長7.4cm 径2cm
真鍮 火薬を詰めた容器



カヤクバカリ 4-ニー-22
全長12.5cm
真鍮・その他 火薬計量・掬い込み用



フタキリ 4-ニー-25
全長8cm
鉄 薬莖の蓋作り用

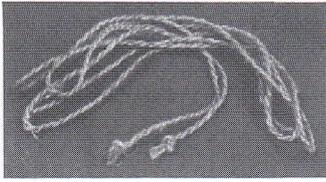


ヤッキョウバンド 4-ニー-30
全長80cm 幅6.8cm 280g
牛革・その他 薬莖入れ



タマツメ 4-ニー-29
全長13.1cm
鉄・その他 薬莖の弾詰め用

〔処理用・その他〕



ククリナワ 4-ニ-34
全長356cm 37g
藁 捕獲した兎の背負用



コガタナ 4-ニ-36
全長22.2cm 55g
鉄・その他 皮剥・解体用



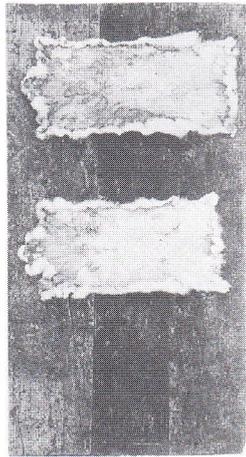
ハリイタ 4-ニ-37
長さ89cm 幅34cm
杉 皮張板(兎用)



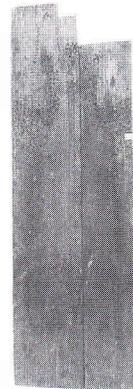
ハリイタ 4-ニ-38
長さ79cm 幅27.8cm
杉 皮張板(兎用)



ハンゴ 4-ニ-35
長さ318cm 幅42cm
杉 獲物吊し用(皮剥・解体用)



ハリイタ 4-ニ-39
長さ138.5cm 幅77.8cm
杉 皮張板(兎用)



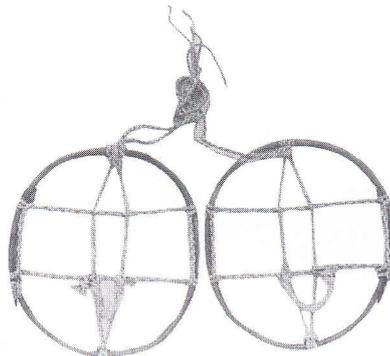
ハリイタ 4-ニ-40
長さ132.5cm 幅43cm
杉 皮張板(狸用)



ハリイタ 4-ニ-41
長さ91cm 幅15.6cm
杉 皮張板(イタチ用)



ホネツブシシ 4-ニ-44
34.5×30.5cm 高さ11cm
自然石 兎骨叩き台石



ウサギトリカンジキ 4-ニ-46
長さ45.2cm 幅40.5cm 285g(片方)
山竹・藁縄
野兎猟用雪上歩行用輪標

ウサギ汁あれこれ

捕った兎の肉や毛皮の換金を目的とする猟師も少数ながらいたが、それも農耕の余暇を見てのことで、冬季に限った仕事であった。大方の場合は冬籠りの仕事の手の空いた時などに、若い衆たちが誘い合って出かけるものであった。

獲物があれば、家に持ち帰って早速皮を剥ぎ、肉を刻んで兎汁をつくり、仲間の家族や時には近隣の人も呼び集めて賑やかに会食する。肉汁といってもネギや豆腐でも入れれば大御馳走。普段、肉など食べることもない時代だったから。

肉を取った骨だって決して無駄にしない。細かく潰して団子にし、汁に入れて煮て食べた。骨は、石か堅木の台の上で、鉈の背(ミネ)を使って叩いて粉々に潰す。台石が碎けて混じらないように、アブラ石と呼ぶ硬質でなめらかな石を川原から拾って備えておいた。これが唯一の動物性の蛋白源でもあった。

■肉と骨を潰しているようす



ホ 諸職用具

① 木挽き用具

木挽き職の仕事の大意は、木を伐採して用材にすることと、板に挽分けることである。ここに集めた伐採用具を見ると、その木を倒そうとする方向にウケという切口をユキ・マサカリなどで入れ、その反対方向からダイギリ(=横挽 鋸。またはマドノコ)で切込んで倒す。このとき必要に応じてヤを打込む。また、雑木類や桐材などで根張りのある時は、ユキなどでそれを削り取って根元から切る。これを、根を巻くという。倒した木は枝をユキ・鉋などで払い、用材として必要な長さに玉切る。

搬出・運搬は他の人の仕事だが、それがし易いようにするためにキマワシなど搬出用具も用意していた。

板挽きの基本的な用具は、マエビキという大型の縦挽鋸で、木挽き職を象徴する道具だ。この中に柄首の長いシンギリがあるが、直径の超大な木を挽く時、両方から挽いても木の芯が切れない場合に用いた。

普通の板挽きには、リン・リングという梓木を組み、それに材を立てかけて上から挽くが、特に長い材の場合は、写真に見るように横に置いて挽くこともある。なおリングの横木は、上下に移動できるように結束しておく。

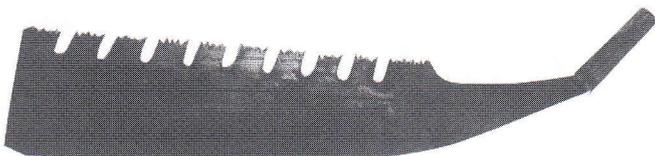
〔伐採用〕



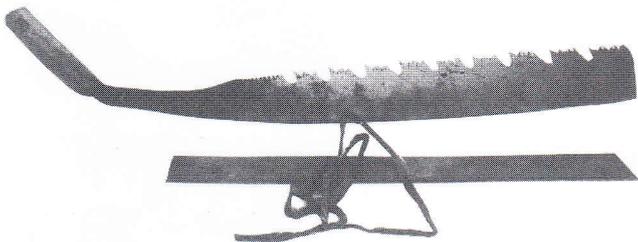
ダイギリ 4-ホ-3
全長83.5cm 715g
鉄・桐(柄) 伐採用横挽鋸



ダイギリ 4-ホ-5
全長100.5cm 1,040g
鉄・桐(柄) 伐採用横挽鋸



マドノコ 4-ホ-9
全長115.5cm 2,330g
鉄・桐(柄) 伐採用横挽鋸(改良型)



マドノコ 4-ホ-11
全長103cm 823g
鉄・桐(柄) 伐採用横挽鋸(改良型)



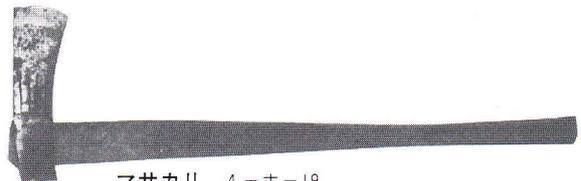
ソマユキ 4-ホ-14
全長65cm 1,650g
鉄・イタヤ(柄) 伐採・枝打ち・はつり用



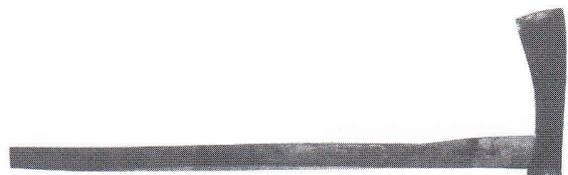
ソマユキ 4-ホ-15
全長88.4cm 2,990g
鉄・イタヤ(柄) 伐採・枝打ち・はつり用



オノ 4-ホ-17
全長84.8cm 1,400g
鉄・イタヤ(柄) 伐採・枝打ち・はつり用



マサカリ 4-ホ-19
全長86.3cm 2,360g
鉄・イタヤ(柄) 受口切込み・根巻き用



マサカリ 4-ホ-22
全長96.2cm 3,006g
鉄・イタヤ(柄) 受口切込み・根巻き用

木挽きの仕事

見
積
も
り

伐
採

建てる家の坪数に応じた材木の石数を見積る。



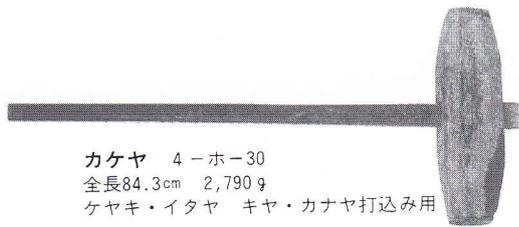
木を倒す側にマサカリなどでウケという切込みを入れ、反対側からダイギリなどで挽いて倒す。



キヤ 4-ホ-26
全長28.9cm 370g
イタヤ 楔



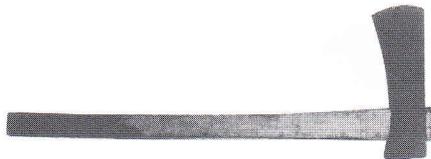
カナヤ 4-ホ-29
高さ23.4cm 2,135g (右端)
鉄 楔



カケヤ 4-ホ-30
全長84.3cm 2,790g
ケヤキ・イタヤ キヤ・カナヤ打込み用



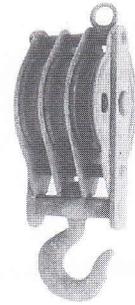
ナタ 4-ホ-37
全長41.5cm 630g
鉄・イタヤ(柄) 柴採取用



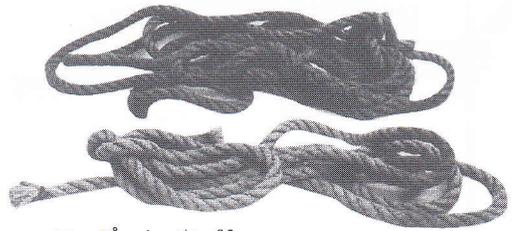
カンブチ 4-ホ-34
全長65.9cm 2,760g
鉄・イタヤ(柄) 枝打ち用



チョウナ 4-ホ-38
全長51cm 660g
鉄・木(柄) 用材の荒削り用



キンシャ 4-ホ-33
全長42cm 幅14.5cm 15.4kg
鉄 滑車(ロープと併用)



ロップ 4-ホ-32
全長480cm 790g (上) 全長724cm 1,110g (下)
麻縄 常備用ロープ

〔玉切り用〕



テマガリ 4-ホ-40
全長75.5cm 495g
鉄・桐(柄) 手曲り鋸



ヤマノコ 4-ホ-44
全長105.5cm 456g
鉄・桐(柄) 柄長横挽鋸

玉
切
り

木
出
し



板
挽
き

挽くときはリンギに材を立てかけることが多いが、長尺のものは横に置き、鋸を横に切込んで挽く。

春先、雪原が固く凍みてから、ヤマゾリに乗せて材木を運び出す。

〔搬出用〕

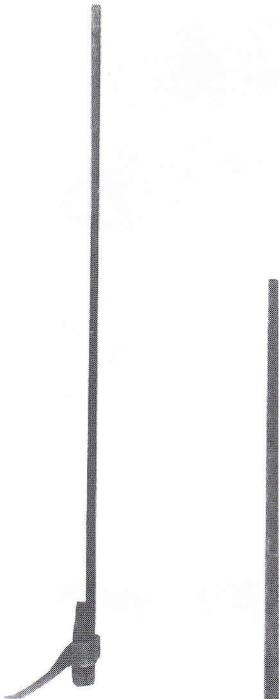
〔板挽き用〕



キバン 4-ホ-48
全長30.4cm 223g
銅・木(柄) 刻印

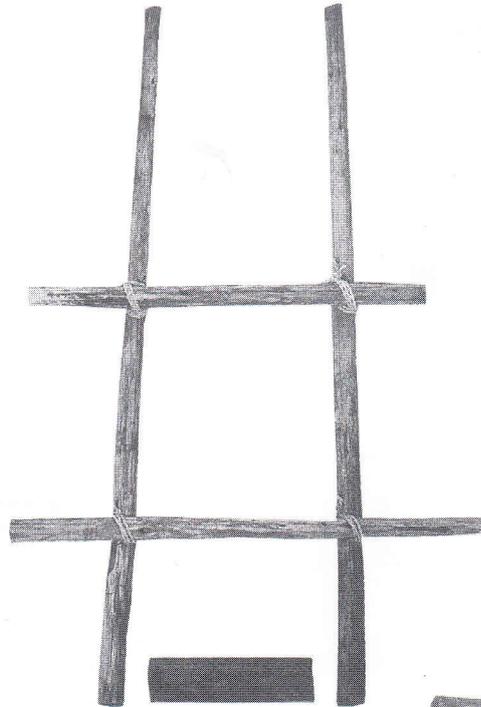


カワムキ 4-ホ-58
全長51.3cm 424g
鉄・杉(柄) 杉皮剥ぎ



テンカギ 4-ホ-51
全長178cm 2,155g
鉄・木(柄) 木材操作用

キマワシ 4-ホ-54
全長149.4cm 1,940g(柄)
全長40cm 1,030g(鉤)
鉄・ナラ(柄) 木材操作用



リング 4-ホ-59
高さ254cm 幅160cm
杉 材木立掛け用



リンクギ 4-ホ-60
全長6.5cm 32g
鉄 材木固定用釘



マガリカネ 4-ホ-61
49×24.3cm 85g
鉄 曲尺



アワセジョウギ 4-ホ-62
長さ91cm
杉 平面点検用定規



スミツボ 4-ホ-63
全長23.5cm
ケヤキ 墨かけ用具



ツル 4-ホ-52
全長130cm 2,500g
鉄・木(柄) 木材操作用



スミサシ 4-ホ-66
全長24.3cm(上)
竹 墨かけ用具



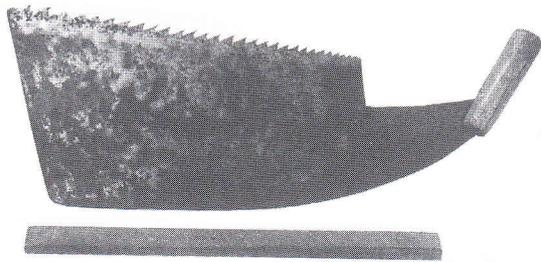
上棟式

木挽き職人

昔の木挽きさんは、たとえば家を建築する時など、そのおおよその設計から用材の見積もりまでしたものだといわれ、特に雑木類を多く使った古い家などでは、^{ちような}手斧やヨキなどを使って用材を仕上げる仕事までしたという。

したがって、昔の^{たてまえ}建前などには木挽き棟梁^{とうりょう}が全体の指揮をとったものだともいわれ、大工が主流になっても木挽き棟梁は大工棟梁と同じく丁重に扱われた。

単に木挽きと言えば、板や材を挽分ける職人だが、実際はキコリ(樵夫)も兼ねていて、山に入っの仕事も多かったので、山にまつわる昔話など多く伝承していた。



マエビキ 4-ホ-74
全長82.8cm 2,550g
鉄・桐(柄)・杉(鞘) 縦挽鋸



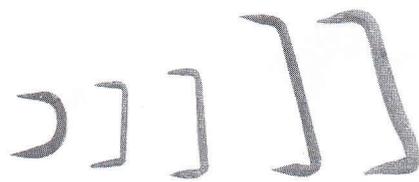
マエビキ 4-ホ-75
全長87.5cm 3,150g
鉄・桐(柄)・杉(鞘) 縦挽鋸



シングリ 4-ホ-98
全長133.9cm 3,050g
鉄・桐(柄) 縦挽首長鋸



ノコギリレ 4-ホ-101
長さ91cm 幅29.5cm 2,775g
杉 背負用鞘



ツカミ 4-ホ-70
長さ22.6cm 300g(右)
鉄 材木固定用カスガイ



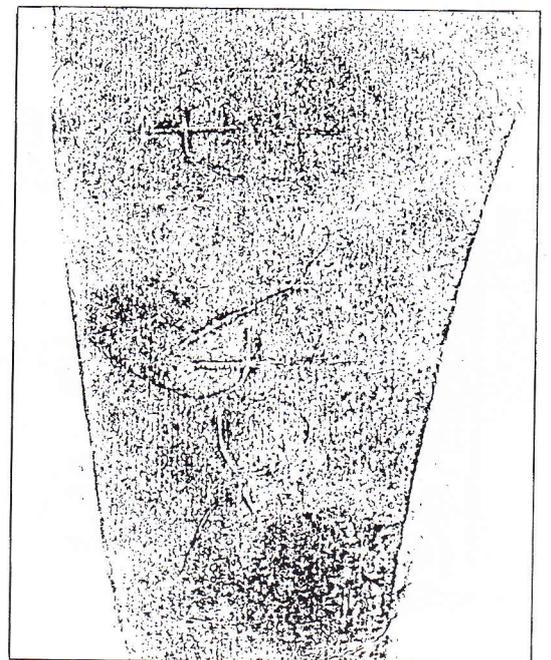
ツカミ 4-ホ-67
長さ31cm 500g
鉄 材木固定用カスガイ



ツカミ 4-ホ-69
長さ74.5cm 440g
鉄 材木固定用カスガイ

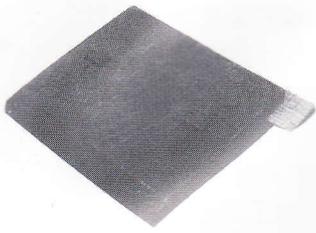


カナヅチ 4-ホ-72
全長31.3cm 760g
鉄・ナラ(柄) カスガイ打込み用

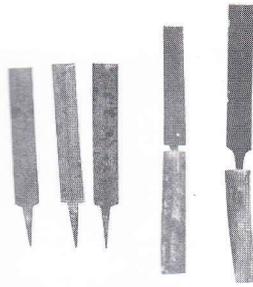


■マエビキ頭部の銘「七郎右衛門」4-ホ-81

〔鋸調整用〕



ノコギリバサミ 4-ホ-102
全長27.5×24cm 1,595g
ケヤキ 鋸固定具



ヤスリ 4-ホ-106
全長28.8cm 95g(右)
鉄・木(柄) 目立て用



ヤスリ 4-ホ-107
全長25.4cm 55g(左)
鉄・木(柄) 目立て用



ヤスリ 4-ホ-110
全長11.5cm 8g(上下とも)
鉄 目立て用



メフリ 4-ホ-117
全長12.8cm 65g
鉄・桐(柄) あさり出し(目振り)用



カナトコ 4-ホ-118
長さ11.8cm 975g(鉄)
径14cm 高さ12.5cm(桐台)
あさり出し(目振り)用敷台



ハツチ 4-ホ-121
全長22.7cm 115g
鉄・竹(柄) あさり出し(目振り)用



ヤスリバサミ 4-ホ-111
全長12.8cm 25g(上)
杉 取外し式柄(ヤスリ用)

〔その他〕

コビキショウゾク 4-ホ-125
衣裳一式



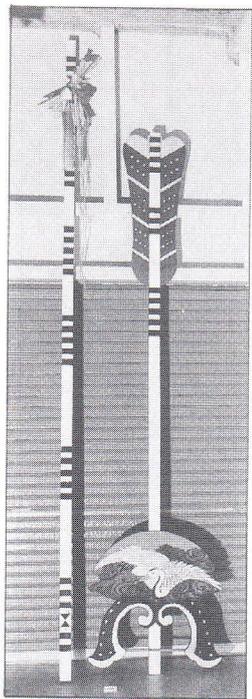
◀ ヤマシャツ シルシバンテン(2点)
モモヒキ テッコ メエアテ キャハン



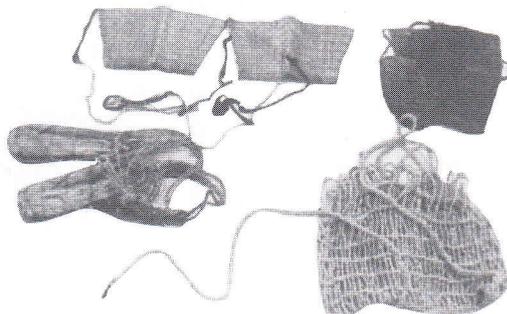
▲ズッキレ シブガラミ
テッコ



カナカンジキ 4-ホ-122
長さ10.2cm 幅10.5cm 245g(片方)
鉄・麻紐 雪氷上歩行用滑り止め金具(鉄製裸)



ヤドウグ 4-ホ-126
全長365cm(左) 308cm(右)
杉 屋根祭用



▲ハツパキ ハツパキ
オンカケ タス



ドウグブクロ 4-ホ-123
長さ35.5cm 幅43cm 370g
南京袋・麻縄 道具背負用

③ 木羽へぎ・木羽葺き用具

木羽屋根職の仕事も無雪期を主とするが、積雪による屋根の損傷が甚しく、雪消え時はその補修に追われた。

作業工程の概要は、材料とする杉の材質を選ぶことには始まり、立木の伐採・大割りなどによるコマづくり、木羽へぎ（木羽づくり）、竹釘づくり、屋根葺きで、この一連の仕事をするための用具もまたさまざまである。

写真に示した用具の中で、ヤバサミは杉皮コバを切るもので刃は直刀型、コバワクは売り木羽を定規格に束ねるのに使い、ヘイソク等はグシマキの屋根祭用である。

木羽へぎ・木羽葺きの仕事

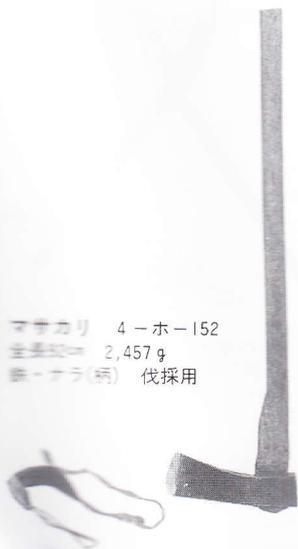
伐採

玉切り



木羽の長さに玉切る。

〔伐採・玉切り用〕



マサカリ 4-ホ-152
全長50cm 2,457g
鉄・ナラ(柄) 伐採用



テマガリノコ 4-ホ-153
全長84.5cm 750g
鉄・桐(柄)・杉(鞘) 玉切り用



シンヤ 4-ホ-154
全長38.5cm 1,000g
ナラ・鉄 楔



カネクサビ 4-ホ-158
長さ13.5cm 108g 紐長さ38cm
鉄・木片 楔



ワキヤ 4-ホ-155
全長39.7cm 473g
ナラ 楔



ワキヤ 4-ホ-156
全長34cm 337g
ナラ 楔



カスガイ 4-ホ-159
全長22.2cm 250g
鉄 材木固定用カスガイ



カスガイ 4-ホ-160
全長23.7cm 400g
鉄 材木固定用カスガイ

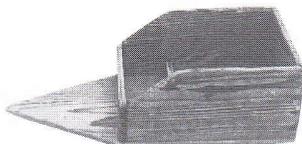


サバノコ 4-ホ-157
全長92.3cm 277g
鉄・杉(柄) 柄長鋸

〔竹釘づくり用〕



キリダシ 4-ホ-189
全長19.2cm 66g 鞘15g
鉄 竹釘用



クギバコ 4-ホ-192
全長35cm 幅16.2cm
杉 竹釘・金釘入れ

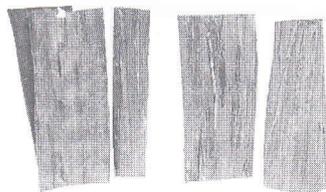


タケクギ 4-ホ-197
全長29cm
竹 半製品

〔製品(杉皮木羽)〕



スギカワムキ 4-ホ-180
全長54cm 405g
鉄・杉(柄) 杉の皮剥用



スギカワコバ 4-ホ-188
長さ36cm
杉皮 杉皮木羽製品



イリナベ 4-ホ-191
口径33.2cm
鉄 竹釘炒り用

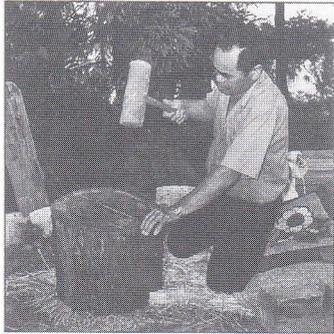


タケクギ 4-ホ-196
長さ3.8cm~4.3cm 太さ0.3cm~0.4cm
竹 竹釘製品



ヤバサミ 4-ホ-182
全長71cm 995g
鉄・杉(柄) 杉皮切断用

大 割 り



大割鉈を木口にあてて槌で打ち、木羽材のコマにする。

小 割 り



木 羽 へ ぎ



コマをコバヘギナタで薄く割る(へぐ)。

〔木羽へぎ用・製品〕



オオワリツチ 4-ホ-165
全長17cm 1,520g
ヤマックワ(ヤマボウシ)
大割り用槌



クシガタクサビ 4-ホ-164
全長14.8cm 83g
ヤマックワ(ヤマボウシ)
大割り用楔



テンノウツチ 4-ホ-178
全長26.7cm 492g
ヤマックワ(ヤマボウシ)
木羽へぎ用槌



コバヘギナタ 4-ホ-176
全長37.4cm 348g
鉄・桐(柄) 木羽へぎ用鉈



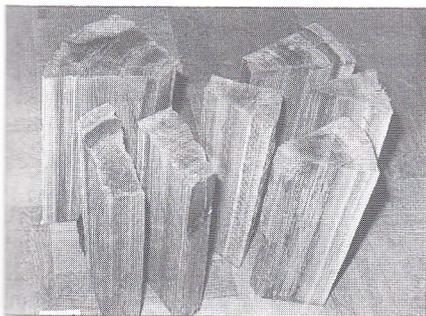
オオワリナタ 4-ホ-162
全長35.7cm 720g
鉄 大割り用鉈



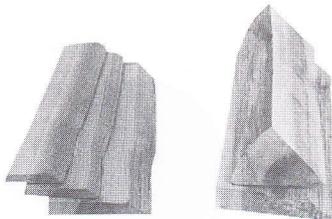
コバヘギナタ 4-ホ-171
全長35.6cm 370g
鉄・木(柄) 木羽へぎ用鉈



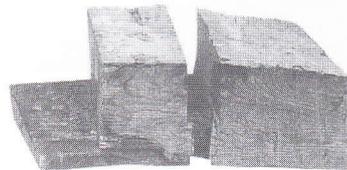
コバヘギナタ 4-ホ-177
全長36.3cm 350g
鉄・桐(柄) 木羽へぎ用鉈



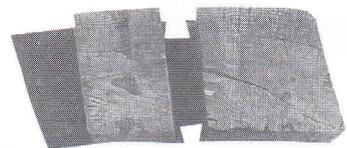
コマ 4-ホ-184
長さ36cm(1個)
杉 木羽の半製品



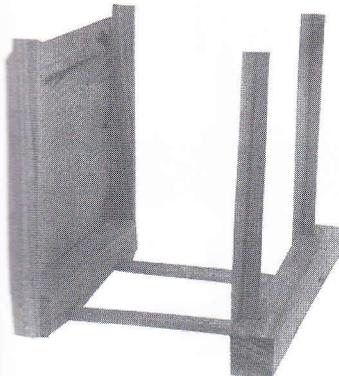
コマ 4-ホ-185
長さ36.8cm(1個)
杉 木羽の半製品



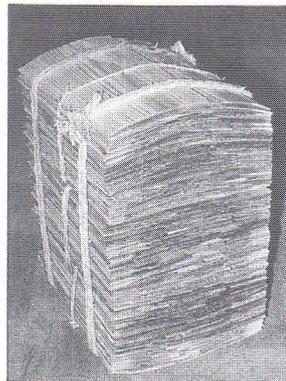
コバヘギダイ 4-ホ-167
全長37.5cm 幅16cm 高さ16cm
杉 木羽をへぐ時の台



(真上)



コバワク 4-ホ-179
高さ36.4cm 底部33.8×46cm
杉 木羽の梱包枠

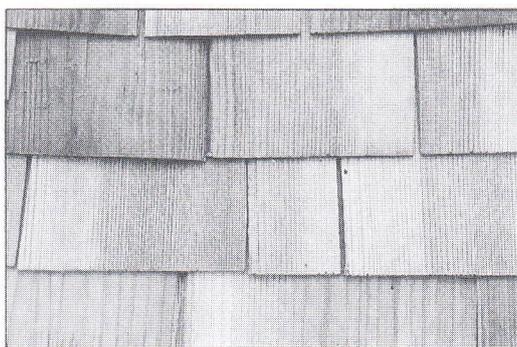


ウリコバ 4-ホ-187
束高さ54.7cm 木羽37×21cm
杉木羽 梱包した木羽



■コバワクを使って木羽を重ねて束ねるようす

木羽葺き



■木羽葺屋根(部分)

ワリダシで搗いたバンダイモチ

木羽へぎ職で、この用具の寄贈者の山田さんから、「ワリダシは、節があつたりして木羽にならない所だが、山で小屋掛けして仕事してる時、こんな形の出ると、これを杵に、切株を臼がわりにして餅を搗いたもんです。バンダイモチといってね、普通のご飯で搗くが、これがまた、うまいもんです。」という話を聞いた。

山住みの楽しみであつたのだろうが、同じバンダイモチを、熊とりの猟師なども獲物のあつたときなど、仮宿のリユウ(岩穴)で搗いたものだということから、本来は山の神の供え物であり、祝祭食であつたのだろうと思う。

〔木羽葺き用〕



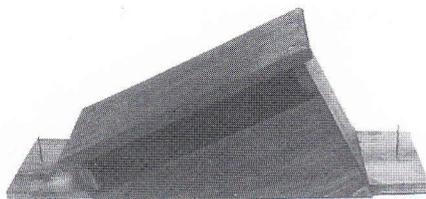
ブンギ 4-ホ-198
全長18cm 30g
杉 定規



トイシ 4-ホ-204
全長32cm
砥石 キリダシ・鉋等手入れ用



ブリキバサミ 4-ホ-203
全長21.8cm 243g
鉄 トタン用



ケツダイ 4-ホ-199
全長62.2cm 高さ23.5cm 1,850g
杉 作業用腰掛

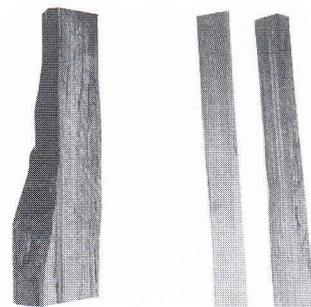


カナヅチ 4-ホ-200
全長28.5cm 280g
鉄・木(柄) 木羽打ち用

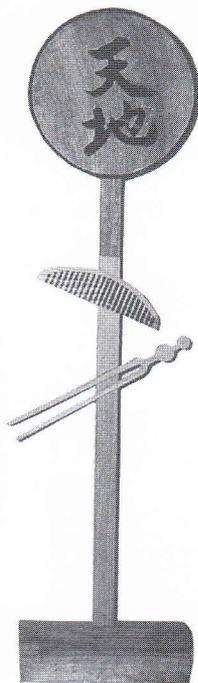


ヤネヅチ 4-ホ-201
全長25.5cm 280g
鉄・栗(柄) 木羽打ち用

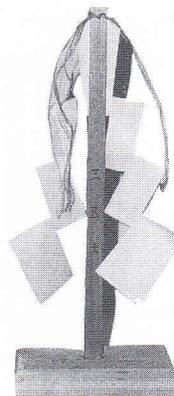
〔その他〕



ワリダシ 4-ホ-206
長さ37cm
杉 番台餅用杵(木屑利用)



ボンテン 4-ホ-208
高さ131cm
杉 屋根祭用



ヘイソク 4-ホ-207
高さ57.7cm
杉・和紙・カラムシ 屋根祭用

オケゴづくり ▶

仮組立て ▶

桶屋の
仕事



ワリガネで湾曲をつけて原木を割り、側板を作る。

④ 桶屋用具

桶は、衣・食・住・生業といった日常生活はもちろん、人の一生に至るまで広く使用された代表的な器物であった。桶屋は、それを家々の要望に応じて現地で作り、修繕もしてくれる。秋から冬が最もその需要が多かった。

桶は、大小・形態ともに雑多であるから、工具もさまざまであり、各人の工夫もあったが、工程の大要は、オケゴ（側板）を形に合せて用意し、それを円型に組立てて竹タガをかけ、底板を入れて締めて仕上げる。その基本となる作業はオケゴ作りであった。

〔オケゴ・底板づくり用〕



オオワリナタ 4-ホ-210
全長38.5cm 1,145g
鉄 側板材の大割り用



クリゼン 4-ホ-213
全長54cm 330g
鉄・桐(柄) 側板の外表面削り用

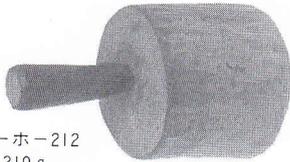
ウチゼン 4-ホ-215
全長35cm 226g
鉄・桐(柄) 側板の内表面削り用



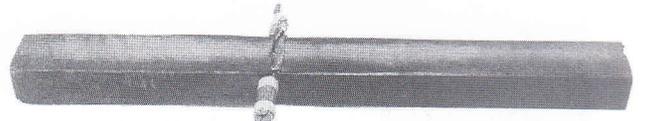
ワリガネ 4-ホ-211
全長46.3cm 467g
鉄 湾曲型



ソトゼン 4-ホ-217
全長59.7cm 573g
鉄・桐(柄) 側板の外表面削り用



ヨコヅチ 4-ホ-212
全長22.9cm 1,310g
ヤマックワ(ヤマボウシ)
側板の削り用(大割り鉋・割り金と併用)



ショウジキ 4-ホ-219
全長109.8cm 7,465g
イタヤ 側板の側面削り用(材を押しあてて削る)



ショウジキ 4-ホ-221
全長188cm 21.5kg
イタヤ 側板の側面削り用(材を押しあてて削る)



ケズリダイ 4-ホ-232
全長42cm
杉 側板の外表面削り用敷板



ウチガンナ 4-ホ-222
全長28.4cm 885g
鉄・カン(台) 側板の内表面削り用



ケズリダイ 4-ホ-233
全長56.6cm
杉 側板の外表面削り用敷板



ソトガンナ 4-ホ-227
全長24.7cm 523g
鉄・カン(台) 側板の外表面削り用



ウチガンナ 4-ホ-224
全長24.4cm 547g
鉄・カン(台) 側板の内表面削り用



ソコガンナ 4-ホ-229
全長8.8cm 95g
鉄・カン(台) 桶の内面の仕上げ削り用



ジョウギ 4-ホ-234
全長30.3cm
朴 自製物指



ワキトリガンナ 4-ホ-230
全長17cm 125g
鉄・カン(台) 底板の継ぎ合せ部調整用



タテビキノコ 4-ホ-236
全長56cm 413g
鉄・杉(柄) 側板材の挽分け用

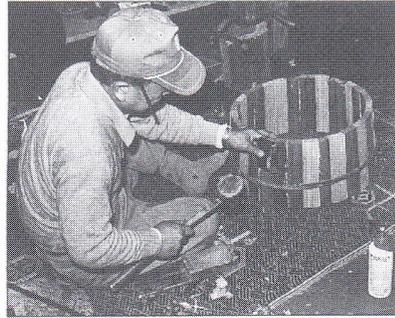
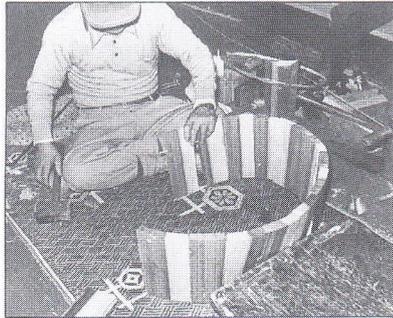
オケゴ仕上げ

竹釘でオケゴを縫う

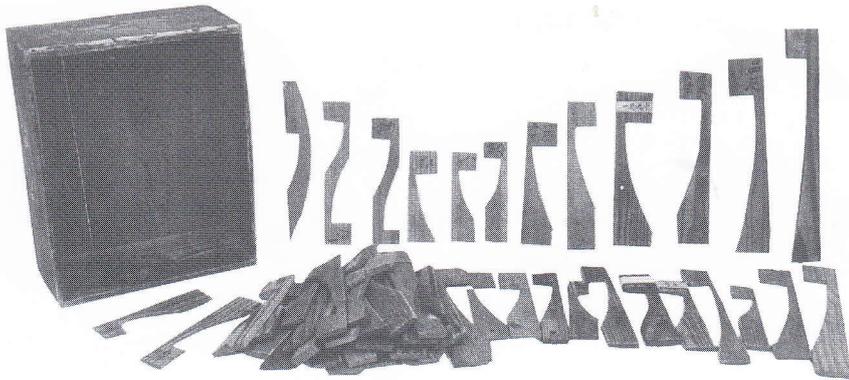
竹タガをかける

底板を入れる

側板の接合面を
整え、竹釘を
刺して接着剤の
続飯で接着させ、
仮タガをかける。



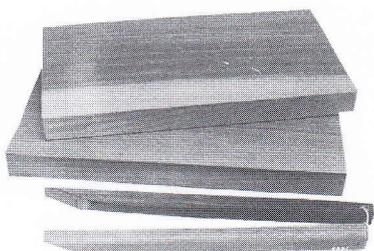
乾いてから、側板の
内側と底板の入る溝を
削る。さらに外側を削
った後、底板を入れる。



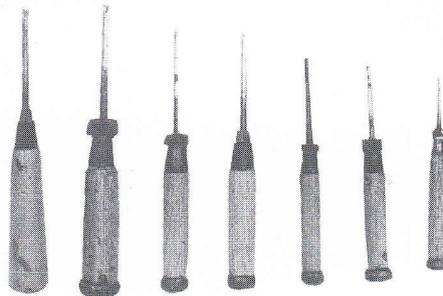
カタジョウギ 4-ホ-235
長さ35.1cm(右端)
杉 桶型定規(全部で50本)
側板の丸み・側面の角度の調節をする



オケゴ 4-ホ-237
長さ16.4cm 幅4.7cm(1枚)
杉 側板



ソクイネリ 4-ホ-238
板37×20cm 厚さ3cm
棒長さ34.8cm 径2cm
杉 飯を潰してソクイ(側板をつな
ぐ接着剤)を作る時使用



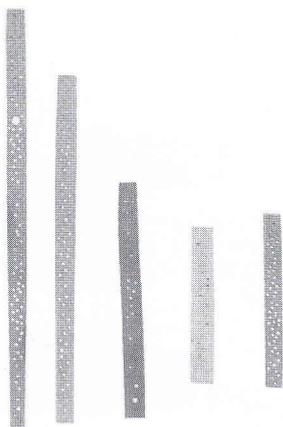
ウチギリ 4-ホ-241
全長23cm 106g(左端)
鉄・カシ(柄) 側板をつなぐ竹釘を
刺し込む際の穴開け用



ミツメギリ 4-ホ-243
全長31.4cm 185g
鉄・木(柄) 板の穴開け用



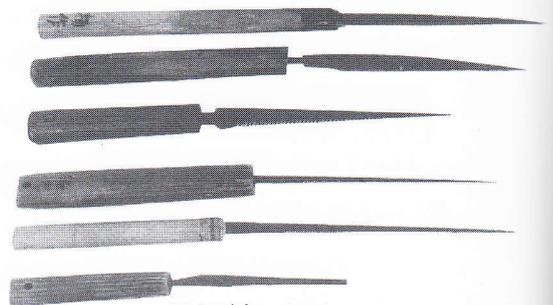
アブラツボ 4-ホ-246
径6.4cm 高さ5.1cm
竹・綿 綿に油を湿し、ミツメ
ギリの刃などに付ける



ブンマタ 4-ホ-239
長さ16.9~40cm
木製薄板 円描き用



キリ 4-ホ-240
全長15.5cm 8g(下)
鉄・木(柄) 円描き用



マワシビキ 4-ホ-248
全長33~64.2cm
鉄・杉(柄) 挽回し用錐形鋸
円などに切る時使用

タガ締め

仕上げ

販売

桶に応じた大きさのタガを作り、ミズボウキで水をつけながらタガにアテギをあて、サイズチで打ちこんで締める。仕上げに外鉋などで細部の調整をしたり、口縁部の面取りをする。

- 節季市で売る
- 注文生産など



■ 竹釘を削っているようす

〔竹釘・タガ掛け用〕



タケキリノコ 4-ホ-251
全長43.5cm 51g
鉄・杉(柄) 竹切り用小歯鋸



タケワリナタ 4-ホ-253
全長29.8cm 273g
鉄・木(柄) タガ竹割り用



タケワリナタ 4-ホ-254
全長27.2cm 330g
鉄 タガ竹割り用



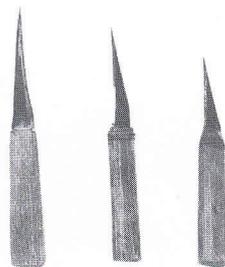
タケセン 4-ホ-255
全長36.8cm 455g
鉄 タガ竹割り・削り用



タケセン 4-ホ-256
全長39cm 450g
鉄 タガ竹割り・削り用



タケズリジョウギ 4-ホ-257
全長30.7cm 35g
竹 タガ竹の側縁を削る時の当て木
(タケセン併用)



コガタナ 4-ホ-258
全長26cm 72g(左端)
鉄・杉(柄) 竹釘作製用



タケクギ 4-ホ-259
全長23.2cm(最長)
竹 側板接合用竹釘



カナベラ 4-ホ-263
全長45.5cm 775g
鉄 タガ掛け用



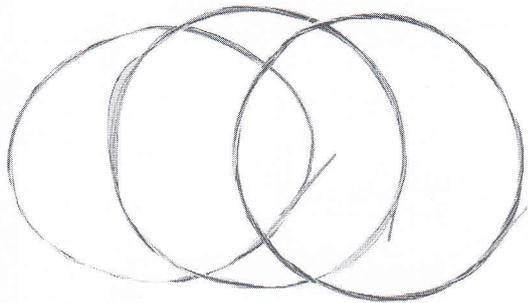
アテギ 4-ホ-265
長さ30.4cm 幅7.4cm 330g
イタヤ タガ打込み用



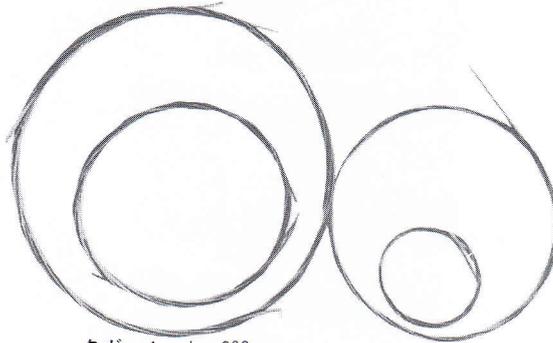
アテガネ 4-ホ-267
長さ9.1cm 305g(下)
鉄 タガ打込み用



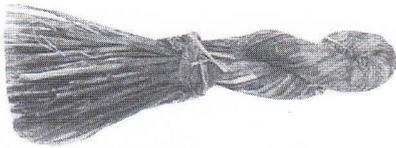
サイズチ 4-ホ-272
全長41.7cm 516g
ヤマックワ(ヤマボウシ)
タガ打込み用(アテギ・アテガネ併用)



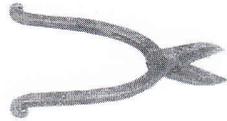
カリワ 4-ホ-261
径68cm
孟宗竹 側板を桶形に組む時に掛ける仮輪



タガ 4-ホ-260
径44cm(最大)
孟宗竹 桶に合せ掛ける桶タガ



ミズボウキ 4-ホ-275
 全長35cm
 藁 タガを締める際タガと桶
 に水を打つのに使用



ハナバサミ 4-ホ-276
 全長16.5cm 205g
 鉄 竹切り用



ケヒキ 4-ホ-278
 全長18.7cm
 イタヤ 底板を組込む際、底の縁に当て
 底板をはめこむ溝を作る時の切
 線を入れるのに使用する罫引



クリゾコノミ 4-ホ-280
 全長19.5cm 62g(下)
 鉄・カシ(柄) 木工用鑿



クリゾコノミ 4-ホ-279
 全長26.5cm 260g(上)
 鉄・カシ(柄) 木工用鑿

〔仕上げ用〕



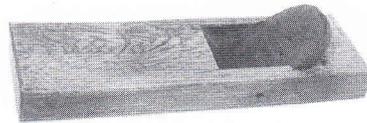
シアゲサオガンナ 4-ホ-289
 全長58.2cm 150g
 鉄・杉(柄) 桶の化粧仕上げ用(ヤリ鉋型)



コグチガンナ 4-ホ-292
 全長27.3cm 750g
 鉄・カシ(台) 木口削り用



シアゲサオガンナ 4-ホ-290
 全長54.2cm 150g
 鉄・杉(柄) 桶の化粧仕上げ用(ヤリ鉋型)



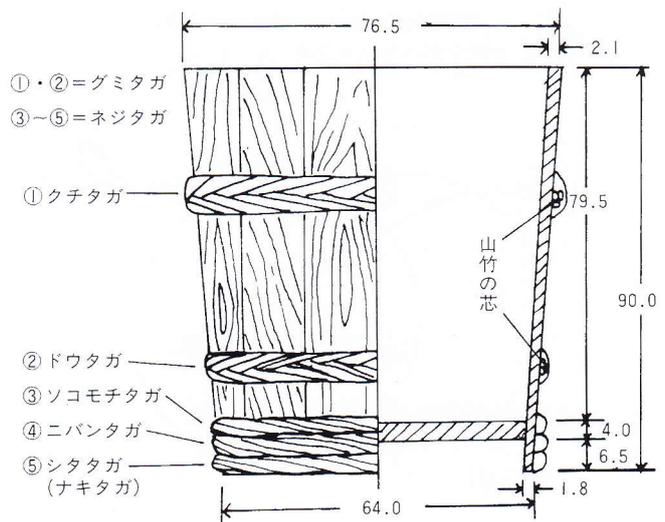
コグチガンナ 4-ホ-293
 全長25.9cm 735g
 鉄・カシ(台) 木口削り用

ミソオケとタガの名称

(単位: cm)



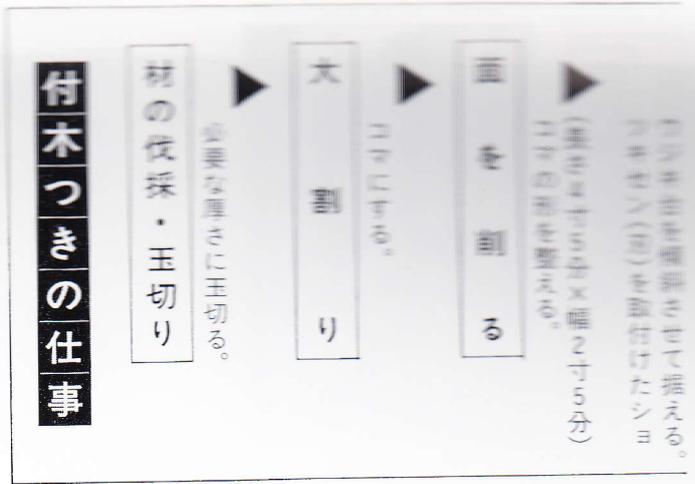
ミソオケ 2-ロ-46



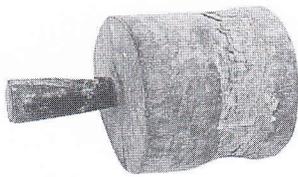
⑥ 付木つき用具

付木は、材料の木（赤松など）を付木形の厚いコマに作り、それをショウジキという大きな鉋の形をしたものに押当てるようにして1枚ずつ薄く削り離していく。この作業をツケギツキという。1枚ずつにした付木は、よく乾燥させてから、硫黄を熱して溶かした中に、一方の先端だけ入れて付着させる。

材料の木は、伐採してから必要な厚さに玉切り、それを大割鉋と横槌を使って割りコマにするが、コマの段階で形を整えてからショウジキにかける。



〔コマづくり用〕



オオワリツチ 4-ホ-296
全長29.3cm 3,080g
イタヤ 大割り用



シャクボウ 4-ホ-297
全長28.8cm
孟宗竹 定規



オオワリナタ 4-ホ-295
全長34.9cm 1,025g
鉄 大割り用



セン 4-ホ-299
全長46.1cm 400g
鉄・桐(柄) コマの整形用

〔付木つき用〕

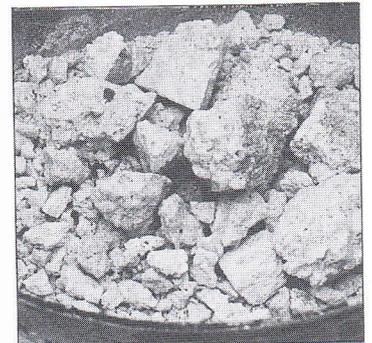
〔硫黄つけ・その他調整用〕



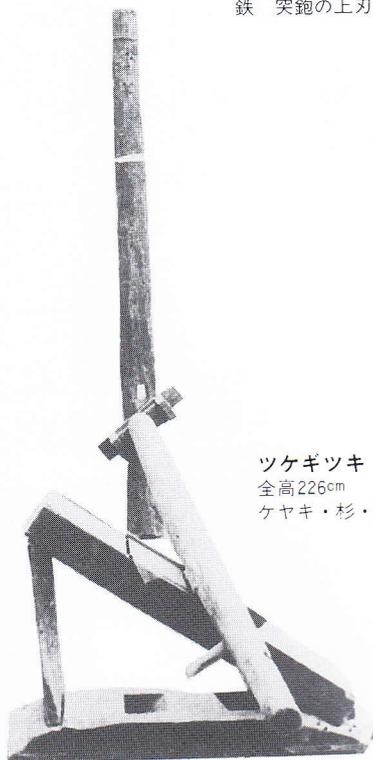
ツキセン 4-ホ-303
全長40.6cm 382g
鉄 突鉋の上刃



イオウナベ 4-ホ-308
口径24.3cm
鉄 硫黄溶解用



■硫黄の塊



ツケギツキ 4-ホ-301
全高226cm
ケヤキ・杉・鉄板 突具一式



タタキボウ 4-ホ-307
長さ16.1cm 106g
ホノノキ 付木揃え用



トイシ 4-ホ-310
全長31cm 高さ5.8cm
砥石 刃砥ぎ用



センノエ 4-ホ-311
全長9cm 径4cm
桐 刃砥ぎ用付け柄(ツキセン用)

ツケギツキで突く



下ろし、薄板にする。
コマを押しつけるように突き

硫黄をつける

た薄板につける。
熱して溶解した硫黄を乾燥し

乾燥させて束ねる

商品とした。
10枚位ずつ重ねて藁で編み、

販売

- 節季市で売る
- 商店に卸す
- 行商に回る

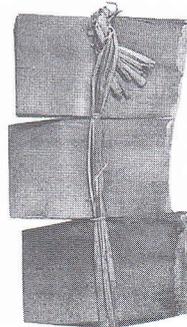


▶ 節季市

(製品)

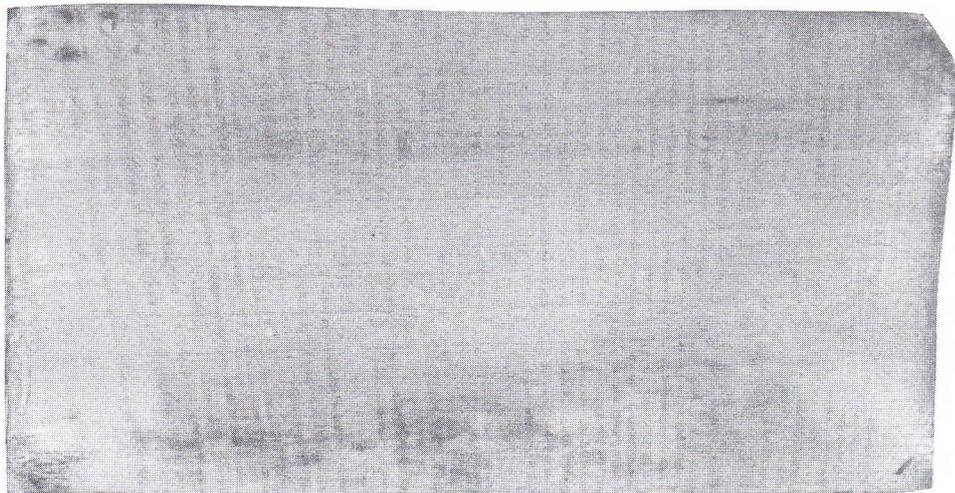


ツケギ 4-ホ-312
長さ12.7cm 幅6.5cm 3g(1枚)
赤松・硫黄 付木製品



ツケギ 4-ホ-313
長さ12.8cm 幅7.4cm 3g(1枚)
計30枚
赤松・硫黄 付木製品

▶ 実物大の付木



付木利用のいろいろ

付木は日用品だから、どこの家でも手近な所に置いてあり、入手も簡単だった。付木はまた、薄くはあるが適当な厚さがあり、面もなめらか、手で裂くのも鋏はさみで切るのも容易だから便利な材料だったし、縁起物でもあった。

焚火の点火が本来の用途だが、暗がりてしよくで物を捜すときなど火を灯して手燭とした。以前、お茶うけにコウセンをなめる時、これを裂いてサジの代用にした。八百屋の店先などでは値段札に使っていたし、同じように文字を書いて言伝ことづてなどに使うこともよくあった。

付木はまた、手軽なお使い物にも用いた。ちよつとし

た頂き物のお返しにしたり、他家を訪れる時の手持品にも適当であり、正月、寺方が壇家を年始回りする折の手みやげにもこれが多かったようだ。

耳の病気に霊験あらたかだといわれる道祖神どうそじんの祠ほこらを訪ねると、平癒祈願の供え物として、耳形になぞらえて付木の輪を連ねたものが吊されているのをよく見かける。また、新生児の初宮参りの時、この上にシロモチなど供えるように、神前に供え物をあげる際に皿の代用にも使った。

適当な紙も手元になく、板の手ごろなもののない時代には、付木はそれらの中間的な便利なものであった。

⑥ 紙漉き用具

紙漉きは、寒い雪中の仕事であった。秋に刈った楮こうぞを釜に入れ、桶を被せて蒸してから皮を剥ぎ、ヒカワを取って雪に晒す。晒した皮は灰汁でよく煮てから洗って、時をかけて叩いて細かい繊維にするが、これをカミソという。これをきれいに洗ってから紙に漉く。漉くには、カミブネに入れた水にカミソを入れ、ネレ（ノリ）を混ぜ合せ、それを紙糞かみすで掬い取るようにして、1枚ずつ漉く。漉いた紙は板に張って乾燥させる。この紙をきれいに切揃えてから商品として売った。

紙漉きの仕事

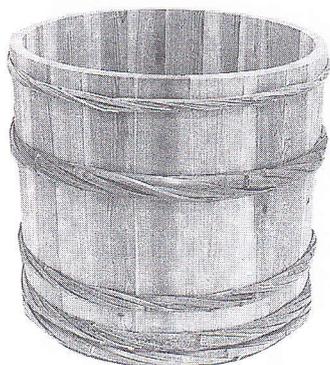
楮の伐採

楮は長さ60cmくらいに切る。

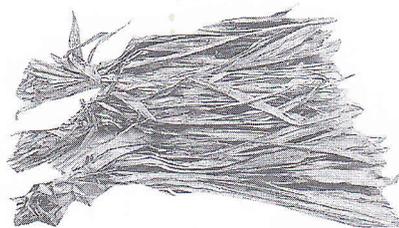
蒸す

分ほど蒸す。てて入れ、蒸桶を被せて約45カマドにかけた平釜に楮を立

〔楮蒸し用〕



ムシオケ 4-ホ-315
口径67cm 高さ59.8cm
杉・竹 楮皮を蒸す時被せる桶



コウゾカワ 4-ホ-401
長さ58cm
楮皮 雪に晒した楮皮 半製品



ヒカワトリ 4-ホ-318
全長9.5cm 刃長さ8.3cm 50g
鉄・桐(柄) 楮表皮掻き取り具



ヒカワトリ 4-ホ-317
全長28cm 刃長さ12.2cm 250g
鉄・杉(柄) 楮表皮掻き取り具



ヒラガマ 4-ホ-314
口径71cm 高さ26cm
鉄 楮蒸し釜



ヒカワトリダイ 4-ホ-320
長さ23.5cm 幅9cm
ワラジ・杉木片 楮表皮掻き取り用敷台



カミソリ 4-ホ-321
全長14.7cm 25g
鉄 楮表皮の節・傷の掻き取り用

〔洗い・叩き用〕



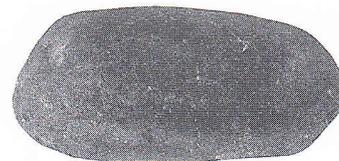
カミオケ 4-ホ-323
口径51.5cm 高さ36.4cm
杉・竹 カミソ洗い用



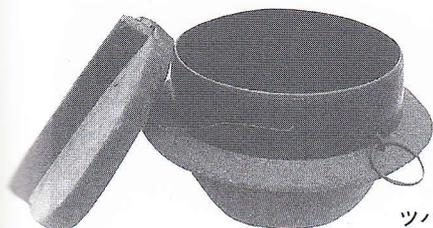
タタキボウ 4-ホ-331
全長62cm 495g
ブナ カミソ叩き棒



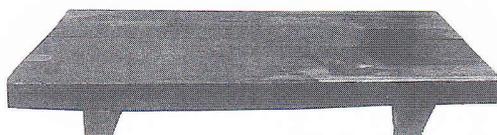
タタキボウ 4-ホ-327
全長71.2cm 565g
ナラ カミソ叩き棒



カミタタキイシ 4-ホ-325
66.5×40.5cm 高さ15cm
自然石 カミソ叩き台石



ツバガマ 4-ホ-324
口径33cm 高さ26.5cm
鉄 カミソ煮込み用



カミタタキダイ 4-ホ-326
88.8×46cm 高さ11cm
イタヤ カミソ叩き台



表皮(ヒ皮)をとる

皮取りで掻き取る。
蒸して剥いだ楮皮の表皮をヒ

雪中に晒す

抜く。
楮皮を晒して漂白し、アクを

灰汁を入れて煮る

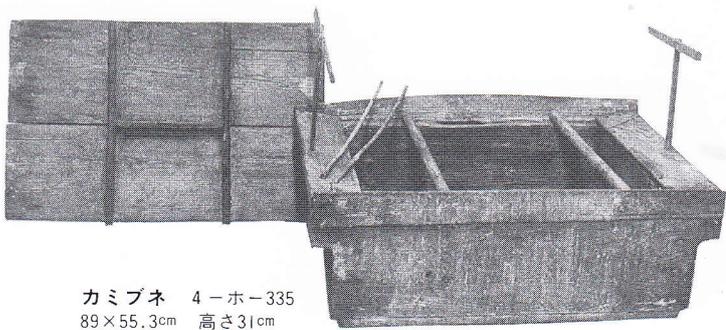
楮皮のアクを抜く。

叩いてカミソにする

する。
にし、水で洗ってカミソ玉に
よく叩いて細かい繊維(カミソ)

漉いて水を切る

〔漉き用〕



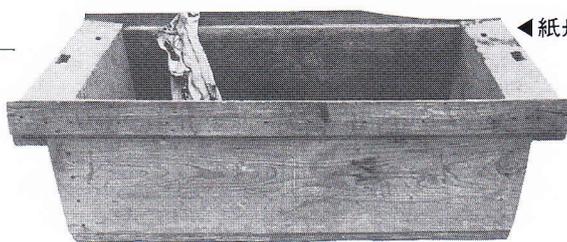
カミブネ 4-ホ-335
89×55.3cm 高さ31cm
杉 紙漉き舟(一枚漉き用)



ミズキリ 4-ホ-339
全長91cm
杉 紙糞の水切り台



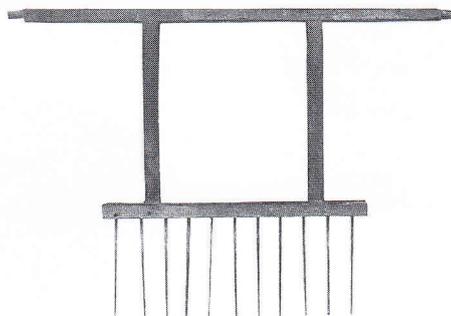
ネレブクロ 4-ホ-342
長さ31.5cm 幅23.5cm
木綿 糊入れ用(中にトロロアオイの根かノリウツギの樹皮の液を入れる)



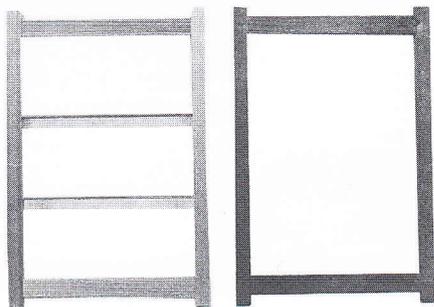
◀紙舟に吊しておき、時折しぼり出す



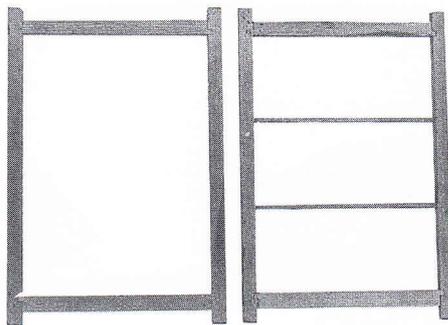
カンマシボウ 4-ホ-337
長さ58.5cm 径1cm 25g(下)
山竹 紙舟中のカミソ溶液の掻き回し用



マンガ 4-ホ-338
幅114cm 高さ78.3cm 1,920g
杉・その他 紙舟中のカミソ溶液の掻き回し用



スゲタ 4-ホ-343
長さ50.8cm 幅39cm 315g(右)
長さ50.8cm 幅36.7cm 345g(左)
杉 紙糞枠木



スゲタ 4-ホ-344
長さ51.8cm 幅35.5cm(左右とも) 255g(左) 273g(右)
杉 紙糞枠木

ホエズ

ホエズというのは紙漉きを使う紙簀かみすの一種で、ススキの穂茎を編んで作ったものである。近年になると竹ヒゴ製のもの主流になるが、これに対しての呼び方であるらしく、漢字を当てると「穂柄簀」であろうと思う。

このホエズ用のススキは、極端に細く育った穂茎も極細のものでなくてはならないが、この産地は中魚沼郡津南町つなんであって、以前は紙産地の刈羽郡小国町おぐにからこの採取に由来という話も残っている。津南方面には最近までホエズ編みを仕事にしていた人がいて、その用具が今も残っている。ホエズの編糸は馬の尻尾の毛であった。

販売

- 商店に卸す
- 行商に回るなど

チリ紙（包紙・袋物・鼻紙用）、障子紙として使用。

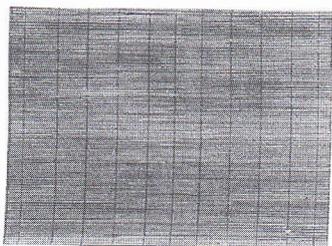
仕上げ

紙の縁を切揃えて仕上げる。

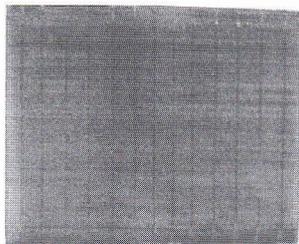
雪中に干す

し、紙干し板に張って干し上げる。紙を束ねて雪中に埋めて漂白

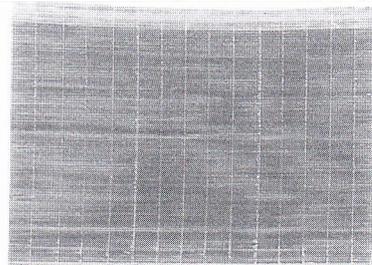
を絞る。紙舟にカミソを入れ、水に混ぜて漉きあげ、締め道具で水



ホエズ 4-ホ-350
38.6×29.5cm 22g
茅の穂茎 紙簀

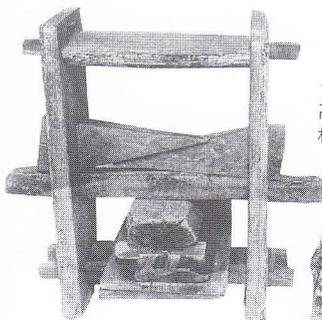


ホエズ 4-ホ-361
43.3×35cm 30g
茅の穂茎 紙簀



タケズ 4-ホ-372
44×32.5cm 58g
竹ヒゴ 紙簀

〔乾燥用〕



シメドウグ 4-ホ-378
高さ82cm 幅88cm 紙板47×34.5cm
杉・ケヤキ 漉き紙の水切り用具



タツノケ 4-ホ-377
全長61cm
タツノケ(コシノホンモンジスゲ)
漉き紙の間に挟み離れ易くする



カミホシボウ 4-ホ-383
全長51.5cm 径2.7cm 128g
杉 漉き紙の板張用



カミボウキ 4-ホ-388
全長13.5cm 70g
モトドリ(草の一種)
紙張り用刷毛



カミホシイタ 4-ホ-380
全長194.5cm 幅34cm
ブナ 漉き紙の張板



カミバケ 4-ホ-390
全長31cm 135g
毛・木(柄) 紙張り用刷毛

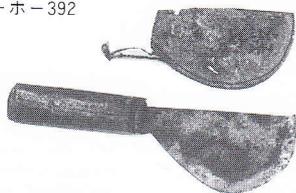


ゴミトリ 4-ホ-386
全長13cm 2g
針・竹 紙のゴミ除き用針

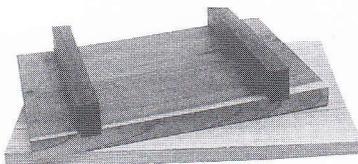
〔仕上げ用〕



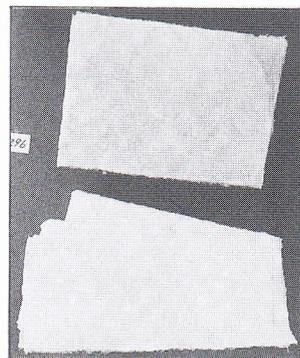
エンタチポウチョウ 4-ホ-392
全長43.9cm 475g
鉄 紙断ち用



エンタチポウチョウ 4-ホ-394
全長27cm 145g
鉄・木(柄) 紙断ち用



エンタチジョウギ 4-ホ-399
上板46.7×31cm 3,237g
下板53.3×36cm 2,636g
イタヤ 紙断ち用定規



ショウジガミ 4-ホ-403
40.3×29.5cm
和紙(楮繊維) 製品

⑦ 箕づくり用具

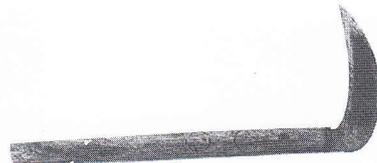
箕の主材となるものは山竹^{ふじつる}と藤^{ふじつる}で、他に山桜の樹皮を若干用いる。いずれも当地の山に自生するものを採取して用いた。当地にこの技術が導入されたのは明治初年ごろと言われるが、農具としての需要が多く、節季市という直接換金の場が手近にあることと相まって、農家の冬季副業として、地域的ながら特産地を形成していた。

一般的に使われるのは一斗箕であるが、必要に応じて八升箕・五升箕・三升箕・一升箕なども作り、また、これの変わり型として、肥撒^{こままきかご}箕・消火用の水汲^{みずくみかご}箕等も作った。

〔採取用〕



ナタ 4-ホ-413
全長38.6cm 418g
鉄・タニウツギ(柄) 材料採取用



ナタガマ 4-ホ-414
全長45cm 380g
鉄・ナラ(柄) 材料採取用

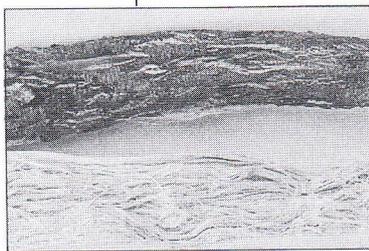
〔材 料〕



フジツル 4-ホ-436
長さ82cm 太さ2cm
藤



フジツル 4-ホ-437
長さ85cm 幅6cm 厚さ0.4cm(1本)
藤 叩いて繊維状にしたもの



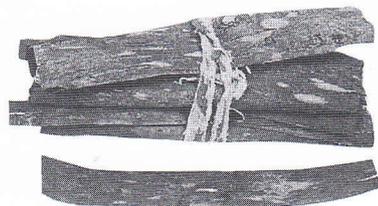
◀叩いて繊維状にしたフジツル(拡大)



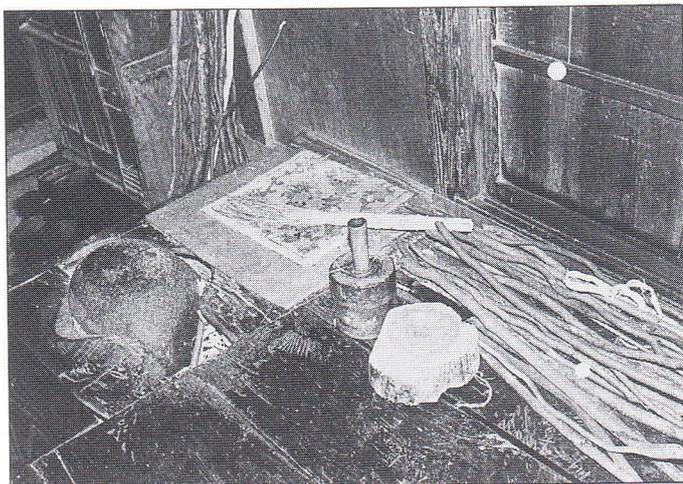
ヤマダケ 4-ホ-434
全長107cm
山竹



ワリダケ 4-ホ-435
長さ104cm 6g(1本)
山竹 割って竹ヒゴ(編竹)にしたもの



サクラガワ 4-ホ-438
長さ25cm 幅13cm(1枚)
桜樹皮 箕の掬い口用



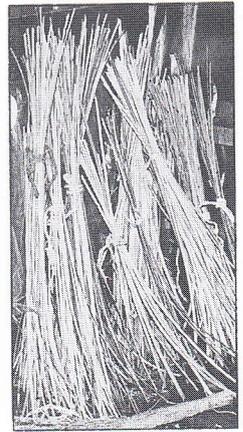
■仕事場のようす

箕づくり

材料の採取

雪降り前ころ山で採取する。

編竹をつくる



藤蔓を叩いて繊維状にする

作る。
山竹を割って編竹(竹ヒゴ)を



ユミを中心に編竹を並べる

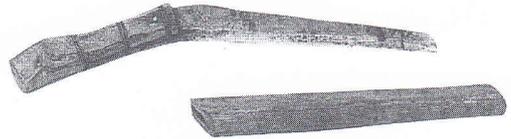
挟む。
のと藤蔓繊維で作ったユミに
その中央部分を竹の板状のも
箕の経糸となる編竹を並べ、



(編上げ用)



ヨコツチ 4-ホ-420
全長25.8cm 730g
ヤマックワ(ヤマボウシ) 藤蔓叩き用槌



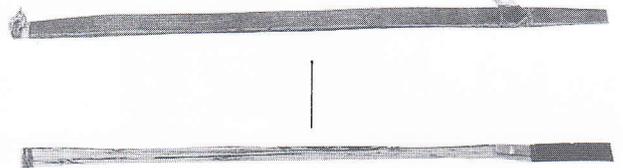
タケワリナタ 4-ホ-421
全長38.4cm 305g 鞘135g
鉄・ウワミスザクラ(柄) 竹割り用



アテギ 4-ホ-418
22.3×23.5cm 高さ11cm
杉 切裁用台木



ジョウバイシ 4-ホ-419
40.2×35.6cm 高さ23.2cm
自然石 藤蔓叩き用台石



ユミ 4-ホ-423
全長85.7cm
竹・藤皮 竹ヒゴを並べて挟む弓



テミズオケ 4-ホ-426
口径29.5cm 高さ17cm
杉 水入れ用



タチ 4-ホ-424
全長87.5cm 245g
ナラ 藤繊維打込み用



ヘタテボウ 4-ホ-422
長さ90.5cm 径1.8cm(1本)
山竹 竹ヒゴの上・下糸仕分け用



ヒラキリ 4-ホ-427
全長13.5cm 45g
鉄・クルミ(柄) 綴じ用補助具



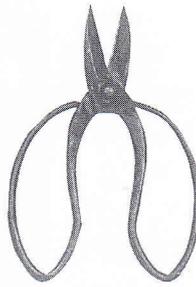
マルキリ 4-ホ-428
全長14.5cm 55g
鉄・カシ(柄) 綴じ用補助具



シャクボウ 4-ホ-425
全長39.2cm
竹 計測用定規



ヤットコ 4-ホ-429
全長17.8cm 115g
鉄 竹ヒゴ引出し用



ハナバサミ 4-ホ-430
全長17.8cm 208g
鉄 竹ヒゴ切断用



フチタタキボウ 4-ホ-431
全長33.5cm 160g
タニウツギ 縁巻き用



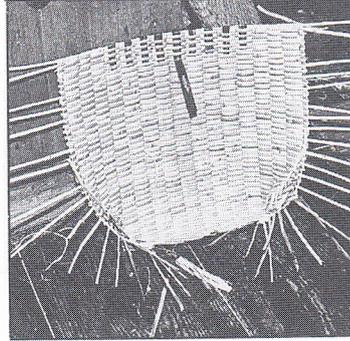
キリダシ 4-ホ-432
全長17.5cm 57g
鉄 桜樹皮採取兼用

藤蔓繊維を織込む



▲ すくい口に桜樹皮を織込む。を挟み、タチで打込む。箕の編竹を上下に分け、藤蔓繊維

仕上げ



▲ 巻いて仕上げる。カマドを立てて組み、縁竹を

販売

- 節季市で売る
- 商店に卸す
- 注文生産

(製品)



ミ 4-ホ-440
長さ60.5cm 幅61.3cm 1,070g
山竹・藤蔓・ブリキ 一斗箕



ツマジリカゴ 4-ホ-443
口径31cm 高さ22.7cm 785g
山竹・藤蔓・竹 肥料撒き用

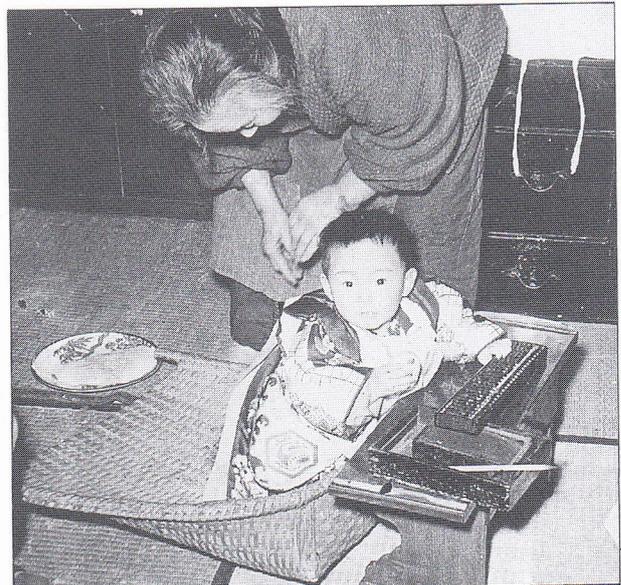


ツマジリカゴ 4-ホ-444
口径35×32cm 高さ14.7cm 505g
山竹・藤蔓・タニウツギ 肥料撒き用

箕の利用いろいろ

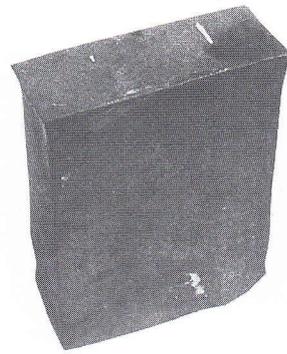
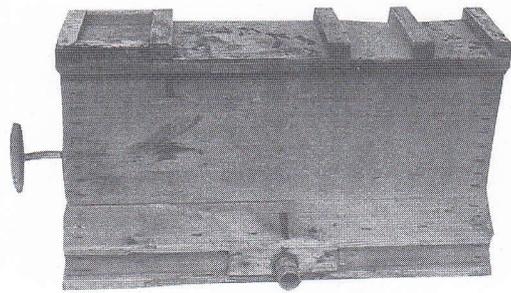
箕は、農具として有用なもので、かつての農家では、家族数だけ揃えておいたものであった。また穀類の簡易な容器として、手持ち運搬用具として、穀物類の脱穀調整作業には欠かせないものであった。それに何よりも箕が重要であったのは、実とシイナや肩をヒダス（煽って選別する）のに必要だったからである。箕はまた、春先、田畑に運んだ堆肥を分配する際にも使い、これを肥箕と呼んでいた。箕は農家で出る粗いゴミの塵取りにも使った。

箕のもう一つの利用は、信仰的なもので、当地で最も一般的な例では、新生児が一誕生（生まれて1年目の誕生日）を迎えた時、その子を箕の中に立たせて、尻に餅を打ちつけるタッチヨモチの行事がある。この他に小正月にこれを使った道具の年取りがあるし、特別な例では、火災の折には大神宮さまを箕に招き入れて避難させるといふ言い伝えがある。

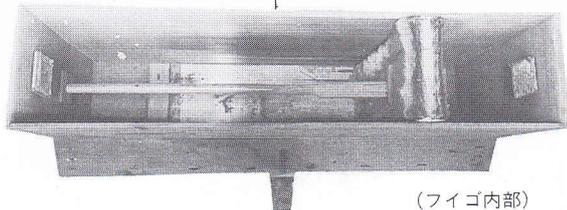


■タッチヨモチのようす

〔鍛冶用〕

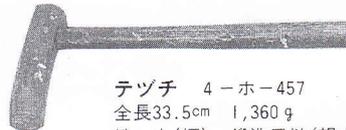


カナトコ 4-ホ-450
34×27.3cm 高さ11.2cm
鉄 鍛造用作業台(地中に埋込む)



(ファイゴ内部)

ファイゴ 4-ホ-447
91.2×22.3cm 高さ51.7cm
杉・その他 火おこし用手動式送風器



テツチ 4-ホ-457
全長33.5cm 1,360g
鉄・木(柄) 鍛造用槌(親方用)



テツチ 4-ホ-458
全長29cm 1,335g
鉄・ナラ(柄) 鍛造用槌(親方用)



ハシ 4-ホ-451
全長25.4cm 267g
鉄 焼鉄持上げ用



ハシ 4-ホ-452
全長37cm 615g
鉄 焼鉄持上げ用



ハシ 4-ホ-453
全長34.8cm 662g
鉄 焼鉄持上げ用



ハシ 4-ホ-455
全長38cm 600g
鉄 焼鉄持上げ用



ハシ 4-ホ-456
全長50.8cm 1,100g
鉄 焼鉄持上げ用



ムコウツチ 4-ホ-459
全長62.5cm 3,420g
鉄・ナラ(柄) 鍛造用槌(向槌用)



アゴツチ 4-ホ-460
全長27cm 435g
鉄・ナラ(柄) 平鍛加工用槌



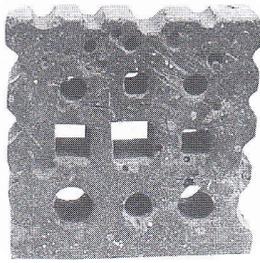
エタガネ 4-ホ-463
全長39cm 600g
鉄・ナラ(柄) 鉄切断用柄付タガネ(向槌と併用)



ヒシキリ 4-ホ-464
全長35cm 970g 金具870g
鉄・ナラ(柄) 丸鉄棒切断用



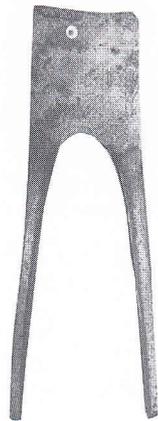
メウチダイ 4-ホ-465
長さ27cm 幅3.4cm 750g
鉄 鉄板の穴あけ用敷台



ハチス 4-ホ-466
23.5×23.5cm 厚さ7cm 25.5kg
鉄 鉄板の穴あけ用敷台兼
加工用金敷



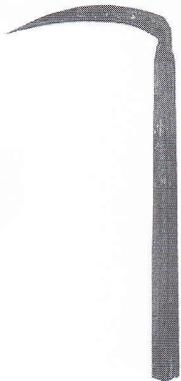
タtemanリキ 4-ホ-467
全長101cm 幅48cm
鉄 縦型万力(加工・仕上げ時
の鍛造物固定用)



クワ 4-ホ-468
全長42cm 760g
鉄 刃先を補修した鍬



カマ 4-ホ-469
刃長さ19cm 90g
鉄 草刈鎌



カマ 4-ホ-470
全長43cm 170g
鉄・杉(柄) 草刈鎌(使いこ
んで刃先が細く
なったもの)



カタ 参考品
全長38cm
杉 大割鉈の木型

〔カナグツヤ(蹄鉄屋)〕

蹄鉄屋の基本的用具は鍛冶屋と同じであったが、この仕事^{ていつ}が当地で始まったのは明治の終りか大正の初めで、軍隊で習い覚えて来た人が開業した。それまでは藁で作ったウマノクツを使っていたが、よく切れ損じて大量に用意しなくてはならないので、これを用いる人が多くなった。そのころは馬を飼う家が多かったので、春先になると蹄鉄打ちで大忙しだった。

牛を飼う人も少なくなかったが、普段は牛には蹄鉄をつけることはせず、運送車などを引かせる牛だけに特別に作って履かせた。それは2枚構成のものであった。

〔蹄鉄つくり・装蹄用〕



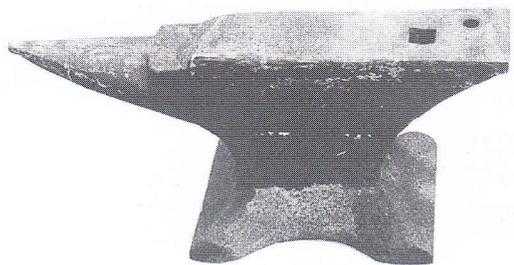
ミゾキリ 4-ホ-473
全長34.5cm 335g
鉄・ナラ(柄) 釘打ち箇所^の溝切り用



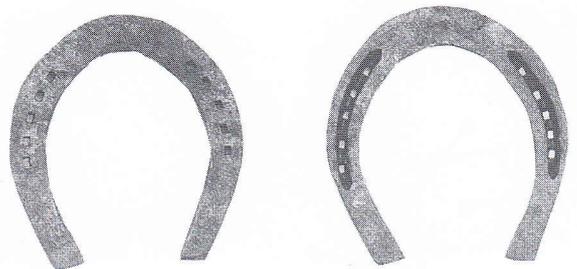
クギメキリ 4-ホ-474
全長33.9cm 325g
鉄・ナラ(柄) 釘穴の位置きめ用



エツキメウチ 4-ホ-475
全長31.4cm 343g
鉄・ナラ(柄) 釘穴の打抜き用



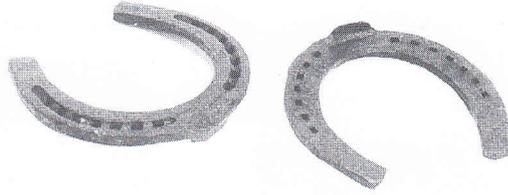
カナトコ 4-ホ-472
全長56.7cm 高さ26cm 63kg
鉄 蹄鉄鍛造用作業台(床置型)



テイテツ 4-ホ-477
長さ13cm 幅12cm 296g(左)
鉄 馬用(前肢用)



テイテツ 4-ホ-484
長さ12.5cm 幅12.5cm 350g(左)
鉄 馬用(左側は後肢用、右側は前肢用)



テイテツ 4-ホ-485
長さ13.9cm 幅14.3cm 435g(左)
鉄 馬用(前肢用)



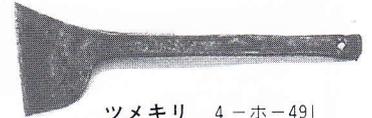
テイテツ 4-ホ-487
長さ10.5cm 118g(右)
鉄 牛用



ハナネジリボウ 4-ホ-489
全長27cm 140g
ブナ・麻縄 蹄鉄装着時の馬静止用



ツメキリ 4-ホ-490
全長35.4cm 327g
鉄 爪切り用(木槌と併用)



ツメキリ 4-ホ-491
全長33.9cm 508g
鉄 爪切り用
(馬の爪の下を削る)



ツメキリ 4-ホ-493
全長21.4cm 148g
鉄・木(柄) 爪切り用
(馬の爪の下を削る)



ツメキリ 4-ホ-496
全長27cm 680g
鉄 爪切り用



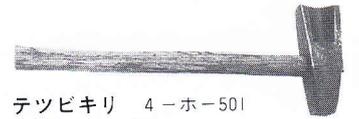
ウラスキ 4-ホ-498
全長19.6cm 70g
鉄・木(柄) 爪のくぼみを削る



カクメウチ 4-ホ-499
全長25.8cm 383g
鉄 蹄鉄の釘穴調節用



チョウセットウ 4-ホ-500
全長14.4cm 140g
鉄 蹄鉄の釘穴調節兼取りはずし用



テツビキリ 4-ホ-501
全長32.5cm 812g
鉄・ナラ(柄) 鉄尾切り用(向槌と併用)



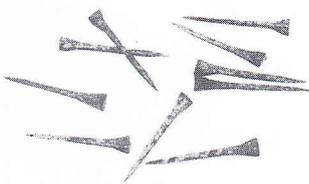
テツビキリツチ 4-ホ-502
全長34.6cm 762g
鉄・ナラ(柄) 鉄尾切り用(一人作業用
・金敷と併用)



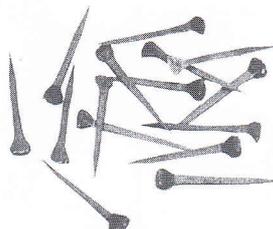
テツビキリカナジキ 4-ホ-503
長さ7cm 幅5.2cm 595g
鉄 鉄尾切り用金敷(一人作業用)



ソウテイツチ 4-ホ-506
全長27.3cm 245g
鉄・ナラ(柄) 釘打ち用



クギ 4-ホ-505
長さ4.9cm 2.5g(1本)
鉄 装蹄用釘



クギ 4-ホ-504
長さ4.9cm 3.3g(1本)
鉄 装蹄用釘



テイロ 4-ホ-508
長さ35.5cm 幅3.8cm 560g
鉄 仕上げ用ヤスリ

へ その他生産・生業用具

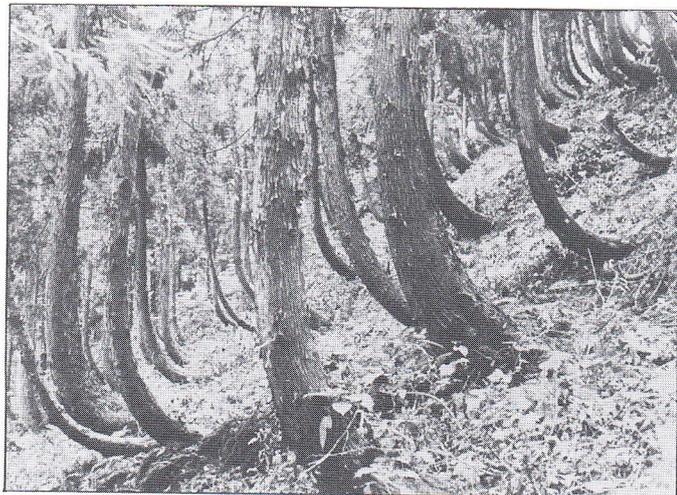
① 桐囲い等用具

下図の用具は、樹木等を保護する雪囲い的一种である。

桐囲いは、雪中、野兔^{うさぎ}や野鼠^{ねずみ}が、食料が無くなると桐の若木の樹皮を食い荒らすので、これを防ぐため、幹を茅で包むように巻き、藁でところどころを結束する。

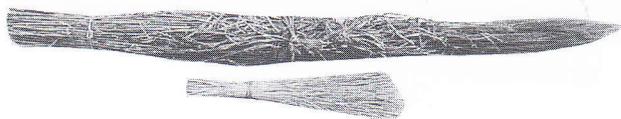
桑囲いは、新しく伸びた桑の木が雪の重さで折れるのを防ぐため、写真のように寄せて藁で結束しておく。

杉起しは、春の雪消え後に行う。杉の若木が雪の重さで倒れるので、縄や藤蔓などを取りつけて引起し、杭や立木に結ぶが、木が成長して雪を越えるまで行う。

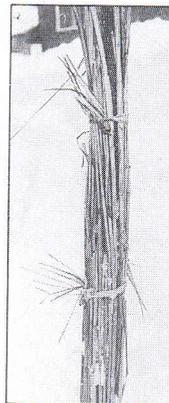


■杉の木の根まがり

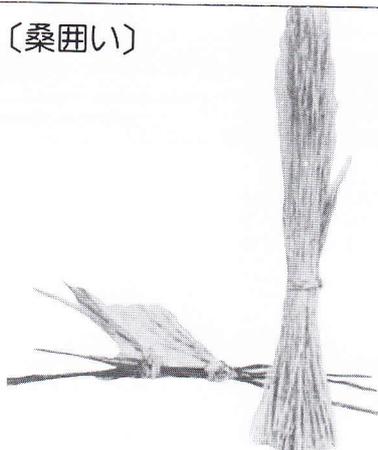
〔桐囲い〕



キリカコイ 4-へ-1
茅長さ322cm
藁長さ118cm
茅・藁 野兔食害防止用囲い



〔桑囲い〕



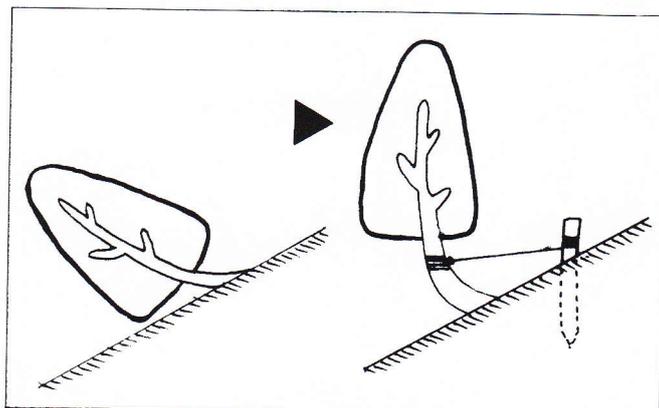
クワカコイ 4-へ-2
藁長さ82cm
茅・柴 雪折れ防止用囲い



〔杉起し〕



スギオコシ 4-へ-3
木長さ56cm 縄全長145cm
木・藁縄 雪害倒伏杉起し用



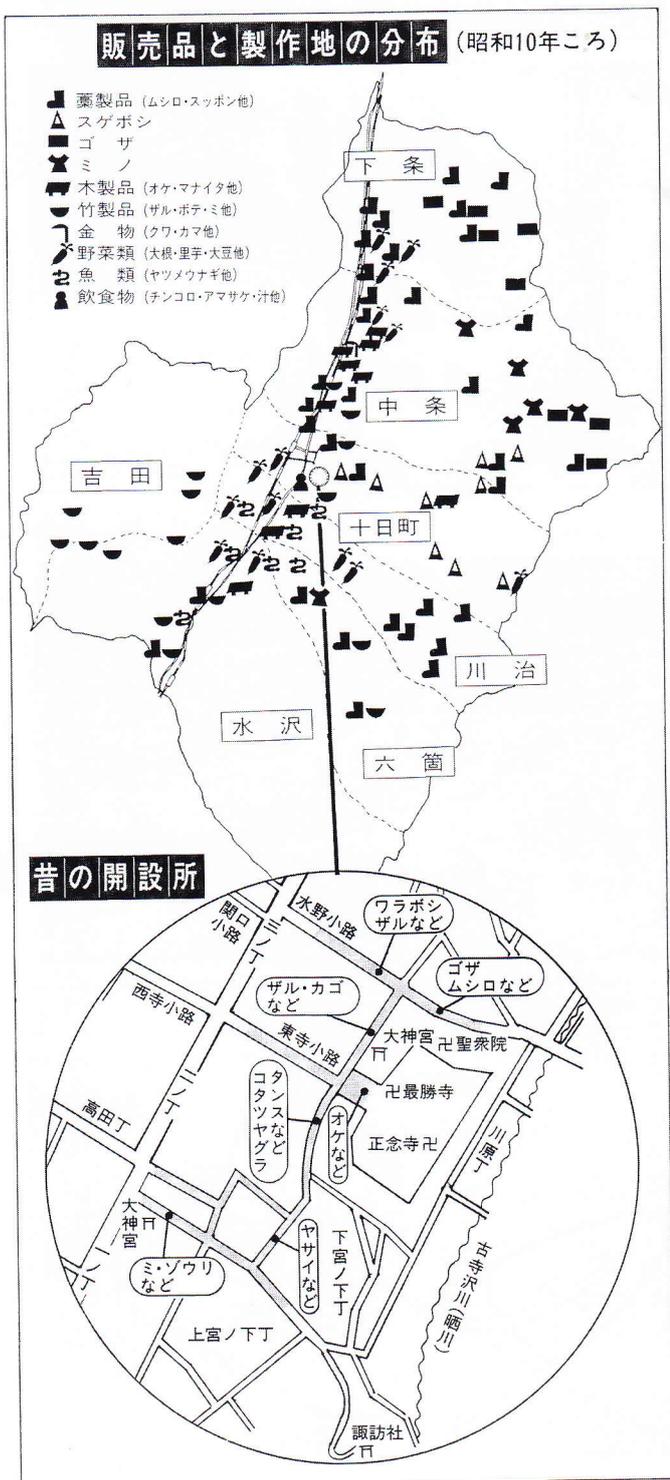
② 節季市用具

十日町の節季市は、現在も正月の10・15・20・25日に開かれているが、正月が旧暦または、あい暦（2月）だったころは、節季すなわち年末の開設が本来で、正月や冬籠りに必要とする品々を調達する場だったのである。

ここに出店するのは、主として近在の農家などの人たちが、それぞれの家が手仕事で作ったものや野菜などを持寄って売った。販売する品目は地域によって特徴があったから、互いに品物の交換もでき、町の人々にも便利であった。出店した人たちは、市で得た金で正月に必要な

なものを町の店で買い求めて帰ることができた。

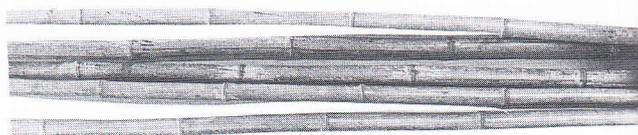
ここに集めた物は、販売場を設けるための用材を主としているが、5日ごとに1日だけの出店だから、すべてその場限りの仮設のものである。雪を台状に積んでそこに商品を並べ、戸板や張板を近くの家から借りてタナとした。降る雪を除ける必要があれば竹竿などを組み、上にコモやトバを掛けて屋根としたが、積もった雪の上に直に並べることもあった。次のページの桶は、信濃川でとれたウナギを売るときの容器である。時によって特別な出品のあることが、この市の楽しみでもあった。



〔小屋掛け用〕



コシキ 4-へ-4
 全長105.8cm 刃先幅26cm 975g
 ブナ 雪処理・雪台づくり用

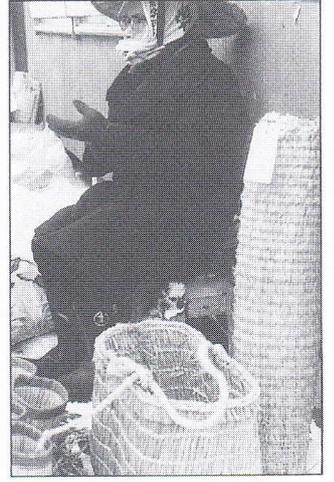
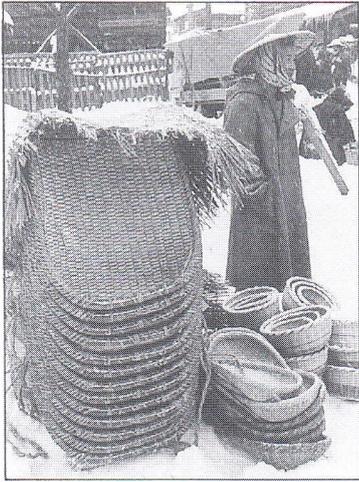


タケザオ 4-へ-6
 最長 453cm
 孟宗竹 仮小屋支柱用

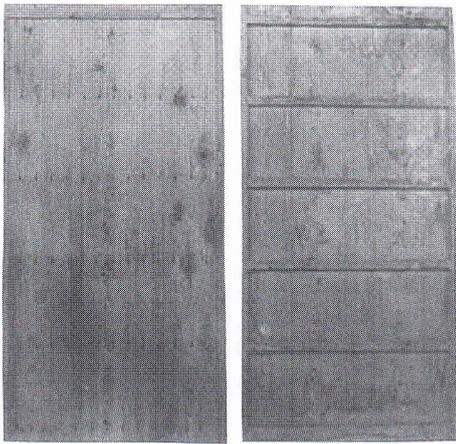
チンコロイチ

チンコロ市は、節季市の別称で、むしろ以前はこれが通称のようでもあった。それは、この市にいつもシン粉細工の仔犬（チンコロ）を売る店が出るからで、子供たちへの土産としてよく売れていた。近年は千支にちなんだものも出ているが、以前は鶏形のものがあり、それをトットコと呼んだ。チンコロの確かな起源は不明だが、近くの酒蔵の若い衆が作ったヒネリモチでの細工が始まりともいう。

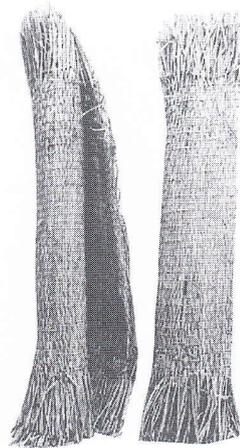
実用品ばかり並んだ雪中に色どりを添えるチンコロは、市の愛称にもなるほどに、楽しく人気者だったのだろう。



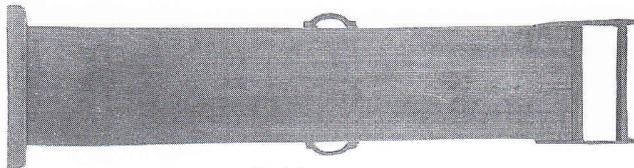
■市の賑わい



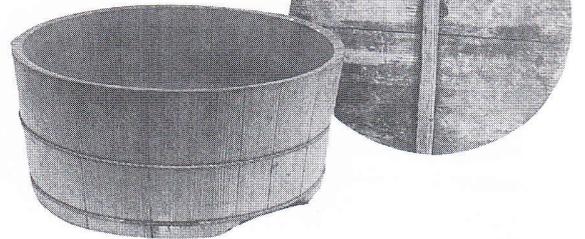
アマド 4-へ-10
長さ179cm 幅89.7cm
杉 販売物陳列用



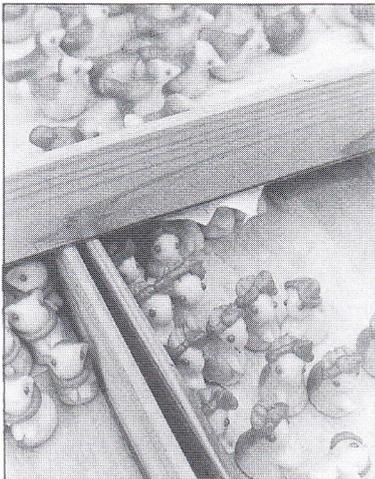
コモ 4-へ-13
長さ211cm 幅123cm
藁 販売物陳列用



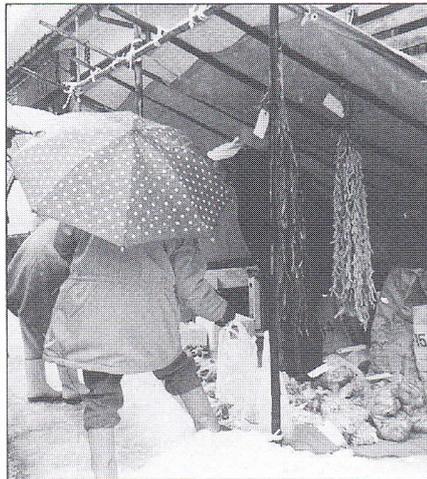
ハリイタ 4-へ-12
全長209cm
杉 販売物陳列用



オケ 4-へ-14
口径51cm 高さ23cm
杉 ウナギ等イケス用



■チンコロ



■市の賑わい



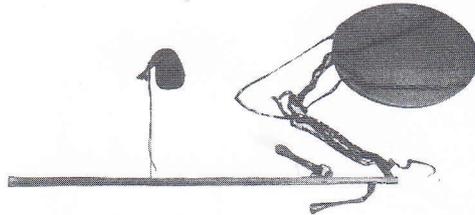
主な品目の値段の推移

年代	薬等細工製品				竹等細工製品			食料品		その他		
	スゲボシ	ミノ	スッポン	ムシロ	ザ	ル	ボ	テ	ミ		サトイモ	ダイコン
大正8('19)	30~35銭	2円 ~2円50銭	15~50銭	35銭	25~50銭	—	—	—	70銭~1円	1升 25銭	1本 2銭5厘~ 5銭	—
昭和4('29)	60~70銭	1円50銭 ~2円	20~25銭	26~27銭	40~50銭	—	—	—	1円 ~1円30銭	1升 20銭	※昭和3年 1貫匁5銭	—
昭和21('46)	20円	40~50円	6~7円	7円	13円	6~8円	—	—	※昭和22年 80円	—	—	—
昭和32('57)	120~150円	300~400円	70~80円	300~400円	60~150円	30~50円	—	—	350円	1貫匁 80円	※昭和29年 1貫匁 20~25円	※昭和28年 1束45円
その他売られていたもの	クツ・スッペ・ソウリ・縄・ゴザ・鍋シキ・山笠・ツグラ・セナコ ウジ・草ボウキ・テカゴ・桑摘みカゴ・茶碗カゴ・カンジキ・桶・ タライ・箱膳・杓子・マナ板・鍋蓋・炬燵ヤグラ・炬燵板・杵・コ				シキ・鍬・鎌・鉈・包丁・大豆・小豆・甘藷・長芋・百合・白菜・ 人参・牛蒡・芋ガラ・葱・八ツ目鰻・雑魚・ドジョウ・山鳥・野兎・ イタチ・鶏卵・飴・納豆・豆腐汁・チンコロ							

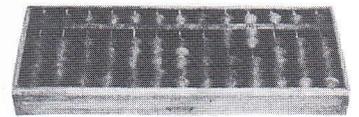
〔商い用〕



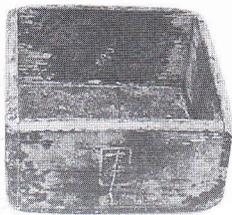
イチゴウマス 4-へ-15
外枠8.4cm 高さ5.5cm 102g
ヒノキ 雑穀等計量用



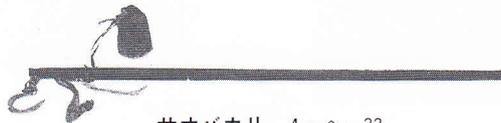
サラバカリ 4-へ-20
棒長さ42cm
鉄・真鍮 雑穀等計量用



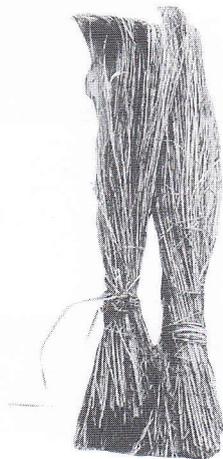
ソロバン 4-へ-25
34.5×8.5cm 高さ1.8cm
木 計算用



イッシュウマス 4-へ-19
外枠17cm 高さ8.7cm 330g
杉 雑穀等計量用



サオバカリ 4-へ-22
棒長さ79cm
鉄 雑穀等計量用



ワラタバ 4-へ-28
全長92cm
薬 足元保温用敷藁



ハサミ 4-へ-24
全長15cm 55g
鉄 布切り用



モノサシ 4-へ-23
長さ90.3cm 幅2.8cm
竹 布等計測用 三尺(鯨尺)

節季市の思い出

●私の父は大工で、冬仕事に作ったマナ板や鍋蓋、炬燵板などを背負って歩いて、市まで売りに行ったものでした。戦時中の大雪が降ったところのことですが、市に行った父は日が暮れても帰ってきません。村に入る道でナゼ(雪崩)にあったのです。村中総出で捜し回りました。母は燈明をあげて必死に無事を祈りました。結局父は雪崩を免れたのですが、土産のワラボシや付木などの荷は全部捨てて、身一つで命からがら帰ってきたのです。

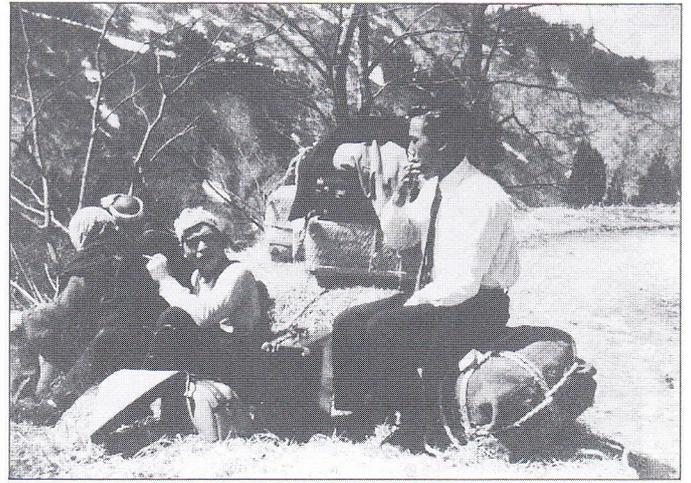
〈市内鉢 尾身さん談〉

●終戦後の2~3年、スッポンやワラグツなどを市に売りに行ったことがあります。家を発つのは朝の3時ごろ。提灯持って、スッポンにカチキ(カンジキ)を履いてね。中条に着くころやつと夜が明け始めて、8時ごろには十日町に着きました。売れ残ったワラグツは、市の近くの商店に買ってもらったけど、店の人に「一足3銭だな。」なんて言われたっけ。それでも帰りには魚之田川では作っていないテカゴやザルやコシキ、それと子供にチンコロを買いました。

〈市内魚之田川 馬場さん談〉

③ 冬稼ぎ用具

冬稼ぎは、冬を徒食^{としよく}するにとどまらず、他地へ働きに出ることで、現在の出稼ぎである。古くは江戸行き、冬働き、雪期（雪季）働きともいった。当時は主に若者の冬の口すぎ（口減し）と社会体験の獲得を目的とし、成人するための通過儀礼ともみられていて、「江戸逃げ」が一種の慣習でもあった。このための用具といっても、旅支度と着替類を運ぶ用具だけである。冬が過ぎて帰郷の時は、見聞のほどを示す意味もあって土産物を用意したが、下図に見るようなものが一般的であった。

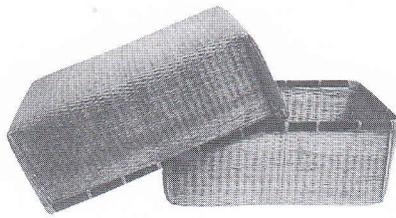


■冬稼ぎから帰郷する人々

〔旅支度用〕



コウリ 4-へ-29
50×34.5cm 高さ21.8cm 1,080g
竹 携帯荷物



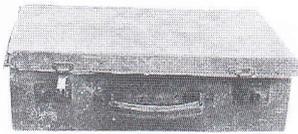
ヤナギゴウリ 4-へ-30
56×38cm 高さ20cm 1,400g
コリヤナギ 携帯荷物



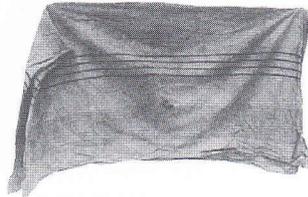
サイフ 4-へ-36
長さ23.5cm 幅14.7cm 47g
木綿 財布



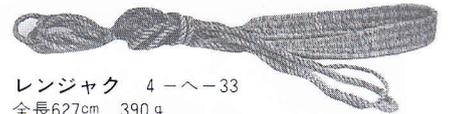
ニツクリナワ 4-へ-32
全長548cm 80g
藁(ヌイゴ) 携帯荷物の荷造り用



トランク 4-へ-34
43.2×26cm 高さ11.7cm 1,460g
革・その他 携帯荷物

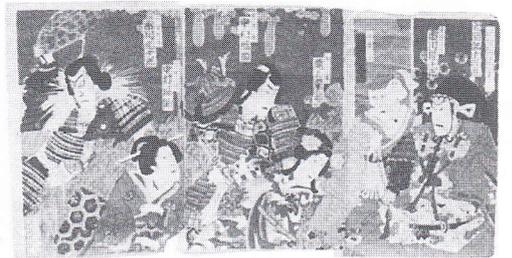
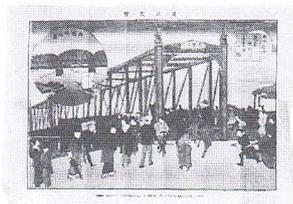


フロシキ 4-へ-35
115×106cm 145g
木綿 携帯荷物



レンジャク 4-へ-33
全長627cm 390g
藁 携帯荷物の背負運搬用

〔みやげもの〕

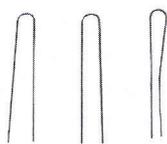


エガミ 4-へ-40
39×54.5cm(右)
27×39.5cm(左)
紙(版画) 名所絵図

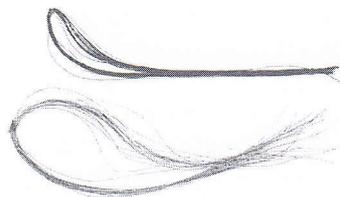
エガミ 4-へ-41
24.7×37.5cm
紙(版画) 芝居絵



ホン 4-へ-49
19×13cm 125g
紙 講談本



カミピン 4-へ-47
長さ10.5cm 3.5g(1本)
金属 髪どめ



モトユイ 4-へ-46
長さ30cm 5g(1束)
紙 元結



ハリ 4-へ-48
長さ6.7cm(最長) 5.4cm(最短)
鉄 縫針

●生産・生業用具品目一覧〈計1,285点〉

イ、脱穀調整等用具 ●種子物保存用具：スジダワラ・サオ・フクロ・フクベ・タネモノカゴ・タネモノイレ ●脱穀調整用具：ムシロ・コキバシ・オトシボウ・マメオトシボウ・センバ・イネコキキ・モミカキ・イガカチ・テギネ・マメドオシ・モミフルイ・モミドオシ・ドウス・ヤリギ・ミ・トウミ・ウス・ツキワ・コメツキギネ・メンパ・マンゴク・コメドオシ・イットマス・トボウ・ハカリ・ムシロダテ・カマス・タワラ・サンダワラ・ジョウゴ・ナワ・コクモンゴシキ・タワラメドオシ・テカギ・サシタケ ●肥引き・灰土撒き用具：コシキ・シャボリ・コイガサ・トウグワ・ヒラグワ・カマス・ミ・カナミ ●牛馬飼育用具：オシキリ・カイバスゴ・エサキザミ・カイバナベ・マゼボウ・スマブクロ・カイバオケ・カイバオケカギ・オモツナ・クツワ・ハナカン・タツナ・コエカギ ●横穴開削用具：ツルハシ・ジョリン・ズリバコ・カタナワ・アカリ・ファイゴロ、手仕事用具 ●糞等細工用具：ワラスグリ・ジョウバイシ・ヨコヅチ・ノメシ・スッペガタ・スッポンガタ・オソカケカタ・ツマカケガタ・サンダワラカタ・ミノックピ・コシタテ・ケエシバリ・トジバリ・ミ・ハツパキアミ・ハツパキオリ・ムシロハタゴ・トメボウ・ムシロオリヒ・ゴザオリヒ・サッコ・タワラアミ・ケタ・アシ・コモツツ・ツクオリ・ツクアミ・ヨリソマキ・オツツオマキ・イトマキ・カマボウチョウ・ハナバサミ・タタミバリ・タケバリ・トジバリ・ウグイスバリ・コクリ・コシキ・ナワ ●製品：スベナワ・コデナワ・ミゴナワ・ニナワ・ハツテナワ・ツルベナワ・チチブテ・アシナカ・ゾウリ・スッペゾウリ・ワラジ・スッペ・スッポン・ワラグツ・シブガラミ・オソカケ・ツマカケ・ハツパキ・スゲボシ・ミノ・マミノ・ムシロ・コムシロ・ゴザ・タテイト・ナベシキ・カマジッタ・ツグラ・メシツグラ・テボウキ・ホウキ・アラマキ・タワラ・サンダワラ・テゴ・ナワテゴ・タス・ニダラ・セナコウジ・コエカゴ・モッコ・カタナワ・トツブクロ・ウマノクツ・ウシノクツ・ハラオビ・タオイ・シリゲ・クツゴ・クワテゴ・ワラダ・カイコゴモ・ツク ●竹細工用具：タケキリガマ・タケワリナタ・カマボウチョウ・ヒゴトオシ・ヒゴヒキ・タケキリバサミ・ハナバサミ・ザルガタ・メサシ ●製品：コメアゲザル・ヤサイザル・ボテ・ワンカゴ・チャワンカゴ・スイノウ・タマリトリ・トウジカゴ・テカゴ・オトシカゴ・クズカゴ・カンジキ・スカリ・シメシカゴ・タネモンカゴ・マメドオシ・ジョウゴ・クワトリカゴ・クワカゴ・ザマカゴ・カイコカゴ・イキヌキ・フクベ・ピク・ドジョウツツ・ウナギツツ・タケヒゴ ●ワタコ等つくり用具：マワタムキ・ハンギレオケ・マワタカケ・ワタコガタ・ソデナシガタ・ナベ・チャワン・ドンブリ・ハケ・マワタ・ソデナシ・ワタコ ●網つくり用具：ヨリカケ・イトマキ・ハサミ・ウグイスバリ・コマ・アシイガタ・カメ・ナゲステアミ・アミ・ヨリソ・アシ

ハ、春木山等用具 ●春木山用具：ナタガマ・ナタ・マサカリ・テマガリノコ・カナヤ・サバノコ・トチガネ・マサカリ・カナヤ・カナヅチ・コロワリダイ ●炭焼き用具：タテマタ・ヒウチイシ・カキケエシ・エツプリ・シャボリ・ジョリン・スベカキ・クマデ・スミキリノコ・スミキリダイ・スミトオシ・コムシロ・スミダワラ・スミダワラアミ・サオバカリ・ナワトオシ・ヤセウマ・ニナワ・セイタ・ニスツポ ●薪拾い用具：ニナワ・ザマカゴ・タキモノヒロイカンサツ・トビグチ・イノチツナ・オキイシ・サバノコ

ニ、狩猟用具 ●猟具：ベエ・ズッペ・マト・ワダラ・ワナ・トラバサミ・ヤリ・トリダシボウ・テッポウ・タマツクリドウグ・ヤツキョウ・カヤクバカリ・フタキリ・ライカン・サクラカン・タマツメ・ヤツキョウバンド・ホジュウケース・ソウジボウ・タマツメバコ ●処理用具：ククリナワ・ハシゴ・コガタナ・ハリイタ・クギ・ホネツツシイシ・ナタ ●その他：ウサギトリカンジキ

ホ、諸職用具 ●木挽き用具：コシキ・スコップ・ダイギリ・マドノ

コ・ソマユキ・オノ・マサカリ・ハガケ・キヤ・カナヤ・カケヤ・カナヅチ・ロップ・キンシャ・カンブチ・ナタ・チョウナ・テマガリ・ヤマノコ・キバン・トビグチ・テンカギ・ツル・キマワシ・カワムキ・リンギ・リンクギ・マガリカネ・アワセジョウギ・スミツボ・スミサシ・ツカミ・カナヅチ・マエビキ・シンギリ・ヒネリヤ・タテビキノコ・ノコギリイレ・ノコギリバサミ・ヤスリ・ヤスリバサミ・アテイタ・ヤスリタテ・メフリ・カナトコ・ハヅチ・カナカンジキ・ドウグブクロ・タス・コビキショウヅク・ヤドウグ ●屋根葺き用具：ヤネヤバリ・ヤネヤガマ・ガツキ・ヤネヤヘラ・マッコ・カヤヒキ・ヤバサミ・ヤネヤショウヅク ●木羽へぎ・木羽葺き用具：マサカリ・テマガリノコ・シンヤ・ワキヤ・サバノコ・カネクサビ・カスガイ・オオワリナタ・オオワリクサビ・クシガタクサビ・オオワリヅチ・コバヘギダイ・コバヘギナタ・テンノウヅチ・コバワク・スギカワムキ・ヤバサミ・コマ・ワリコバ・ウリコバ・スギカワコバ・キリダシ・イリナベ・クギバコ・タケクギ・ブンギ・ケツダイ・カナヅチ・ヤネヅチ・アテガネ・ブリキバサミ・トイシ・ドウグバコ・ワリダシ・ヘイソク・ボンテン・ダイフクチョウ ●桶屋用具：オオワリナタ・ワリガネ・ヨコヅチ・クリゼン・ウチゼン・ソトゼン・ショウジキ・ウチガンナ・ソトガンナ・ソコガンナ・ワキトリガンナ・ヒラガンナ・ケズリダイ・ジョウギ・カタジョウギ・タテビキノコ・オケゴ・ソクイネリ・ブンマタ・キリ・ウチギリ・ミツメギリ・アブラツボ・マワシビキ・ハンヤスリ・タケキリノコ・タケワリナタ・タケセン・タケケズリジョウギ・コガタナ・タケクギ・タガ・カリワ・カナベラ・アテギ・アテガネ・シメギ・サイヅチ・ミズボウキ・ハナバサミ・クギスキ・ケヒキ・クリゾコノミ・ツキノミ・コテノミ・ノミ・ソコトリサオガンナ・シアゲサオガンナ・コグチガンナ・ドウグバコ ●付木つき用具：オオワリナタ・オオワリヅチ・シャクボウ・ナタ・セン・コマケズリダイ・ツケギツキ・ショウジキ・ツキセン・クサビ・サイヅチ・カスガイ・タタキボウ・イオウナベ・イオウイレ・トイシ・センノエ・ツケギ ●紙漉き用具：ヒラガマ・ムシオケ・マッコ・ヒカワトリ・ヒカワトリダイ・カミソリ・ナワ・カミオケ・ツバガマ・カミタタキイシ・カミタタキダイ・タタキボウ・カミソオケ・テオケ・ザル・カミブネ・カンマシボウ・マンガ・ミズキリ・オキボウ・ネレブクロ・スゲタ・ホエズ・タケズ・タツノケ・シメドウグ・コシキ・カミホシイタ・カミホシボウ・ゴミトリ・カミボウキ・カミバケ・エンタチボウチョウ・エンタチジョウギ・エンタチイタ・コウヅカワ・ショウジガミ・スジガミ・チリガミ・ニマイスキ・エンタチガミ ●箕つくり用具：ナタ・ナタガマ・ナワ・ニナワ・セナコウジ・アテギ・ジョウバイシ・ヨコヅチ・タケワリナタ・ヘタテボウ・ユミ・タチ・シャクボウ・テミズオケ・ヒラキリ・マルキリ・ヤットコ・ハナバサミ・フチタタキボウ・キリダシ・トイシ・ヤマダケ・ワリダケ・フジツル・サクラガワ・ブリキ・ミ・ツマジリカゴ・ミズカゴ ●鍛冶屋等用具：ファイゴ・カナトコ・ハシ・テヅチ・ムコウヅチ・アゴヅチ・エタガネ・ヒシキリ・メウチダイ・ハチス・タテマンリキ・クワ・カマ・カナトコ・ミゾキリ・クギメキリ・エツキメウチ・テツカン・テイテツ・ハナネヅリボウ・ツメキリ・ウラスキ・カクメウチ・チョウセツウ・テツビキリ・テツビキリツチ・テツビキリカナジキ・クギ・ソウテイツチ・テイロ

へ、その他生産・生業用具 ●桐囲い等用具：キリカコイ・クワカコイ・スギオコシ ●節季市用具：コシキ・タケザオ・ナワ・スダレ・アマド・ハリイタ・コモ・オケ・イチゴウマス・ゴゴウマス・イッシュウマス・サラバカリ・サオバカリ・モノサシ・ハサミ・ソロバン・サイフ・ワラタバ ●冬稼ぎ用具：コウリ・ヤナギゴウリ・ニヅクリナワ・レンジヤク・トランク・フロシキ・サイフ・エガミ・モトユイ・カミピン・ハリ・ホン